

見よ、これが道である

イラスト入りのみ言葉の学び



ウーラス・サールニワーラ 著

宮崎茂訳

目次

1. 私達の寿命
2. 二つの道
3. 神の一般的な啓示
 - A. 創造の御業
 - B. 諸国民の歴史
 - C. 人生の経験
 - D. 良心
4. 神の特別啓示
 - A. 神の御言葉、聖書
 - B. 聖書の働き
5. ルーテル教会信条書
6. 神
 - A. 三位一体としての神
 - B. 神の本質と特質
7. 創造
8. 人間の本来の状態と創造の秩序
9. 罪への墮落と人間の罪深い状態
10. イエス・キリストとその御業
 - A. キリストは神であり、彼を通して全てのものは造られた
 - B. キリストの受肉と三つの「職務」
 - C. キリストの死からの復活
 - D. キリストの昇天
 - E. キリストによる私達のために備えられた三重の救い
11. 聖霊とその業
 - A. 聖霊はどのように受け取ることができるのか
 - B. 御霊の働き
 - C. 聖霊から出た恵みの賜物
12. 神のみ国とキリストの教会
13. 教会の奉仕と職務
14. 回心——新生——入信
15. 恵みの手段
 - A. 聖書の御言葉をのべ伝えることと教えること
 - B. 礼典
 - C. 洗礼
 - D. 聖餐
 - E. 告白と謝罪
16. クリスマン生活
 - A. 導きと光としての御言葉
 - B. 改めてなされる悔い改め
 - C. 祈りの生活
17. クリスマンの実りと奉仕
18. クリスマンの一致
19. 海外宣教
20. 結婚と家庭
21. 政治的国家社会におけるクリスマン
22. 神の選びと人の責任
23. 肉体的な死とそれに続くもの
24. この世とキリスト信仰における最後の出来事
 - A. イスラエル
 - B. 政治的世界
 - C. 反キリスト者とその「バビロン」の背教者の教会
 - D. ハルマゲドンの戦いとキリストの再臨
25. 千年王国、最後のさばき、および新しい地

序

聖書は私達のための言葉であり、私達にどのようにして、キリストにある救いと新しい命を見出し、どのようにして、キリストに従い、仕え、罪への誘惑に打ち勝つことができるかを示してくれる。聖書はまた、私達に、私達の生きている時代について神の賜った預言的情報を提供してくれる。それはいかにして、私達の地上での生活が天のみ国の家に行くことができるかを教えてくれる。聖書からの直接の引用によってこの書は簡単な象徴的なイラストにより、これらすべての重要な事柄についての解説をしている。

イエスは言われた。「あなたがたはこれらすべてのことを知っているなら、それを行なうときに、あなたがたは祝福されるのです。」(ヨハネ13:17)

「わたしが道であり、真理であり、命なのです。わたしを通してでなければ、誰ひとり父のみもとに来ることはできません。」(ヨハネ14:6)

ウーラス・サールニヴァーラ

1986年4月 リュットウラにて

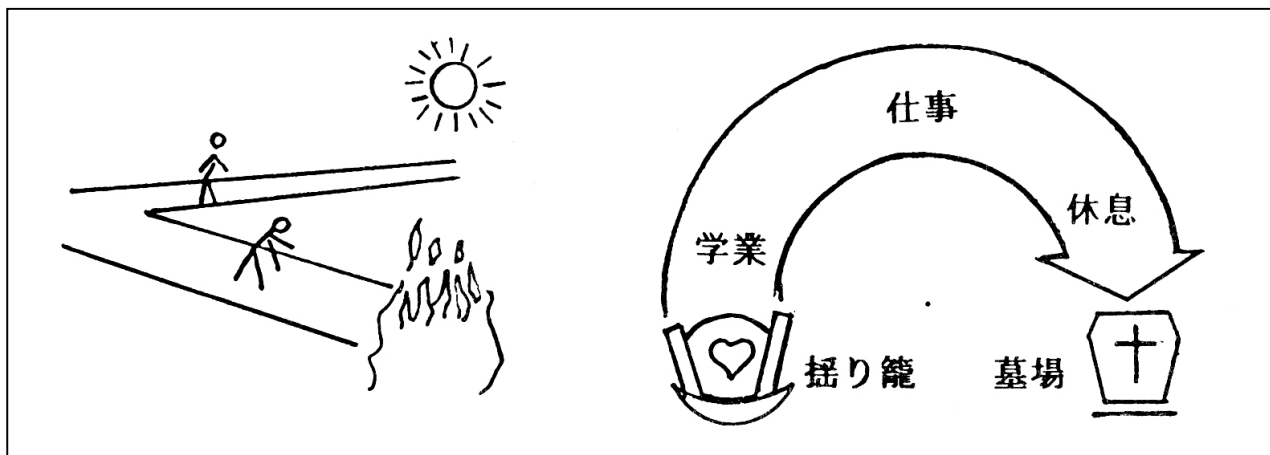
1. 私達の寿命

「私達の齢は70年、しかも、その誇りとするところは労苦と災いです。それは早く過ぎ去り、私達も飛び去るのです。… それゆえ、私達に自分の日を正しく数えることを教えて下さい。そして、私達に知恵の心を得させて下さい。」(詩篇90:10、12)

「そして、人間には、一度死ぬことと死後に裁きを受けることが定められているように」(ヘブル9:27)

「神は善であれ悪であれ、すべてに隠されたことについて全ての業を裁かれる」(伝道12:14)

「なぜなら、私達はみな、キリストの裁きの座に現われて、善であれ、慈であれ、各自その肉体にあってした行為に応じて、報いを受けることになるからです。」(第2コリント5:10)



2. 二つの道

「四つ辻に立って見渡し、昔からの通り道、幸いの道はどこにあるかを尋ね、それを歩んで、あなたがたの憩いを見出せ。」(エレミヤ6:16)

「狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広いからです。そして、そこから入っていくものが多いのです。命に至る門は小さく、その道は狭く、それを見出す者は希です。」(マタイ7:13-14)

「人の目にはまっすぐに見える道がある。その道の終りは死の道である。」(箴言14:12)

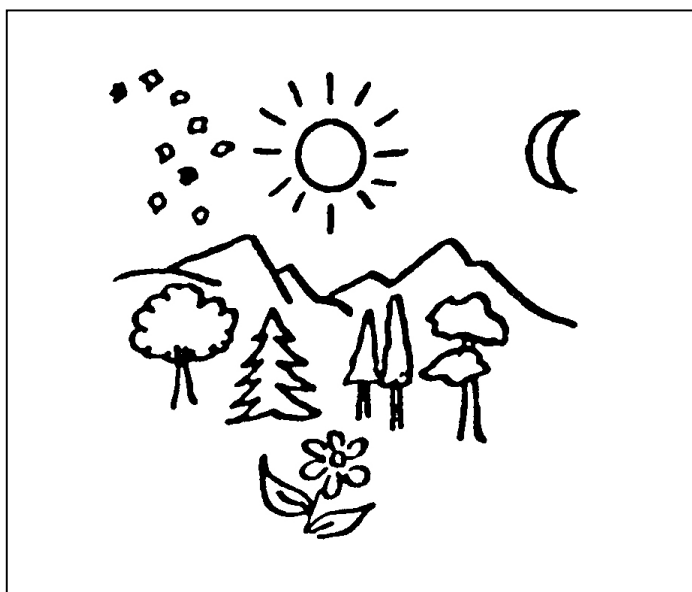
「幸いなことよ。悪者の計りごとに歩まず、罪人の道に立たず、あざけるものの座に付かなかったその人。誠に、その人は主の教えを喜びとし、昼も夜もその教えを口ずさむ。その人は、水路のそばに植わった木のような。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。

そめ人は何をしても栄える。悪者はそれとは違い、まさしく、風が吹き飛ばす穀殻のようだ。… 誠に、主は、正しい者の道を知っておられる。しかし、悪者の道は滅びる。」(詩篇1:1-4、6)

3. 神の一般的な啓示

A. 創造の御業

「目をあげて、誰がこれらを創造したかを見よ。この方はその万象を数えて呼び出し、一つ一つ、その名をもって、呼ばれる。この方は勢力に満ち、その力は強い。一つも漏れることはない。」(イザヤ40:26)



「天は神の栄光を語り告げ、大空は御手の業を告げ知らせる。」(詩篇19:1)

「神の目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神聖は世界の創造された時このかた、被造物によってはっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。」(ローマ1:20)

「愚かものは心の中で『神はいない。』と言っている。彼らは腐っており、忌まわしいことを行なっている。善を行なう者はいない。」(詩篇14:1)

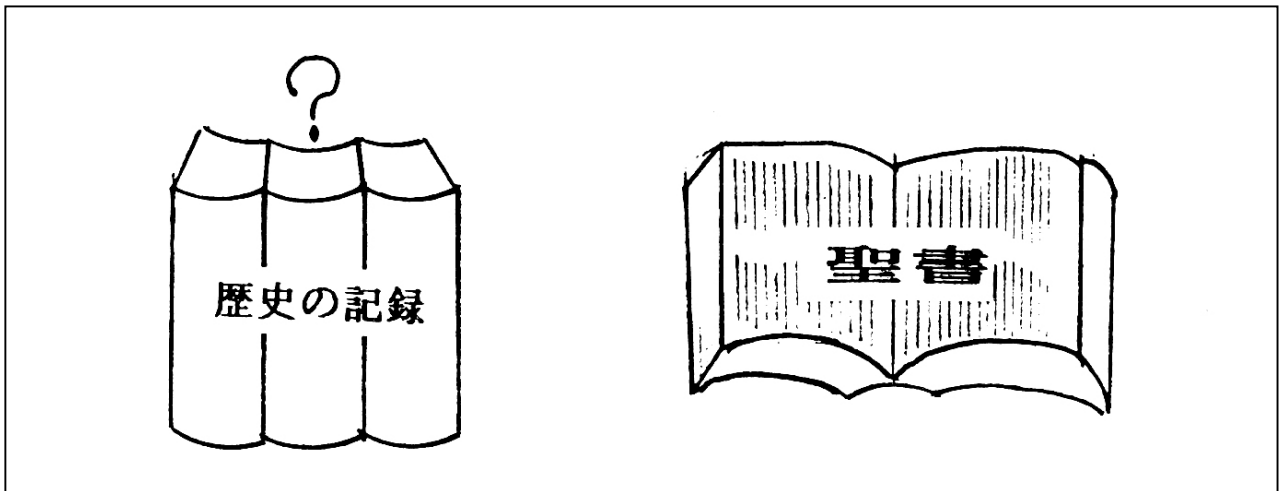
「というのは、肉の思いは神に対して反抗するものだからです。それは神の律法に服従しません。いや、服従できないのです。」(ローマ8:7)

B. 諸国民の歴史

「正義は国を高め、罪は国民を辱める。」(箴言14:34)

「責められても、なお、うなじの怖いものはたちまち滅ぼされて癒されることはない。」(箴言29:1)

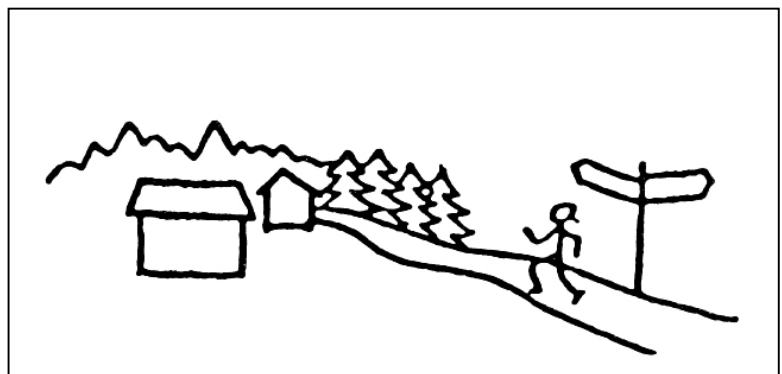
「私が一つの国、一つの王国について引き抜き、引き倒し、滅ぼすと語ったその時、もし、私が災いを予告したその民が悔い改めるなら、私は下そうと思っていた災いを、思い直す。私が一つの国、一つの王国について、建て直し植えると語ったその時、もし、それが私の声に聞き従わず、私の目の前に慈を行なうなら、私は、それに与えるといった幸せを思い直す。さあ、今、ユダの人とエルサレムの住民に言え。『主はこう抑せられる。見よ、私は、あなたがたに対して、災いを考え、あなたがたを責める計画を立てている。さあ、各々悪の道から立ち返り、あなたがたの行ないと業とを改めよ。』」(エレミヤ18:7-11)



C. 人生の経験

「悪者は心の痛みが多い。しかし、主に信頼するものには、恵みがその人を取り囲む。」(詩篇32:10)

「思い違いをしてはいけません。神は侮られるような方ではありません。人は種を蒔けば、その刈り取りもすることになります。自分の肉のために蒔くものは肉から滅びを刈り取り、御霊のために蒔くものは御霊から永遠の命を刈り取るの



です。」(ガラテヤ6:7-8)

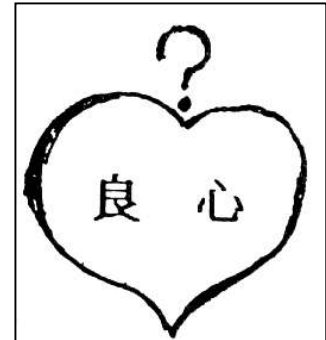
「なぜなら、彼らは知識を憎み、主を恐れることを選ばず、私の忠告を好まず、私の叱責をことごとく侮ったからである。それで、彼らは自分の行ないの実を食らい、自分の企みに飽きるであろう。わきまえの無い背信は自分を殺し、愚かなものの安心は自分を滅ぼす。しかし、わたしに聞き従うものは、安全にすまい、災いを恐れることもなく、安らかである。」(箴言1:29-33)

「御子を持つ者は永遠の命を持つが、御子に聞き従わない者は、命を見ることがなく、神の怒りがその上にとどまる。」(ヨハネ3:36)

D. 良心

「彼らはそれを聞くと年長者から出て行き、一人一人でていき、イエスが一人残された。」(ヨハネ8:9)

「…律法を持たない異邦人が生まれつきのままで律法の命じる行ないをする場合は、律法を持たなくても、自分自身が自分に対する律法なのです。彼らはこの様にして、律法の命じる行ないが、彼らの心に書かれていることを示しています。彼らの良心も一緒になって証し、また、彼らの思いは互いに責め合ったり、また、弁明し合ったりしています。」(ローマ2:14-15)



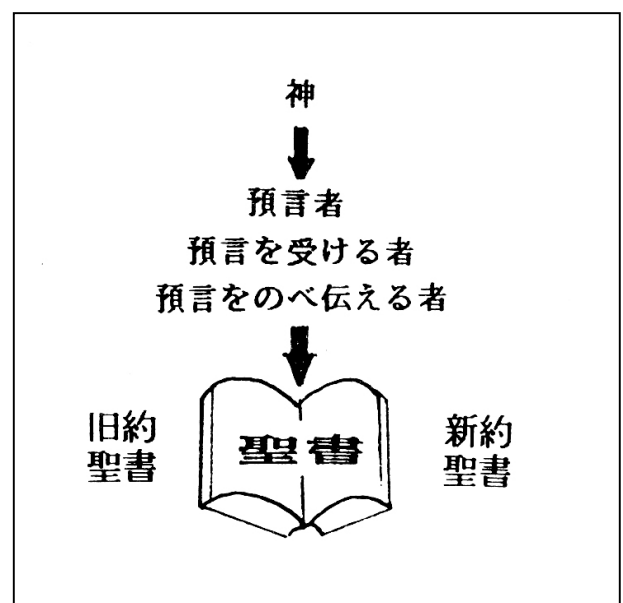
4. 神の特別啓示

A. 神の御言葉、聖書

多くの非キリスト教的な宗教は自分たちの『聖なる書物』をもっている。すなわち、イスラム教徒はコーランを、ヒンズー教徒はベダを持っている。聖書はこれらのすべての宗教について次のように言っている。すなわち、「まことに、国々の民の神々はみな、むなし。しかし主は、天をお造りになった。」(詩篇96:5)「いや、彼らの捧げ物は、神にではなくて悪霊に捧げられている、と言っているのです。」(第一コリント10:20)それゆえ、非キリスト教的宗教による救いや命などはありません。「このかた以外には、誰によっても救いはありません。世界中でこの御名のほかに、私達が救われるべき名としては、どのような名も人間に与えられていないからです。」(使徒の働き4:12)

イエスは神の御言葉である聖書の言葉を語られた。「真理によって彼らをきよめ別ってください。あなたの御言葉は真理です。」(ヨハネ17:17)イザヤ書40:6はこのことについて次のように言っている。「草は粘れ、花はしぼむ。ただ、私達の神の言葉は永遠に立つ。」御自分の御言葉でもってイエスは言われる、「この天地は滅び去ります。しかし、私の言葉は決して滅びることがありません。」(マタイ4:35)「私を拒み、私の言うことを受入れない者には、その人を裁くものがあります。私が話した言葉が終りの日にその人を裁くのです。」(ヨハネ12:48)

聖書を書いた聖人達は、どのようにして、聖書が与えられたかを次のように言っている。



「なぜなら、預言は決して人間の意志によってもたらされたのではなく、聖霊に動かされた人達が、神からの言葉を語ったのだからです。」(第2ペテロ1:21)

「聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。それは、神の人が、すべてのよい働きのためにふさわしい十分に整えられたものとなるためです。」(第2テモテ3:16-17)

「神は昔、先祖達に、預言者たちを通して、多くの部分に分け、また、いろいろな方法で語られました。神は万物の相続者とし、また御子によって、世界を造られました。」(ヘブル1:1-2)

「主よ。あなたの御言葉は、とこしえから、天において定まっています。… あなたの御言葉は私の足の灯、私の道の光です。… あなたの悟はくすしく、それ故、私の魂はそれを守ります。御言葉の戸が開くと、光が差し込み、わきまのない者に悟りを与えます。… あなたの御言葉によって、私の歩みを確かにし、どんな罪にも、私を支配させないでください。… あなたの御言葉は、よく練られていて、あなたの僕は、それを愛しています。… 御言葉のすべては、誠です。あなたの義の裁きはことごとく、とこしえに至ります。」(詩篇119:89、114、12-130、140、160)


B. 聖書の働き


「幸いなことよ。悪者の計りごとに歩まず、罪人の道に立たず、あざけるものの座につかなかったその人。まことに、その人は主の教えを喜びとし、昼も夜も、その教えを口ずさむ。その人は水路のそばにうわった木のような。時が来ると実がなり、その葉は粘れない。その人は何をしても栄える。」(詩篇1:1-3)

「どのようにして若い人は自分の道をきよく保てるでしょうか。あなたの言葉に従ってそれを守ることです。私は心を尽くして、あなたに罪を犯さないため、私はあなたの言葉を

心に蓄えました。」(詩篇119:11)

「神の言葉は、すべて純粹。神はより頼む者の盾。神の言葉の付け足しをしてはならない。神があなたを責めないように、あなたがまやかし者とされないように。」(箴言30:5、6)

私達が聖書を読むとき		
神は私達の目を通してお語りになる		神は私達の耳を通してお語りになる
神の言葉は私達の理解を啓発してくれる		神の言葉は天の御国に通じる正しい道を歩むように導いてくださる

	少なくとも毎朝毎晩祈りつつ聖書を読め。
	聖書を神の言葉と信じよ。(第1テサロニケ2:13)
	読んだ御言葉を守り、それを読む者また聞く者だけにならないで行なう者となる恵みを祈り求めよ。(ヤコブ1:22)
	そうすれば聖書に約束されている祝福を受ける。(第2ペテロ1:4)
	読んだことまた、受けた祝福を外の者に語れ。

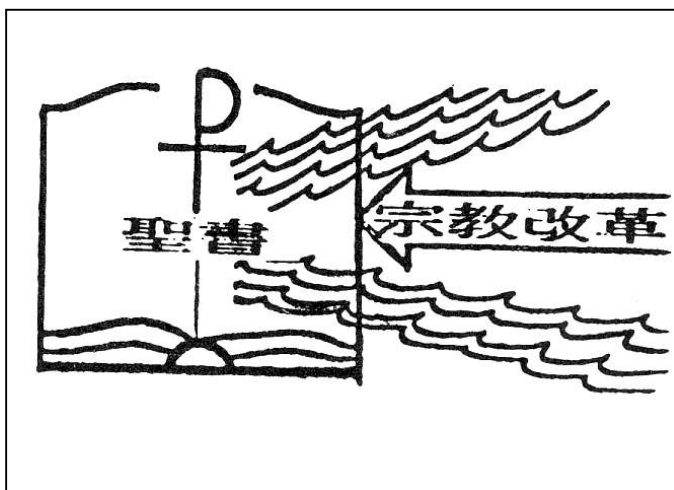
「神の言葉は生きていて、力があり、両刃の剣より鋭く、魂と霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。」(ヘブル4:12)

「人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つの言葉による。」(マタイ4:4)「いや幸いなのは、神の言葉を聞いてそれを守る人達です。」(ルカ11:28)

「この預言の言葉を朗読する者と、そこに書かれていることを心にとめる人々は幸いである。」(ヨハネ黙1:3)

5. ルーテル教会信条書

キリストへの信仰をとおして、私達は人々の前でキリストを告白するように導かれる。これは、信仰の欠くことのできない実りである。イエスは言われた、「ですから、私を人の前で認めるものはみな、私も、天におられる私の父の前でその人を認めます。」(マタイ10:32)使徒パウロは書いている、「なぜなら、もし、あなたの口で、イエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中から蘇らせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。人は心に信じて、義と認められ、口で告白して救われるのです。」(ローマ10:9、10)



いつの時代にも、誤ったことを教えるものは、神の民を御言葉の真理から離れ誘うとしてきた。それゆえ、イエスは警告された、「にせ預言者たちに気をつけなさい。彼らは羊のなりをしてやってくるが、うちは貪欲な狼です。」(マタイ7:15)また、「あなたが他の学んだ教えに背いて、分裂とつまづきを引き起こす人達を警戒してください。彼らから遠ざかりなさい。そういう人達は、私達の主キリストに仕えないで、自分の欲に仕えているのです。彼らは、滑らかな言葉でへつらいの言葉をもって純朴な人達の心を騙しているのです。」(ローマ16:17-18)ユダはクリスチャンたちに勧めている、「私はあなたがたに、私達がともに受けている救いについて、手紙を書こうとして、あらゆる努力をしていましたが、聖徒に一度伝えられた信仰のために敏うよう、あなたがたに勧める手紙を書く必要が生じました。」(ユダ3)

クリスチャン達の自分の信仰の主な真理を告白し、誤った教えを拒否できる助けとして、教会(ルーテル教会)は告白信条と呼ばれる聖書の真理のおもな要点を要約した短い声明文、および、さらに、より幅広い説明を施した信条書と呼ばれるものを作成した。これらの狙い、又は、目的は非聖書的な誤った教義や見解に対抗して、聖書を指摘し神の御言葉が何とっているかを示すことである。

「使徒信条は最も古い信条声明であり、使徒たちによって教えられた聖書の真理の主要点を表わしている。この信条、洗礼告白として、用いられてきている。また、ニケヤ信条は、使徒信条の拡大された形式をとっており、キリストの真の神性および、キリストの真の人間性また、聖霊の人格を否定する者たちに対抗して、聖書的な真理を定めたものである。この信条は西暦325年にニケヤで開かれたニケヤ教会会議および381年のコンスタンチノーブル(今日のイスタンブール)会議で作成さ

れたものである。またアタナシウス信条は、更に詳しく、これらの信条を定義したものである。この信条の名は当時アレキサンドリヤ教区の大監督であったアタナシウスに由来しており、かれはこれらの信条の中で打ち出されている諸真理の弁明と防衛に携わった第一人者であった。

16世紀の福音的あるいはプロテスタント改革はマルチン・ルター（1483－1546）によって始められた。この改革はローマ・カトリック教会の非聖書的な教義および実践に対して、聖書の権威と教えを弁明した。ルーテル教会信条書は和解書（1580に作成された）に含まれている。このほかに、それは、教皇の権限と特権に関する論文（1537）を含んでいる。ルーテル教会信条書は神の言葉である聖書がクリスチャンの教義と指導の最高の唯一の権威であり、他のすべての書や教えはこの基準によって試され、判断されなければならない。

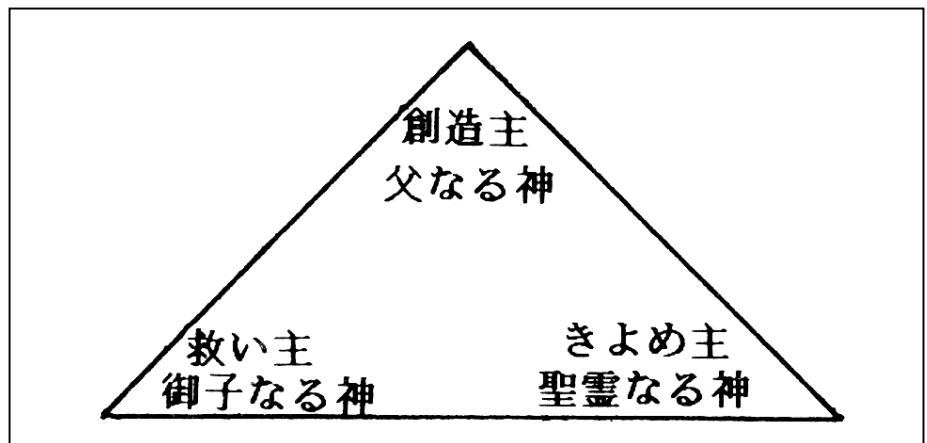
6. 神

A. 三位一体としての神

ユダヤ教徒、シーク教徒、また、その他の非キリスト教徒達は唯一の神を信じているが、神の御子としてのキリストを信じていないし、また、聖霊を三位一体の第三の人格として信じない。

キリスト信仰のみが神が三つの人格における唯一のお方であると教えている。三角形が三つの角を持っているように、また、面積が三つの広がりを持っている（長さ、幅、および、高さ）のように、父なる神、御子なる神、そして聖霊なる神は唯一の神である。聖書は次のように語っている、「主は私達の神。主はただひとりである。」(申命5:4)

クリスチャンの洗礼は「父、御子、聖霊の御名によって」授けられる。(マタイ28:19)



また、使徒の祝福は第2コリント1:13で次のように宣言される。「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがたすべてとともにありますように。」

人間は神の啓示のみによって神を知ることができる。「なぜなら、神について知りうることは、彼らに明らかであるからです。それは神が明らかにされたのです。」(ローマ1:19)

神はこのことを最初の人々から色々な方法で行なってこられたが、御子キリストを通して、更に完全になさって下さった。

「すべてのものが私の父から私に渡されています。それで、父のほかに子を知るものがなく、子と子が父を知らせようと心に定めた人のほかは誰も父を知る者がありません。」(マタイ11:27)

「いまだかつて神を見たものはいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。」(ヨハネ1:18)

聖霊は（聖書を通して）私達にどのようにして、キリストを通して、神を知ることができるかを教えておられる。それは私達のうちに溶け込んだ心の知識としての経験となるためである。

「しかし、助けぬし、すなわち、父が私の名によって、お使わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、私があなたがたに話したすべてのことを思い起こして下さいます。…しかし、真理の御霊が来ると、あなたがたをすべて真理に導きます。御霊は自分から語るのではなく、聞くままを話し、又、やがて起ころうとしていることをあなたがたに示すからです。御霊は私の栄光を現わします。わたしのものを受けて、あなたがたに知らせるからです。」(ヨハネ14:26;16:13-14)

B. 神の本質と特質

神は遍在される霊である

「神は霊ですから、神を礼拝するものは、霊と誠によって礼拝しなければならない。」(ヨハネ4:24)

「神ははたして地の上に住まわれるのでしょうか。実に、天も、天の天もあなたをお入れすることはできません。」(第1列王記8:27)

「私は近くにいれば神なのか——主のみつげ——遠くにいれば、神ではないのか。人が隠れたところに身を隠したら、私は満ちているではないか。主のみつげ。」(エレミヤ23:23、24)

「… 天は私の王座、地は私の足台。」(イザヤ66:1)

神は永遠であり変わることはない

「山々が生まれる前から、あなたが地と世界とを生みだす前から、まことに、とこしえからとこしえまであなたは神です。」(詩篇90:2)

「あなたははるか以前に基を据えられました。天も、あなたの御手の業です。これらのものは滅びるでしょう。しかし、あなたはながらえられます。… しかし、あなたは変わることがなく、あなたの年は尽きることがありません。」(詩篇102:25-27)

「昔よりの神は住む家。永遠の腕が下に。」(申命33:27)

「主は永遠の神、地の果てまで創造されたかた。疲れることなく、たゆむことなく、その英知は測り知れない。」(イザヤ40:28)

神は全知全能のかたである

「主は望むところをことごとく行なわれる。天で、地で、海で、またすべての淵で。」(詩篇135:6)

「それは人にはできないことですが、神は、そうではありません。どんなことでも神はできるのです。」(マルコ10:27)

「わたしが神である。ほかにはいない。わたしのような神はいない。わたしは、終わりの事を初めから告げ、まだなされていないことを昔から告げ、『わたしのはかりごとをすべて成し遂げる』という」(イザヤ46:9-10)

「われらの主は偉大であり、力に富み、その英知は測りがたい。」(詩篇147:5)

「ああ、神の知恵とその富は、何と底知れず、深いことでしょう。」(ローマ11:33)

「… あなたはその心を知っておられます。あなただけがすべての人の心を知っておられるからです。それはあなたが私達の先祖に賜った地の上で彼らが生きながらえる間、いつも彼らがあなたを恐れるためです」(第1列王記8:39、40)

「主よ。あなたの御業はなんと多いことでしょう。あなたはそれらをみな、知恵をもって造っておられます。地はあなたの造られたもので満ちています。」(詩篇104:24)

神聖な敬意と崇拝は神のみに属する

「あなたの神である主を拝み、主にだけ仕えよ。」(マタイ:4、10)

「わたしは主、これがわたしの名。わたしの栄光を他の者にわたしの栄誉を刻んだ像どもに与えはしない。」
(イザヤ42:8)

「まことに、国々の民の神々は、むなし。しかし、主は天をお造りになった。… 御名の栄光を主に捧げよ。
…」(詩篇96:5、8)

使徒ヨハネが自分に起ころうとしていることを啓示した御使いを拝もうとして、その足下にひれ伏した時、御使いはヨハネにいった、「いけません。わたしは、あなたや、イエスの証しを堅く保っている兄弟達と同じ僕です。神を拝みなさい。… やめなさい。私は、あなたや、あなたの兄弟である預言者たちや、この書の言葉をかたく守る人々と同じ僕です。神を拝みなさい。」(ヨハネ黙示録19:10;22:8、9)

神は命の泉である

「わたしの民は二つの悪を行なった。湧き水の泉であるわたしを捨てて、多くの水ためを、水をためることのできない、壊れた水ためを、自分たちのために掘ったのだ。」(エレミヤ2:13)

「いのちの泉はあなたにあり、私たちは、あなたの光のうちに光を見るからです。」(詩篇36:9)

「だれでも渴いているなら、わたしのもとにきて飲みなさい。私を信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、いける川の水が流れ出るようになる。」(ヨハネ7:37-38)

「… もし、あなたが神の賜物を知り、また、あなたに水を飲ませてくれと言うものがだれであるかを知っていたなら、あなたのほうでそれを求めたことでしょう。」(ヨハネ4:10)

「それは、父が御自身のうちにいのちを持っておられるように、子にも、自分のうちにいのちを持つようになさるからです。… それなのに、あなたがたは、いのちを得るために私のもとに来ようとはしません。」(ヨハネ5:26、40)

「御子を信じるものは永遠の命をもつが、御子に聞き従わないものは、いのちを見ることなく、神の怒りがその上にとどまる。」(ヨハネ3:36)

神はきよく義なるかたである

「主は岩、主のみ業は完全。まことに、主の道はみな正しい。主は真実の神で偽りがなく、正しいかた、まっすぐな方である。」(申命記32:4)

「というのは、不義をもって真理を阻んでいる人々のあらゆる不敬虔と不正に対して神の怒りが天から啓示されているからです。」(ローマ1:18)

「しかし、もし、そのようにしないなら、いまや、あなたがたは、主に対して罪を犯したのだ。あなたがたの罪の罰があることを思い知りなさい。」(民数記32:23)

「… 全ての違反と不従順が当然の処罰を受けたとすれば …」(ヘブル2:2)

「主は義によって世界を裁き、公正をもって、国民に裁きを行われる。」(詩篇9:8)

神は慈愛と愛とに満ちた慈愛深いお方である

「神は怒るのに遅く、恵み豊かである。咎と背きを赦すが、罰すべきものは必ず罰して、父の咎を子に報い、三代、四代に及ぼす。」(民数記14:18)

「ハレルヤ。主に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで。」(詩篇

106: 1)

「しかし、私達がまだ罪人であったとき、キリストが私達のために死んで下さったことにより、神は私達に対する御自身の愛を明らかにしておられます。」(ローマ5:8)

「神はそのひとり子を世に遣わし、そのかたによって私達にいのちを得させて下さいました。ここに神の愛が私達に示されたのです。わたしたちが神を愛したのではなく、神が私達を愛し、私達の罪のためのなだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」(第一ヨハネ4:9-10)

「永遠の愛をもって、わたしはあなたを愛した。それゆえ、わたしはあなたに誠実を尽くし続けた。」(エレミヤ31:3)

「しかし、私達の救い主なる神の慈しみと人への愛が現われたとき、神は、私達が行なった義のわざによってではなく、御自分の哀れみの故に、聖霊による新生と更新との洗いをもって私達を救って下さいました。」(テトス3:4、5)

「すべての人は罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによるあがないのゆえに、価なしに義と認められるのです。神はキリスト・イエスをその血による、又、信仰によるなだめの供え物として、公にお示しになりました。それは御自身の義を現わすためです。…」(ローマ3:23-25)

7. 創造

天地の創造

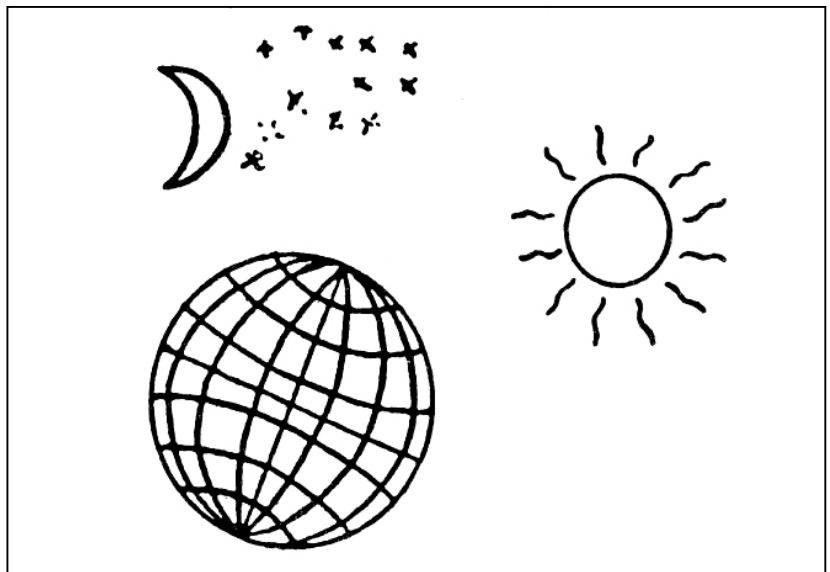
「初めに、神が天と地を創造した。… それで神は二つの大きな光るものを造られた。大きいほうの光るものには昼をつかさどらせ、小さいほう

の光るものには夜をつかさどらせた。また、星を造られた。神はそれらを天の大空に置き、地上を照らさせ、また昼と夜とをつかさどり、光と闇とを区別するようになされた。神は見て、それをよしとされた。」(創世1:1、16-18)

「ついで神は『大空よ。水の間になあれ。水と水との間に区別があるように。』と仰せられた。」(創世1:6-8)

1章7-8節と14-17節の

言葉は「天の大空」が雲と地上の間の大気とその外の星空を意味していることを示している。イザヤ書40章22節は神が「主は地をおおう天蓋の上に住われる。… 主は天を薄絹のように延べ、これを天幕のように広げて住われる。」ことを示している。



植物と動物の創造

「神が『地は植物、種を生じる草、種類にしたがって、その中に種のある実を結ぶ果樹を地の上に芽生えさせよ。』と仰せられると、そのようになった。それで、地は植物、おのおのその種類にしたがって、その中に種のある実を結ぶ木を生じた。神は見てそれをよしとされた。… ついで神は、『地は、その種類にしたがって家

畜、その種類にしたがって他のすべてのこのものを造られた。神は見て、それをよしとされた。』…」(創世記11:11、12:24、25)

人の創造

「そして神は、『我々に似るように、我々の形に、人を造ろう。そして彼らに、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地を這うすべてのものを支配させよう。』と仰せられた。神はこのように、人を御自身の形に創造された。神の形に彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。… その後、神であられる主は、地の塵で人を形づくり、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。そこで、人は、生き物となった。… そこで神である主が深い眠りをその人に下されたので彼は眠った。それで、彼のあばら骨の一つをとり、そのところの肉をふさがれた。こうして神である主は人からとったあばら骨を一人の女に造りあげ、その女を人のところに連れてこられた。すると人はいった、『これこそ、いまや、私の骨からの骨、私の肉からの肉。これを女と名づけよう。これは男からとられたのだから。』それゆえ、男はその父、母からはなれ、妻と結びあい、ふたりは一体となるのである。」(創世記1:26-27;21-24)

「信仰によって、私達は这个世界が神の言葉で造られたことを悟り、従って、見えるものが目に見えるものからできたのではないことを悟るのです。」(ヘブル11:3)

人、動物、および植物は「それらの種類にしたがって」再産される。それらの種類は、遺伝子組織の抑制指導によって生じる。DNAは4つの記号を持った記号組織構造を持っており、生きたコンピューターの様な機能を持っている。このような組織構造が科学的な計画によって自然に生じたとするのはまったく不可能なことである。これは神によって創造されたものであると考えるより外に可能性がない。遺伝子組織は卵子、精子から至るまでの成長を管理している。人間は又、霊的な命の面を持っている。それは神が御自身の姿に人間を造られたからである。人間の「霊」は性格を含んでいる。死後、人間は見えない世界、つまり、天の御国においてか、あるいはまた、地獄のあがきのうちのどちらかで生きつづける。



見えない世界

神は御子キリストをとおしてすべてをお造りになった。「なぜなら、万物は御子によって造られたからです。天にあるもの、地にあるもの、見えるもの、又、見えないもの、王座も、主権も支配も権威も、すべて御子によって造られたのです。」(コロサイ1:16)

物質的な見える天(空)の外に、神はいろいろな階級と役目を持った御使いの力を備えている、見えない天をも造られた。

「神は、かつてどの御使いにむかって、こう言われたでしょう、『私があなたの敵をあなたの足台とするまでは、私の右の座についていなさい。』御使いはみな、仕える霊であって、救いの相続人となる人々に仕えるため遣わされたものではありませんか。」(ヘブル1:13-14)

御使いは死ぬことがない。

「彼らはもう死ぬことができないからです。彼らは御使いのようであり、又、復活の子として神の子供だからです。」(ルカ20:36)

黙示録は5章11節で、「… その数は万の幾万倍、千の幾千倍であった。」と言っているが、恐らくこの数は御使いのすべての数ではないと思われる。

次の聖書諸箇所は、御使いの働きのいくつかを示すものである。

「主をほめたたえよ。御使いたちよ。御言葉の声にしたがい、御言葉を行なう力ある勇士たちよ。」(詩篇103:20)

「まことに主は、あなたのために、御使い達に命じて、すべての道で、あなたを守るようにされる。」(詩篇91:11)

「では、律法とは何でしょうか。それは約束をお受けになったこの子孫が来られるときまで、違反を示すために付け加えられたもので、御使いたちを通して仲介者の手で定められたのです。」(ガラテヤ3:19)

「彼がこのことを思いめぐらしたとき、主の使いが夢に現われていった。…」(マタイ1:20)

「… ですから、毒麦が集められて、火で焼かれるように、この世の終わりにもそのようになります。人の子はその御使いたちを遣わします。彼らは、つまずきを与えるものや不法を行なうものたちをみな、御国から取り集めて、火の燃える炉に投げ込みます。彼らは泣いて、歯ぎしりするのです。」(マタイ13:40-42)

「その時、人の子のしるしが天に現われます。すると、地上のあらゆる種族は悲しみながら、人の子が大能と輝かしい栄光を帯びて天の雲に乗ってくるのを見るのです。人の子は大きなラツパの響きとともに、御使いたちを遣わします。」(マタイ24:30-31)

見えない悪魔の力

御使い達の一部である高い地位の御使いはサタンによって導かれ神に反逆し闇の王国に組織された。

「神は、罪を犯した御使い達を容赦なく地獄に引き渡し、裁きのときまで、暗闇の穴の中にとじこめてしまわれました。」(第2ペテロ2:4)

墮落した御使いたちの指導者は「悪魔とかサタンと呼ばれて、全世界を惑わす、あの古い蛇 …」である。(黙示12:9)

「あなたがたはあなたがたの父である悪魔から出たものであって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。悪魔は初めから人殺しであり、真理に立つてはいません。彼のうちには、真理がないからです。彼が偽りを言うときは、自分にふさわしい話し力をしているのです。なぜなら彼は偽りものであり、又、偽りの父であるからです。」(ヨハネ8:44)

「サタン」又、「この世の神」とも呼ばれ、「不信者の思いを眩ませて、神の形であるキリストの栄光にかかわる福音の光を輝かせないようにしている」のである。(第2コリント4:4)

私達クリスチャンはつぎのように勧められている、「悪魔の策略にたいして、立ち向かうことができるために、神のすべての武具を身につけなさい。私達の格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗闇の世界の支配者たち、又、天にいる諸々の悪霊にたいするものです。」(エペソ6:11-12)

神の御言葉が人間にのべ伝えられたとき、「… あとから悪魔が来て、彼らが信じて救われることのないように、その人達の心から御言葉を、持ち去ってしまうのです。」(ルカ8:12)

「罪のうちを歩むものは、悪魔から出たものです。悪魔は初めから罪を犯しているからです。」(第1ヨハネ3:8)

「身を慎み、目を覚ましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、吠えたける獅子のように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。かたく信仰に立って、この悪魔に立ち向かいなさい。御承知のように、世にあるあなたがたの兄弟である人々は同じ苦しみを通って来たのです。」(第1ペテロ5:8-9)

「しかし、驚くにはおよびません。サタンさえ、光の御使いに変装するのですから、サタンの手下どもが義の僕に変装したとしても、格別なことはありません。彼らの最後はその仕業にふさわしいものとなります。」(第2コリント11:14-15)

「それで、私達は、あなたがたのところに行こうとしました。このパウロは一度ならず二度までも心を決めたのです。しかしサタンが私達を妨げました。」(第1テサロニケ2:18)

「アナニヤ。どうして、あなたはサタンに心を奪われ、聖霊を欺いて、地所の代金の一部を自分のために残しておいたのか。」(使徒5:3)

「イエスは答えられた。『それは私がパン切れを浸して与えるものです。』それからイエスは、パン切れを浸し、とって、イスカリオテ・シモンの子ユダにお与えになった。彼がパン切れを受けると、そのとき、サタンが彼に入った。そこで、イエスは彼に言われた。『あなたがしようとしていることを、いまずぐしなさい。』席についているもので、イエスが何の為にそう言われたのか知っているものは、誰もなかった。ユダが金入れを持っていたので、イエスが彼に『祭りのために入用な物を買え。』と言われたのだとか、又は、貧しい人々に何か施しをするように言われたのだとか思ったものも中にはいた。ユダは、パン切れを受けるとすぐ、外に出ていった。すでに夜であった。」「ところで、イエスを裏切ろうとしていた。ユダもその場所を知っていた。イエスがたびたび弟子達とそこで会合されたからである。そこで、ユダは一隊の兵士と、祭司長、パリサイ人たちから送られた役人達を引き連れて、灯と松明と武器をもって、そこに来た。」(ヨハネ13:26-30; 18:2-3)

「あなたがたが受け入れようとしている苦しみを恐れてはいけない。見よ。悪魔はあなたがたを試すために、あなたがたのうちのある人達を牢に投げ入れようとしている。あなたがたは十日の間苦しみを受ける。死にいたるまで忠実でありなさい。そうすれば、私はあなたに命の冠を与えよう。」(ヨハネ黙示録2:10)

「また私は、御使いがそこ知れぬところに鍵と大きな鎖とを手にもって天から下ってくるのを見た。彼は、悪魔でありサタンである竜、あの古い蛇をとらえ、これを千年の間縛って、底知れぬところに投げ込んで、そこを閉じ、その上に封印して、千年の終るまでは、それが諸国の民を感わすことのないようにした。サタンは、その後でしばらくの間、解き放されなければならない。」(ヨハネ黙示録20:1-3)

8. 人間の本来の状態と創造の秩序

人間の霊的、および、道徳的状态、人間の一時的な命の目的

神は人を御自身の形、御姿に創造された。このことは外面的な類似を意味したのではない、というのは、神は「天にも、地にも満ちておられる。」(エレミヤ23:24)霊であられるからであり、神は目に見えない形であられる。最初に(創造された)人々はその人達の心、意志および生活が神と完全に調和しており、神とともに幸せな祝福された交わりのうちに生きていたという意味で神のようであった、その人々の住家であるエデンの園は非常に快適な場所であった。(創世記2:6-15)彼らの役目はそれを耕作し、管理することであった。しかしながら、彼らは(創世記2:16-17)にある神の命令を守ることによって神に自分たちの愛と従順を示さなければならなかった。

神は人間に対して、地上での永久的な生活を計画されたわけではなかった。もし、人間達が義と神聖の自分たちの本来の状態に留まっており、罪に墮落しなかったとしたら、それぞれの人間に定めら

れた寿命の後に神は人間を永遠の「住まい」に連れて行かれるはずであった。このことはエノク（創世5：24；ヘブル11：5）やキリストの再臨の時のキリストを信じている者たち（第1コリント15：23、51－54；第1テサロニケ4：17）と同様に肉体的な死を通さずに起こることになっていた。

創造の秩序

創造の最初の秩序は結婚と家庭であった。

「神はこのように、人を御自身の形に創造された。神の形に彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。神はまた、彼らを祝福し、このように神は彼らに仰せられた。『生めよ。増えよ。地を満たせ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地を這うすべての生き物を支配せよ。』（創世記1：27－28）

「その後、神である主は仰せられた。『人が、一人でいるのはよくない。私は彼のために、彼にふさわしい助け手を造ろう。』…「こうして神である主は、人からとった肋骨を、一人の女に造りあげ、その女を人のところに連れて来られた。」…「それゆえ、男はその父母を離れ、妻と結びあい、ふたりは一体となるのである。」（創世記2：18、22、24）

神の本来の秩序は神の恵みと保障のもとにおける一人の男と一人の女との間の結婚生活であった。彼らは神を恐れ、信頼し、神への従順のもとに自分たちの子供を育てなければならなかった。

創造の第二の秩序は人間の職業、および、仕事であった。つまり、「神はまた、彼らを祝福し、このように神は彼らにおおせられた。『生めよ。ふえよ。地を満たせ。地を従えよ。海の魚、空のとり、地を這うすべての生き物を支配せよ。』（創世記1：28）

この神聖な秩序は自然の法則を知り、それを人間が自分の生活の益とできるように、自然を調べ研究すべきであるという意味を含んでいる。それはまた、植物や作物が他の用途にふさわしいように栽培し、また、動物を人間のために飼育することを学ぶことをも意味している。

「神である主は、人をとり、エデンの園に置き、そこを耕させ、またそこを守らせた。」（創世記2：15）

園芸、農業は最初から人間の役目であった。罪深い神に対する反逆は見えない世界で御使いたちのうちに起こった。そして、同じような堕落の誘惑が人間を脅かすようになった。そのたびに人間は悪魔の力が自分たちやそれに危害を加えないように見張り、見守らなければならなくなった。ところが、人間はいまだに人間の主なる役目として耕し、見張ることである。このことは、とくに教会の「園」又は「実りの畑」において重要である。

「私達は、あなたがたのところにいたときにも、働きたくないものは食べるなど命じました。」（第1テサロニケ3：10）

「自分の仕事を怠けるものは、滅びをもたらすものの兄弟である。」（箴言18：9）

「小さいことに忠実な人は多きことにも忠実であり、小さいことに不忠実な人は、大きいことにも不忠実です。」（ルカ16：10）

創造に第三の秩序は肉体と霊の植物である。「ついで神は仰せられた。『見よ。私は、全地の上にあつて、種を持つすべての草と、種をもって実を結ぶすべての木をあなたがたに与えた。それがあなたがたの食物となる。』（創世記1：29）

「神である主は、人に命じて仰せられた。『あなたは、そのどの木からでも思いのままに食べてよい。しかし、

善悪知識の木からは取って食べてはいけない。それをとって食べるそのとき、あなたは必ず死ぬ。』(創世記 2:16、17)

よき健康的な実を結ぶ木々や他の植物がある一方、又、危害を加える有毒な実を結ぶものがあり、それらを人間は避けることを学ばなければならなかったが…「それで主は、あなたを苦しめ、飢えさせて、あなたも知らず、あなたの先祖達も知らなかったマナを食べさせられた。それは、人はパンだけで生きるのではない、人は主の口から出るすべてのもので生きる、ということ、あなたに分らせるためであった。」「イエスは答えて言われた。『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つの言葉による。』(申命記8:3; マタイ4:4)

語られた又、書かれた聖書および、聖書的な教えのうちにある神の御言葉は人間が神のうちに真の命を持つことができるために必要な又、健康的な霊的な食物である。しかしながら、間違った危険な教えが語られたり、又、書かれたりする形で出回っている。このように類の食物を食べることは、人間を霊的な又、肉体的な死に導くことになる。普通このような教えや読み物はいろいろな良い知識と悪い知識との混合したものを含んでおりそれらを食べたものは必ず死ぬ。

9. 罪への墮落と人間の罪深い状態

罪への墮落

「さて、神である主が造られたあらゆる野の獣のうちで、蛇が一番狡猾であった。蛇は女に言った、『あなたがたは、そのどんな木からも食べてはならない、と神は、本当に言ったのですか。』(創世記3:1)

最初の人間は神の御言葉を聞いた。それによって、人間達は神の御心を知った。このようにして、悪魔は人間が神の御心に疑いを持たせ、不従順になるように導いた。禁じられた木の実を食べると、かならず死ぬという神のみ言葉を女が唱えたとき、蛇は断言した、「あなたがたがそれを食べるそのとき、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。」(創世記3:5)このようにして、悪魔は神を偽りものとし、神の御言葉に対する信仰を破壊してしまった。悪魔は神の啓示された御言葉を無視して自分で想像した神のみ姿と知識を切望するように人間を迷わせた。

この内的な墮落は罪の行為を伴うようになった。

「そこで女が見ると、その本は、誠に食べるのに良く、見るに慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。それで女はその実を取って食べ、一緒にいた夫にも与えたので、夫も食べた。」(創世記3:6)

悪魔にそそのかされた内在する罪深い欲望によって神の戒めに背くことになり、又、同様なことをするように他の人間をそれに誘い込む欲望を生じさせている。罪人は罪を犯すのに仲間を得ることを願っている。罪を犯すことは悪と叱責の意識と恥の意識をもたらす。

「このようにして、ふたりの目は開かれ、それで彼らは自分たちが裸であることを知った。そこで、彼らはいちじくの葉をつづり合せて、自分たちの腰のおおいを作った。そよ風の吹くころ、彼らは、神である主の声を聞いた。それで人とその妻は、神である主の御顔を避けて園の木の間に身を隠した。」(創世記3:7、8)罪の意識は人間を神の面前から自分自身を隠そうとするように導く。

神がアダムに彼の不従順の行為について聞き正したとき、アダムは自分の妻を責め、そしてあげくの果てにそのような妻をお与えになった神を責めた。「人は言った。『あなたが私のそばに置かれたこの女

が、あの木から取って私にくれたので、私は食べたのです。』(創世記3:12)エバはそれに続いてエバを騙した蛇を責めた。それら三人のうち誰ひとり「私はあなたにたいして罪を犯しました。どうか私を哀れみお赦し下さい」とは言わなかった。

アダムとエバは神との調和のうちにある自分たちの霊的な樂園(パラダイス)を失ってしまった。神は彼らをそこから追い出されたからである。神は人間の罪のために地を呪われた。地はいばらとあざみをもたらし始め、人間に自分たちの食料を得させるために重労働を強いるようになった。

罪人としての人間

人間が禁じられた木の実を食べた日にかならず死ぬという神の御言葉は次の三つの形で実現した。

それらの第一は霊的な死であった。人間は神との平和と神のうちにある平和を失った。悪魔である蛇は人間の心にはいり、自己本位、高ぶり、神の戒めの背き、怒りおよび憎しみ、悪口、それに他人への偽りの証、等を働かせた。このサタンの支配は又肉欲、および好色、不敬虔、職務の怠慢、等である。

「内側から、すなわち、人の心から出てくるものは、悪い考え、不品行、盗み、殺人、姦淫、貪欲、よこしま、欺き、好色、ねたみ、そしり、高ぶり、愚かさであり。これらの悪はみな、内側から出て、人を汚すのです。」(マルコ7:21-

23)

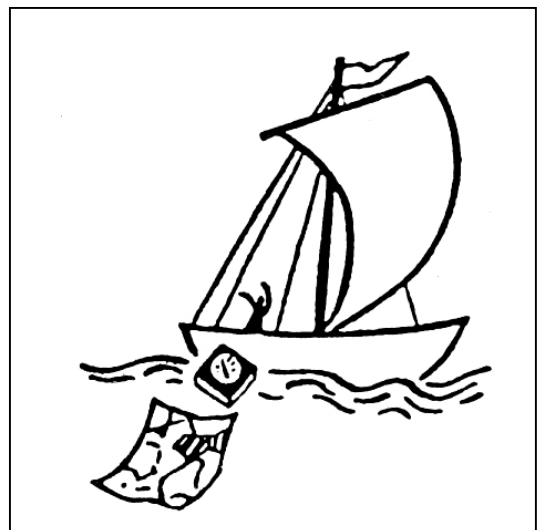
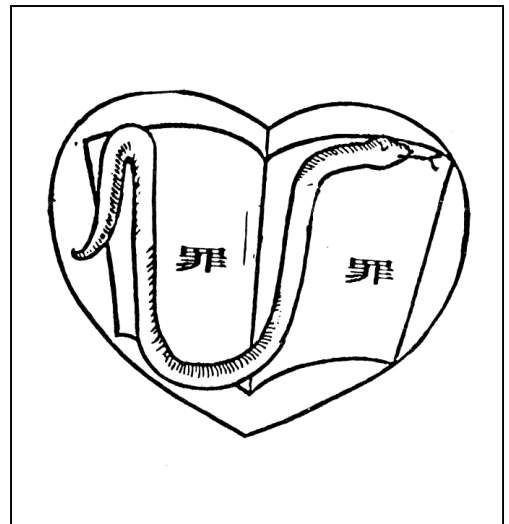
「あなたがたは、正しくないものは神の国を相続できないことを、知らないのですか。だまされてはいけません。不品行なもの、偶像を礼拝するもの、姦淫をするもの、男娼をするもの、男色をするもの、盗むもの、貪欲なもの、酒に酔うもの、そしるもの、略奪するものは、みな、神の国を相続することができません。」(第1コリント6:9-10)悪、姦淫、神への冒瀆、および反逆は人間が神から離れ神に対する敵意を表わすものである。

「天よ、聞け。地に耳を傾けよ。主が語られるからだ。『子らはわたしが大きくし、育てた。しかし彼らは私に逆らった。』(イサヤ1:2)

「というのは、肉の思いは神に対して反抗するものだからです。それは神の律法に服従しません。いや、服従できないのです。」(ローマ8:7)

罪に墮落した人間はちょうどかえって、ないほうが思う存分に航海できてよいと思って羅針盤と地図を海に投げ捨ててしまった船乗りのようなものである。

「しかし、悪者に対して神は言われる。『何事か。お前がわたしの掟を語り、私の契約を口に載せるとは。』(詩篇50:16)「それゆえ、火の舌が刈り株を焼き尽くし、炎が枯れ草をなめ尽くすように、彼らの根は腐れ、その花も、ちりのように舞い上がる。彼らが万軍の主の御教えをないがしろにし、イスラエルの聖なる方の御言葉を侮ったからだ。」(イザヤ5:24)



「そこで私は、主にあって言明し、おごそかに勧めます。もはや、異邦人がむなしい心で歩んでいるように歩んではなりません。彼らは、その知恵において暗くなり、彼らのうちにある無知と、かたくなな心とのゆえに、神の命から遠くはなれています。道徳的に無感覚となった彼らは、好色に身をゆだねて、あらゆる不潔な行ないを貪るようになっていきます。」(エペソ4: 17-19)

エペソ人への手紙は墮落した人間の状態のすべての人間に当てはまる。すなわち、「あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいたものであって、この世の流れに従い、空中の権威をもつ支配者としていまも不従順の子らの中に働いている霊にしたがって、歩んでいました。」(エペソ2: 1, 2)

人間が不信仰と罪のうちに生きています。ますますその中に落ち込んでいくようになる。つまり、それはキリストとその十字架はその人間の心の外側におかれるために悪魔がその人の心を支配するようになるからである。

「私達もみな、かつては不従順の子らの中にあって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行ない、ほかの人達と同じように、生まれながらの御怒りを受けるべき子らでした。」(エペソ2: 3)

この「生まれながら」という言葉は全ての人間がそれぞれ生まれた時からこの様な状態であり、自分たちの両親からこのようなものを受け継いだことを示している。信仰や慈愛、善良さなどは受け継がれず、ただ罪深い性質だけが受け継がれたのである。

「肉によって生まれた者は肉である。み霊によって生まれた者は霊です。」(ヨハネ3: 6)

「というのは、肉の思いは神に対して反抗するものだからです。それは神の律法に服従しません。いや、服従できないのです。」(ローマ8: 7)

「そういう訳で、ちょうど一人の人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして死が全人類に広がったのと同様に——それというのも全人類が罪を犯したからです。」…「こういう訳で、ちょうど一つの違反によってすべての人が罪に定められたのと同様に、一つの義の行為によってすべての人が義と認められて、命を与えられるのです。すなわち、ちょうど一人の人の不従順によって多くの人が罪人とされたのと同様に、一人の従順によって多くの人が義人とされるのです。」(ローマ5: 12, 18-19)

「人の心の思い計ることは、初めから悪であるからだ。」(創世8: 21)

「というのは、不義をもって真理を阻んでいる人々のあらゆる不敬けんと不正に対して、神の怒りが天から啓示されているからです。」(ローマ1: 18)

この神の怒りは次のように人間に啓示された。つまり、神の御言葉を通して、人間のうちにあるハンマーのように罪の意識が責められることによって示された。(エレミヤ23: 29) 多くの疾病、病は罪の結果である。(申命28: 15, 22, 27-28, ヨハネ5: 14)

その人の心は盲目となっている。(エペソ4: 18)

その人の意志は悪意のほうに傾いており、悪いことを愛するようになる。神なしに又、希望なしに生きているためその人のうちには平安。その人は罪の奴隷である。(ローマ6: 20-21)

その行き着くところは地獄の火に至る罪の宣告である(黙示21: 8)



「というのは、彼らは、神を知っているながら、その神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなったからです。」(ローマ1:21)

「何か原因であなたがたの間に戦いや争いがあるのでしょうか。あなたがたの身体の中で戦う欲望が原因ではありませんか。」(ヤコブ4:1)

「罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私達の主キリスト・イエスにある永遠の命です。」(ローマ6:23)

「肉」といういろいろな意味

1. **肉体的な体**：「私達生きているものは、イエスのために絶えず死に渡されていますが、それは、イエスの命が私達の死ぬべき肉体において明らかに示されるためなのです。」(第2コリント4:11)

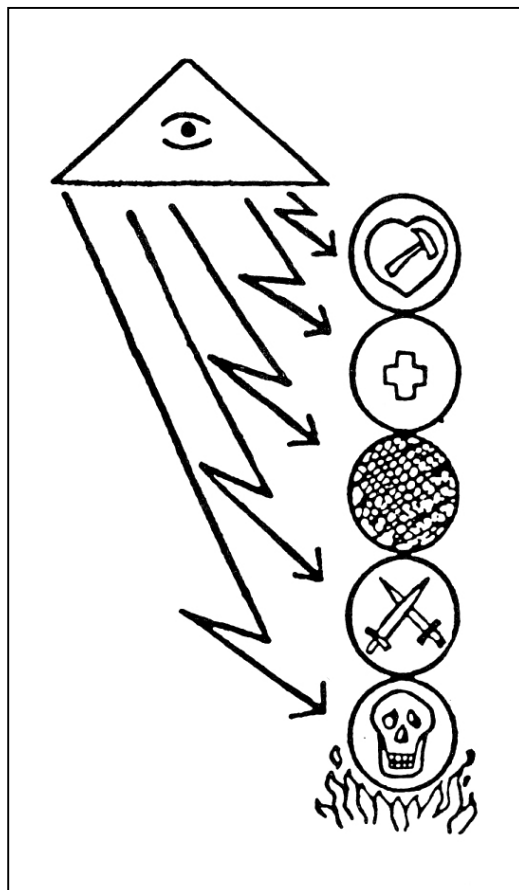
「私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が、この世に生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神を信じる信仰によっているのです。」(ガラテヤ2:20)同様に又、エペソ5:29;ピリピ1:22、24;第1ペテロ4:2、黙示録19:18、21など

2. **人、人類**：「もし、その日数が少なくされなかったら、一人として救われるものはないでしょう、しかし、選ばれたもののために、その日数は少なくされます。」(マタイ24:22)同様に、又、ルカ3:6;ヨハネ17:2;第1コリント1:14;ガラテヤ2:6など

3. **イエスの罪なき身において**、イエスは人間の罪を十字架上で処理されたまた、その身体は霊的に信仰をもって受け取られ「食べられる」のである。つまり、イエスは『私は天から下ってきたパンです。誰でもこのパンを食べるなら、永遠に生きます。また、わたしが与えようとするパンは、世の命のための、わたしの肉です。』すると、ユダヤ人たちは、『この人は、どのようにしてその肉を食べさせることができるのか。』と互いに議論があった。イエスは彼らにいわれた。『まことに、まことに、あなたがたに告げます。人の子の肉を食べ、またその血を飲まなければ、あなたがたのうちに、命はありません。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲むものは、永遠の命を持っています。わたしは終りの日にその人を蘇らせます。わたしの肉はまことの食物、わたしの血はまことの飲み物だからです。』(ヨハネ6:51-55)といわれた。同様に、コロサイ1:22、ヨハネ1:14、第1テモテ3:16、ヘブル2:14;10:20、第1ペテロ3:18、4:1、第1ヨハネ4:2

4. **人間の墮落した罪深い性質**：「肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は霊です。」(ヨハネ3:6)

「私達が肉にあったときは、律法によるに数々の罪の欲情が私達のからだのなかに働いていて、死のため



に実を結びました。… 私は、私のうち、すなわち、私の肉のうちに善が住んでいないのを知っています。私には善をしたいという願いがいつもあるのに、それを実行することがないからです。」(ローマ7:5、18)

「なぜなら、肉の願うことは御霊に逆らい、御霊は肉に逆らうからです。この二つは互いに対立していて、そのためあなたがたは、自分のしたいと思うことをすることができないのです。… 肉の行ないは明白であって、次のようなものです。不品行、汚れ、好色、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、ねたみ、めいてい、遊興、そういった類のものです。前にもあらかじめ言ったように、私は今もあなたがたにあらかじめ言っておきます。こんなことをしているものたちが神の国を相続することはありません。」(ガラテヤ5:17、19-21、24)同様にまた、ローマ8:4-9、12-13; エペソ2:3; コロサイ2:23; 第2ペテロ2:10、18; 第1ヨハネ2:16; ユダ23参照。

「世」という言葉の二つの意味

1. 見ることのできる世界と人類: 「それから、イエスは彼らにこう言われた。『全世界に出ていき、すべての造られたものに、福音をのべ伝えなさい。』」(マルコ16:15)同様に、また、マタイ4:8、5:14; 13:35; ヨハネ3:16-19、4:42、6:51

2. 墮落した罪に腐敗した人類: 「つまずきを与えるこの世は忌まわしいものです。つまずきが起こることは避けられないが、つまずきをもたらすものは忌まわしいものです。」(マタイ18:7)

「それでイエスはかれらに言われた。『あなたがたが来たのは下からであり、私が来たのは上からです。あなたがたはこの世のものであり、わたしはこの世のものではありません。』」(ヨハネ8:23) 「その方は、真理の御霊です。世はその方を受け入れることができません。世はその方を見もせず、知りもしないからです。しかし、あなたがたはその方を知っています。その方はあなたがたとともに住み、あなたがたのうちにおられるからです。」(ヨハネ14:17)

「もし世があなたがたを憎むなら、世はあなたがたよりも私を先に憎んだことを知っておきなさい。」(ヨハネ15:18)

「裁きについては、この世を支配するものが裁かれたからです。」(ヨハネ16:11)

「そのころは、それらの罪の中にあつてこの世の流れに従い、空中の権威をもつ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊にしたがって、歩んでいました。」(エペソ2:2)

「この世と調子を合せてはいけません。いや、むしろ、神の御心は何か、すなわち、何かよいことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。」(ローマ12:2)同様に、また、第1コリント1:20-21、27; 11:32; 第2コリント4:4、第1ヨハネ2:15; ヤコブ4:4など

10. イエス・キリストとその業

A. キリストは真の神であり、彼を通して全てのものは造られた

「初めに、言葉があった。言葉は神とともにあつた、言葉は神であつた。この方は、初めに神とともにおられた。すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもない。」(ヨハネ1:1-3)

「御子は、見えない神の形であり、造られたすべてのものより先に生まれた方です。」(コロサイ1:15)

「先祖達も彼らのものです。またキリストも、人としては彼らから出られたのです。このキリストは万物の上にあり、とこしえにほめたたえられる神です。アーメン」(ローマ9:5)

イエス御自身は「わたしと父とは一つです。」(ヨハネ10:30)と言われた。

「父が死人を生かし、命をお与えになるように、子もまた、与えたいと思うものに命を与えます。また、父は誰をも裁かず、すべての裁きを子に委ねられました。それは、すべてのものが、父を敬うように子を敬うためです。子を敬わないものは、子を使わした父をも敬いません。」(ヨハネ5:21-23)

B. キリストの受肉と三つの「職務」

「言葉は人となって、私達の間に住われた。私達はこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光を見た、父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。」(ヨハネ1:14)

御使いガブリエルが処女マリヤに「ところで、その六ヵ月目に、御使いガブリエルが、神から使わされてガリラヤのナザレという町の一人の処女のところに来た。…御使いは答えていった、『聖霊があなたの上に望み、いと高きかたの力があなたを覆います。それゆえ、生まれる者は、聖なるもの、神の子と呼ばれます。』」(ルカ1:26, 35)といった。また、御使いはヨセフに言った。「彼がこのことを思い巡らしていたとき、主の使いが夢に現われていった、『ダビデの子ヨセフ。恐れないうあなたを妻マリヤを迎えなさい。その胎に宿っているものは聖霊によるのです。マリヤは男の子を生みます。その名をイエスとつけなさい。その方こそ、御自分の民をその罪から救って下さる方です。』」

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じるものが、一人として滅びることなく、永遠の命を持つためである。」(ヨハネ3:16)

「神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私達に、命を得させて下さいました。ここに神の愛が私達に示されたのです。」(第1ヨハネ4:9)

神の最高の伝言者として、キリストは、預言者、使徒、および教師としての職務を持っておられる

「あなたの神、主は、あなたのうちから、あなたの同胞の中から、わたしのような一人の預言者をあなたのために起こされる。彼に聞きしたがわなくてはならない。」(申命記18:15)

「モーセはこういいました。『神である主は、あなたがたのために、わたしのような一人の預言者を、あなたがたの兄弟達の中からお立てになる。この方があなたがたに語ることはみな聞きなさい。』」(使徒3:22)

また人々はイエスについて、「人々はイエスのなされた印を見て、『まことに、この方こそ、世に来られるはずの預言者だ。』といった。」(ヨハネ6:14)といわれた。

「そう言う訳ですから、天の召しにあずかっている聖なる兄弟達。私達の告白する信仰の使徒であり、大祭司であるイエスのことを考えなさい。」(ヘブル3:1)

「というのは、イエスがこれらの言葉を語り終えられると、群衆はその教えに驚いた。」(マタイ7:29)

「この天地は滅びます。しかし、わたしの言葉は決して滅びることがありません。」(マルコ13:31)

「すべてのものが、わたしの父から、わたしに渡されています。それで、父の他には、子を知るものがなく、子と、子が父を知らせようと心に定めた人の他は誰も父を知るものはありません。」(マタイ11:27)

大祭司および贖い主としてのキリスト

「もしメルキゼデクに等しい、別の祭司が立てられるのなら、以上のことは、いよいよ明らかになります。その祭司は、肉についての戒めである律法にはよらないで、朽ちることのない、命の力によって祭司となったのです。… そのようにして、イエスは、さらに優れた契約の保証となられたのです。… 従って、御自分によって神に近づく人々を、完全に救うことがお出来になります。キリストはいつも生きていて、彼らのために、とりなしをしておられるからです。」(ヘブル7:15-16, 22, 25)

「しかしキリストは、すでに成就したすばらしい事柄の大祭司としてこられ、手で造ったものでない、言い換えれば、この造られたものとは違った、さらに偉大な、さらに完全な幕屋をとおり、また、やぎと子牛との血によってではなく、御自分の血によって、ただ一度、まことの聖所に入り、永遠の贖いを成し遂げられたのです。もし、やぎと雄牛の血、また雌牛の灰を汚れた人々に注ぎかけると、それがきよめの働きをして肉体をきよいものにするならば、まして、キリストが傷のない御自身を、とこしえに御霊によって、神にお捧げになったその血は、どんなにか私達の良心をきよめて死んだ行ないから離れさせ、生ける神に仕えるものとするのでしょうか、こういう訳で、キリストは新しい契約の仲介者です。それは、初めの契約の時の違反をあがなうための死が実現したので、召されたものたちが永遠の資産の約束を受けることができるためなのです。」(ヘブル9:11-15)

「私達はみな、羊の様にさ迷い、おのおの、自分分かってな道に向かっていった。しかし、主は、私達のすべての咎を彼に負わせた。… しいたげと、裁きによって、彼は取り去られた。彼の時代のもので、誰が思ったことだろう、彼がわたしの民の背きの罪のために打たれ、生けるものの地から絶たれたことを。… 彼は、自分の命の激しい苦しみの後を見て、満足する。私の正しい僕は、その知識によって多くの人を義とし、彼らの咎を彼がになう。」(イザヤ53:6, 8, 11)

「この方こそ、私達の罪のための、—— 私達の罪だけでなく全世界のための —— なだめの供えものなのです。」(ヨハネ2:2)

「これは、わたしの契約の血です。罪を赦すために多くの人のために流されるものです。」(マタイ26:27)

メルキゼデクとアロンの祭司職はキリストの祭司職の来たるべき影あるいは、そのひな型であった。モーセの律法によって制定された罪の贖いの供えものや又、その血を注ぎかけることによる罪のきよめなどは、キリストの犠牲の死、および悔い改めた罪人の上に福音を通してのキリストの血潮がぶりがけられたというふうに預言されたキリストのいけにえとしての神への捧げ物のひな型であった。(第1ペテロ1:2)(ヘブル13:15-16)



私達の王としてのイエス・キリスト

「ひとりのみどり子が、私達のために生れる。ひとりの男の子が、私達に与えられる。主権はその肩にあり、その名は『不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君』と呼ばれる。その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座について、その王国を治め、裁きと正義によってこれを堅く立て、それを支える。今より、とこしえまで。万事の主の熱心がそれを成し遂げる。」(イザヤ9:6、7)

「イエスはピラトに『それでは、あなたは王なのですか』イエスは答えて言われた。『わたしが王であることは、あなたが言う通りです。私は、世に来たのです。真理に属するものはみな、わたしの声に聞きしたがいます。…』」(ヨハネ18:37)と言われた。また、御自分の弟子達に「イエスは近づいてきて、彼らにこう言われた。『わたしには天においても、地においてもいっさいの権威が与えられています。…』」(マタイ28:18) また同様に、黙示録19:16 黙示録17:14では「赤い獣」や「偽りの預言者」によって導かれた悪意の諸権力は「… 小羊と戦いますが、小羊は彼らに打ち勝ちます。なぜなら、小羊は主の主、王の王だからです。…」と言っている。

C. キリストの死からの復活

「彼は、不信仰によって神の約束を疑うようなことをせず、反対に、信仰がますます強くなって、神に栄光を帰し、神には約束されたことを成就する力があることを堅く信じた。だからこそ、それが彼の義とみなされたのです。しかし、『彼の義とみなされた。』と書いてあるのは、ただ彼のためだけでなく、また私達のためです。すなわち、私達の主イエスを死者の中から蘇らせた方を信じる私達も、その信仰を義とみなされるのです。」(ローマ4:20-24)

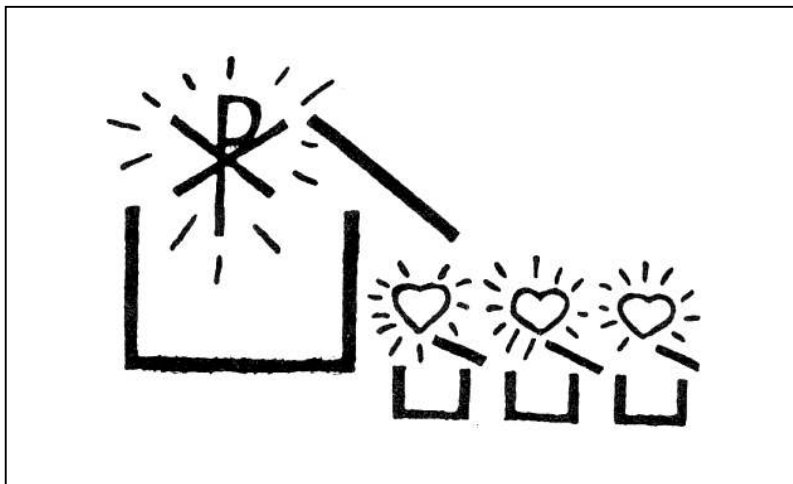
「私があなたがたにもっとも大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことである。キリストは、聖書の示すとおり、私達の罪のために死なれたこと。また、葬られたこと、また、聖書にしたがって三日目に蘇られたこと、… しかし、いまやキリストは、眠ったものの初穂として死者の中から蘇られました。… しかし、おのおのにその順番があります。まず初穂であるキリスト、次にキリストの再臨のときキリストに属しているものです。… 終りのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものに蘇り、私達は変えられるのです。」(第1コリント15:3-4、20、23、52)

イエスは「私は蘇りです。命です。私を信じるものは、死んでも生きるのです。」(ヨハネ11:25)と言われた。

D. キリストの昇天

「そして祝福しながら、彼らから離れていかれた。」(ルカ24:51)

「御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現われであり、その力ある御言葉によって万物を保っておられます。また、罪のきよめを成し遂げて、優れて高いところの大能者の右の座に着かれました。」(ヘブル1:3)



「罪に定めようとするのは誰か。死んでくださった方、いや、蘇られた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、私達のためにとりなして下さるのです。」(ローマ8:34)

E. キリストによる私達のために供えられた三重の救い

1. 罪のゆるし——義とされること

「罪人に対して定められた神聖な律法によって要求された刑罰を私達の身代わりであるキリストが私達に代わって、身に負って下さったように人類の罪の負債を支払って下さったのである。」(第1ペテロ3:18)

「私達は、この御子のうちにあつて、御子の血による贖い、すなわち罪の赦しを受けているのです。これは神の豊かな恵みによることです。」(エペソ1:7)また同様に、コロサイ書1:14でもうかがえる。

「しかし、もし神が光の中におられるように、私達も光の中を歩んでいるなら、私達は互いに交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私達をきよめます。」(第1ヨハネ1:7)

「神は罪を知らない方を私達の代わりに罪とされました、それは、私達が、この方にあつて、神の義となるためです」(第2コリント5:21)

「すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスを、その血による、また信仰による、なだめの供えものとして、公にお示しになりました。それは、御自身の義を現わすためです。というのは、今までに犯されてきた罪を神の忍耐をもって見逃してこられたからです。」(ローマ3:23-25)

2. 神とともにある幼子

「しかし、以前は遠く離れていたあなたがたも、今ではキリスト・イエスの中にあることにより、キリストの血によって近いものとされたのです。… 私達は、このキリストによって、両者ともに一つの御霊において、父のみもとに近づく事ができるのです。こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、今は聖徒たちと同じ国民であり、神の家族なのです。」(エペソ2:13、18-19)

「しかし定めの時が来たので、神は自分の御子を遣わし、この方を、女から生まれたもの、又律法のもとにあるものとなさいました。これは律法のもとにあるものを贖い出すため、その結果、私達が子としての身分を受けようになるためです。そして、あなたがたは子であるゆえに、神は「アバ、父よ。」と御子の御霊を、私達の心に遣わされたのです。」(ガラテヤ4:4-5)

この描写はキリストがどのようにして十字架の上で人類の罪を負われたかを説明している。その栄光の門は赦しの恵みと神の子どもとされる恵みへの門としてのキリストとその血潮のことを示している。

イエスは「私は門です。誰でも、私を通してはいるなら、救われます。また安らかに出入りし、牧草を見つけます。盗人が来るのは、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするだけのためです。私がきたのは、羊が命を得、またそれを豊かに持つためです。」と言われた。(ヨハネ10:9、10) また、ヘブル書10:19によると「こう言う訳ですから、兄弟達。私達は、イエスの血によって、大胆にまことの聖所に入ることができるのです。」(ヘブル10:19)と書いてある。

3. 聖霊の賜物

「キリストは私達のために呪われた者となって、私達を律法の呪いから贖い出して下さいました。なぜなら、『木にかけられる者はすべて呪われた者である。』と書いてあるからです。」(ガラテヤ3:13)

「しかし定めの時が来たので、神は御自分の御子を遣わし、この方を、女から生れたもの、又律法の下にある者となさいました。これは律法の下にある者を贖い出す為で、その結果、私達が子としての身分を受けようになる為です。そして、あなた方は子である故に、神は『アバ、父。』と呼ぶ、御子の御霊を、私達の心に遣わして下さいました。」(ガラテヤ4:4-6)

キリストの贖いの御業と昇天は聖霊が送られる前に成就されることになっていた。

イエスは「しかし、わたしは真実を言います。私が去っていくことは、あなたがたにとって益なのです。それは、もし私が去っていかなければ、助け主があなたがたの所に来ないからです。しかし、もし行けば、私は助け主をあなたがたの所に遣わします。」といわれた。又、同様にヨハネ7:39で「… イエスはまだ栄光を受けておられなかったので、御霊はまだ注がれていなかったからである。」ヨハネ20:22によると、イエスは御自身の弟子達に「… 聖霊を受けなさい。…」と言われた。このことは50日後のペンテコステの日に来たるべきことの約束であり、イエスの御昇天の前でありイエスは将来起こる出来事として、聖霊が下ることを語られたのである。(使徒1:5-8)

11. 聖霊とその業

神は三つの人格(各位)、つまり、父、御子および聖霊を備えられた、しかも一つのお方である。神は父と御子と霊である。それはちょうどパウロのローマ大への手紙8:9にあるとおりである。すなわち、「けれども、もし神の御霊があなたがたのうちに住んでおられるなら、あなたがたは肉の中ではなく、御霊の中にいるのです。キリストの御霊を持たない人は、キリストのものではありません。」

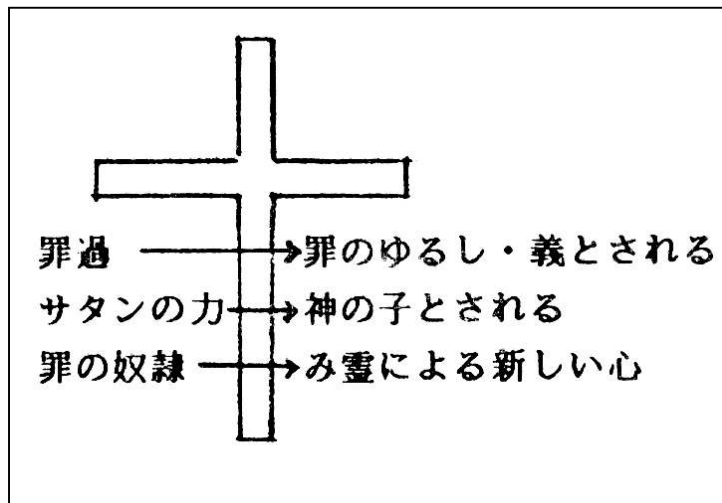
A. 聖霊はどのようにして受け取ることができるのか

キリストの十字架のいけにえと復活を通してキリストは罪から又、サタンのかまた、罪の奴隷の状態からの救いを私達に備えて下さった。この救いは人間が「御霊によって生まれた」(ヨハネ3:5)時、御霊の働きによって実際のものとなる。そうなることによって人間はキリストを又神を知り、キリストを信頼し、キリストに従う新しい心を受け取るようになる。バプテスマのヨハネはイエス・キリストについて次のように二つのことを述べている。

(1) 「世の罪を取り除く神の子羊」であり又、

(2) 「聖霊によってバプテスマを授ける方である」(ヨハネ1:29、33)

實際上、キリストなる神は罪の悔い改めと福音への信仰という方法で聖霊をお与えになる。ペテロはペンテコステの日「悔い改めなさい。そして、それぞれ罪をゆるしていただくために、イエス・キリストの



名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けましょう。」(使徒2:39)と言われた。

「そこでペテロは彼らに答えた。『悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けましょう。2:39 なぜなら、この約束は、あなたがたと、その子どもたち、ならびにすべての遠くにいる人々、すなわち、私たちの神である主がお召しになる人々に与えられているからです。』」(使徒2:38-39)

聖霊を最初に受けた人々はそれ以前に洗礼が授けられている(ヨハネ3:22、26; 4:1-2)。従って、新たに又、洗礼を受けることを必要とはしない。罪の意識と救いの必要に目覚めた者が御霊の賜物を受け取るために、洗礼を通して悔い改め、その罪が赦されなければならない。いくぶん後にペテロおよび他の使徒たちは神が神に従う者たちに聖霊をお与えになるといっている。神へのまず最初に示すべき従順の行為は悔い改めであり、第二番目には福音を信じることである。

「時が満ち、神の国は近くなった。悔い改めて福音を信じなさい。」(マルコ1:15)

「神の命令とは、私達が御子イエス・キリストの御名を信じ、キリストが命じられた通りに、私達が互いに愛し合うことです。」(第1ヨハネ3:23)

神はこの賜物を祈り求め、福音の約束を信じる人々に聖霊を与えてくださる。

「してみると、あなたがたも、悪いものではあっても、自分の子どもにはよいものを与えることを知っています。とすれば、なおのこと、天の父が、求める人達に、どうして聖霊をくださらないことがありましょう。」(ルカ11:13)

「又、あなたがたも、キリストにあって、真理の言葉、すなわちあなたがたの救いの福音を聞き、又それを信じたことによって、約束の聖霊をもって証印を押されました。聖霊は私達が御国を受け継ぐことの保証であります。これは神の民の贖いのためである。神の栄光が誉めたたえられるためです。」(エペソ1:13-14)

パウロは「ただこれだけをあなたがたから聞いておきたい。あなたがたが御霊を受けたのは、律法を行なったからですか。それとも信仰をもって聞いたからですか。…あなたがたがあれほどのことを経験したのは、無駄だったのでしょうか。万が一にもそんなことはないでしょうが。とすれば、あなたがたに御霊を与え、あなたがたの間で奇跡を行なわれた方は、あなたがたが律法を行なったから、そうなされたのですか。それともあなたがたが信仰をもって聞いたからですか。」(ガラテヤ3:2-5)

福音を聞くことの他に按手による祝福は御霊が下ってくださるためによく用いられている。サマリヤの人々はピリピが彼に「語った言葉に聞きいって」洗礼を受けた。しかし、使徒ペテロとヨハネが「…二人は下って行って、人々が聖霊を受けるように」祈り、二人が彼らの上に手を置いた時のみ、…彼らは聖霊を受けた。…」(使徒8:5-17)

アナニヤがサウロ(パウロ)の上に手を置くとサウロは視力を取り戻し、聖霊に満たされた。(使徒9:17)

パウロがヨハネの十二弟子にバプテスマを授け、彼らの上に手を置くと、聖霊が彼らの上に臨んだ。(使徒19:1-7)

コルネリオの家族とその友人達はキリストへの信仰による罪の赦しについてのペテロの説教を聞いた時聖霊を受けた。彼らはその後、水によるバプテスマを受けた。(使徒10:44-48) 聖霊は時にはキリストの福音を聞くことを通して、又時には手を置くことによって与えられる。

B. 御霊の働き

神は律法を通して御心を示される。このことはマタイの福音書 22 : 37-40 に見る二つの愛の戒めが簡潔な形で含まれている十戒の要求に要約されている。み霊は人間に自分たちがこれらの聖なる要求を満たし損ねたことを示し、人間の罪探さを咎める。

「なぜなら。律法を行うことによっては、誰一人神のまえに義と認められないからです。律法によっては、かえって罪の意識が生じるのです。」(ローマ3:20)

根本的な主な罪は不信仰である。

「… 信じないものは罪に定められます。」(マルコ16:16)

「御子を信じるものは裁かれない。信じないものは神のひとり子の御名を信じなかったので、すでに裁かれている。」(ヨハネ3:18)

「その方が来ると、罪について、義について、裁きについて、世にその誤りを認めさせます。罪についてというのは、彼らが私を信じないからです。」(ヨハネ16:8、9)

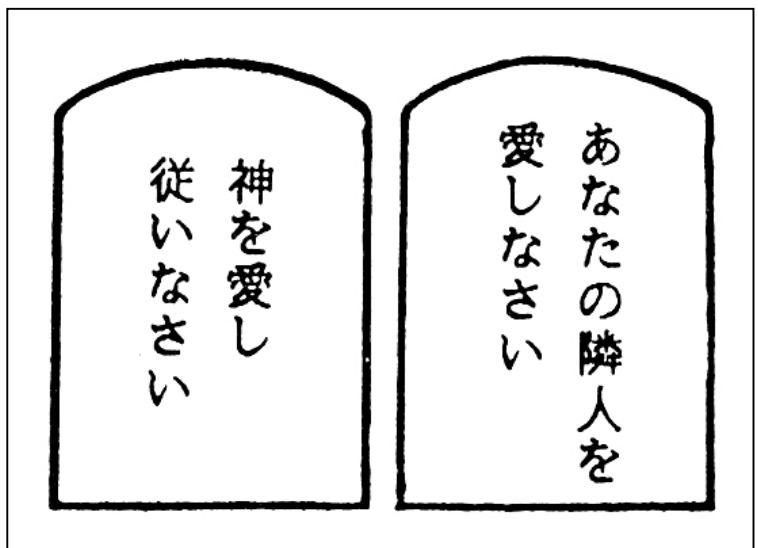
御霊の第二の働きは新生（新しく生まれること）又個人的な救いの信仰を生み出す。

クリスチャンは「… 神は、御自分の大きな哀れみのゆえに、イエス・キリストが死者の中から蘇られたことによって、私達を新しく生まれさせて、生ける望みを持つように …」(第1ペテロ1:3)されたものである。

イエスは又、「私が父のもとから遣わす助け主、すなわち父から出る真理の御霊が来る時、その御霊が私について証します。… その方が来ると、罪について、義について、裁きについて、世にその誤りを認めさせます。罪についてというのは、彼らがわたしを信じないからです。」(ヨハネ16:7-9)とっておられる。

「私達をこのことになう者にくださった方は神です。神は、その保証として御霊を下さいました。」(第1コリント5:5)

「あなたがたは、人を再び恐怖に陥れるような、奴隷の霊を受けたのではなく、子として下さる御霊を受けたのです。私達は御霊によって、『アバ、父。』と呼びます。私達が神の子どもであることは、御霊御自身が、私の霊とともに、証して下さいます。」(ローマ8:15、16)



聖霊の働きは新しく生まれた信者達のうちに新しい契約の教会の会員として、キリストに仕えることができるように、神の御言葉と戒めに快く従うことができるようにして下さる。

「私の霊をあなたがたのうちに授け、私の掟に従って歩ませ、私の定めを守り行なわせる。」(エゼキエル36:27)

「しかし、今は、私達は自分をとらえていた律法に対して死んだので、それから解放され、その結果、古い文字にはよらず、新しい御霊によって仕えているのです。」(ローマ7:6)

「私は言います。御霊によって歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません。」

ん。なぜなら、肉の願うことはみ霊に逆らい、御霊は肉に逆らうからです。この二つは互いに対立していて、そのためあなたがたは、自分のしたいと思うことをすることができないのです。しかし、御霊によって導かれるなら、あなたがたは律法の下にはいません。肉の行いは明白であって、次のようなものです。不品行、汚れ、好色、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、いきどおり、党派心、分裂、分派、妬み、めいてい、遊興、そういった類のものです。前にも予め言ったように、私は今のあなたがたにあらかじめ言っておきます。こんなことをしているものたちが神の国を相続することはありません。しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。このようなものを禁ずる律法はありません。キリスト・イエスにつくものは、自分の肉を、様々な情欲や欲望とともに十字架につけてしまったのです。」(ガラテヤ5:16-24)

「神のみ霊に導かれる人は、誰でも神の子どもです。… 神に感謝すべきことには、あなたがたは、もとは罪の奴隷でしたが、伝えられた教えの規準に心から服従し、… すなわち、私は、内なる人としては、神の律法を喜んでいるのに…」(ローマ8:14, 6:17, 7:22)

このことは新しい契約において、神が（御霊によって）御自分の民の心に律法を刻み込まれたという聖書的なことを意味している。(エレミヤ31:33、ヘブル8:10) しかしながら、この事は「自動的に」には起こらない。信者はそのために聖書を学び、聖霊が信者にそれを行うものとして下さるように祈り求める必要がある。それは詩篇筆者が次のように言っているとおりである。

「私は私の道を申し上げました。すると、あなたは、私に答えて下さいました。どうか、あなたの掟を私に教えて下さい。あなたの戒めの道を私に悟らせてください。私が、あなたのくすしい業に思いを潜めることができるようにして下さい。… 主よ。あなたの掟の道を私に教えて下さい。そうすれば、私はそれを終りまで守りましょう。私に悟りを与えて下さい。私はあなたの御教えを守り、心を尽くしてそれを守ります。… この通り、私は、あなたの戒めを慕っています。どうかあなたの義によって、私を生かして下さい。」(詩篇119:26, 27, 33, 34, 40)

パウロに関して、エペソ書3:14-17で、すべてのクリスチャンはイエスの御名によって神に祈る時、神がクリスチャンを内なる人にある聖霊を通して、強めて下さり、またキリストが信仰を通してクリスチャンの心に住んで下さる。聖霊は信者にキリストの証人やまた、新しい契約の僕となる能力と力を与えて下さる。(使徒1:8)

「その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレムから始まってあらゆる国の人々に述べ伝えられる。あなたがたは、これらのことの証人です。」(ルカ24:47, 48)

「何ごとかを自分のしたことと考える資格が私達自身にあるというわけではありません。私達の資格は神からのものです。神は私達に、新しい契約に仕えるものとなる資格を下さいました。文字に仕えるものではなく、御霊に仕えるものです。文字は殺し、御霊は生かすからです。」(第2コリント3:5, 6)

パウロは第2コリント書12:9-10で次のように書いている。

「しかし、主は、『わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さの内に完全に現われるからである。』といわれたのです。ですから、私は、キリストの力が私を覆うために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。ですから、私は、キリストのために、弱さ、侮辱、苦痛、迫害、困難に甘んじています。なぜなら、私が弱い時にこそ、私は強いからです。」(第2コリント12:9-10)

このことはパウロがコリントにいた時に第1コリント書2:3-5で「あなたがたと一緒にいた時の私は、弱く、恐れおののいていました。そして、私の言葉と私の宣教とは、説得力のある知恵の言葉によって行なわれたものではなく、御霊と御力の現われでした。」

神は私達の自分の虚栄的な強さや能力を私達から取り除き、自分自身の内に私達を弱くされる。それは神が私達の弱さの中に御自身の力を示され、聖霊の力を私達に与えて下さるからである。

C. 聖霊から出た恵みの賜物

聖霊の救い、きよめ、また力を与えて下さる働きに加えて、神の恵みと霊はクリスチャンたちに人々の間での奉仕のための特別な賜物を授けて下さる。

(1) 奉仕の賜物は聖霊がきよめ、用いて下さる一般的な自然の賜物である。

(2) 奇跡的な賜物は人間の生まれながらの才能や賜物とは関連がない。

これらの賜物の双方とも聖書の中でカリスマ（恵みの賜物）とか Pneumatika（Pneuma=霊）、また日本語では「霊の賜物」と俗に呼ばれている。

1. 奉仕の賜物

「こうして、キリスト御自身がある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。」(エペソ4:11)

「一つの体には多くの器官があって、すべての器官が同じ働きはしないのと同じように、大勢いる私達も、キリストにあって一つの体であり、一人一人互いに器官なのです。私達は、与えられた恵みにしたがって、異った賜物を持っているので、もしそれが預言であれば、その信仰に応じて預言しなさい。奉仕であれば奉仕し、教える人であれば教えなさい。勤めをする人であれば勤め、分け与える人は惜しまずに分け与え、指導する人は熱心に指導し、慈善を行なう人は喜んでそれをしなさい。兄弟愛をもって心から互いに愛しあい、尊敬をもって互いに人を自分より優っていると思いなさい。勤勉で怠らず、霊に燃え、主に仕えなさい。望みを抱いて喜び、患難に耐え、絶えず祈りに励みなさい。」(ローマ12:4-12)

「そして、神は教会の中で人々を次のように任命されました、すなわち、第一に使徒、次に預言者、次に教師、それから奇跡を行なうもの、それから癒しの賜物を持つもの、助けるもの、治めるもの、異言を語る者などです。皆が使徒でしょうか。皆が預言者でしょうか。皆が異言を語るでしょうか。皆が解き明かしをするでしょうか。あなたがたは、より優れた賜物を熱心に求めなさい。」(第1コリント12:28-31)

2. 奇跡を行なう賜物

預言の賜物、奇跡、癒し、異言を語る事およびその異言の解釈、説明は奇跡的な、あるいは御霊の現われである。第一コリント書12:4-11において、使徒パウロはこれらの賜物について次のように書いている。

「さて、御霊の賜物にはいろいろの種類がありますが、御霊は同じみ霊です。奉仕にはいろいろの種類がありますが、主は同じ主です。働きにはいろいろの種類がありますが、神はすべての人の中ですべての働きをなさる同じ神です。しかし、皆の益となるために、各々に御霊の現われが与えられているのです。ある人には御霊によって知恵の言葉が与えられ、他の人には同じ御霊にかなう知識の言葉が与えられ、又ある人には同じ御霊による信仰が与えられ、ある人には同一の御霊によって、癒しの賜物が与えられ、ある人には奇跡を行なう力、ある人には預言、ある人には霊を見分ける力、ある人には、異言、ある人には異言を解き明かす力が与えられています。しかし、同一の御霊がこれらすべてのことをなさるのであって、御心のままに、各々にそれ

それぞれの賜物を分け与えてくださるのです。」

御霊は御自身が望まれるように、これらの賜物を分け与えて下さるけれども、クリスチャンたちは、それらを祈り求めるよう勧められている。(第1コリント12:31)

「それゆえ、私の兄弟達。預言することを熱心に求めなさい。異言を話すことも禁じてはいけません。」(第1コリント14:39)

すべての霊的な賜物の使用は「適切に、秩序をもって」(第1コリント14:40)行なわれるべきである。預言や異言を語ることにに関して、このことは、次のようなことを意味している。

「もし異言を話すのならば、二人か、多くても三人で順番に話すべきで、一人は解き明かしをしなさい。もし解き明かすものが誰もいなければ、教会では黙っていなさい。自分だけで神に向かって話しなさい。預言する者も、二人か三人が話し、外の者はそれを吟味しなさい。もしも座席についている別の人に黙示が与えられたら、先の人は黙りなさい。あなたがたは、みながかかわるがわる預言できるのであって、すべての人が学ぶことができ、すべての人が勧めを受けることができますのです。預言者たちの霊は預言者たちに服従するものなのです。それは、神が混乱の神ではなく、平和の神だからです。… こういうわけですから、異言を語るものは、それを解き明かすことができるように祈りなさい。もし私が異言で祈るなら、私の霊は祈るが、私の知性は実を結ばないのです。ではどうすればよいのでしょうか。私は霊において祈り、また知性においても祈りましょう。霊において賛美し、また知性においても賛美しましょう。そうでないと、あなたが霊において祝福しても、異言を知らない人々の座席についている人は、あなたの言っていることが分からないのですから。あなたの感謝について、どうして、アーメンと言えるでしょう。あなたの感謝はけっこうですが、他の人の徳を高めることはできません。私は、あなたがたの誰よりも多くの異言を話すことを感謝していますが、教会では、異言で一万語話すよりは、他の人を教えるために、私の知性を用いて五つの言葉を話したいのです。」(第1コリント14:27、33、13-19)

ある場合において異言を語ることは人々が聖霊を受けた結果として起こる。(使徒2:4-11; 10:46; 19:6)しかし、サマリヤ人たちの場合、このことは述べられていない。第1コリント12:4-11; 14:5、39のみ言葉は、異言を語る事が人が聖霊を受けたことを示すしではないということを示している。というのは、御霊はそれぞれ異った信者にさまざまな賜物をお与えになるからである。すべての者が異言を語る訳ではない。(第1コリント12:30)

パウロは第1コリント書13:1-10で霊的な賜物はどれ一つとして、特別な霊性の尺度のしるしとはいえない。何にもまして大切なしるしは御霊の主な実(ガラテヤ5:22)である。真の愛なしに異言を語る事は「やかましいどらや、うるさいシンバル」のようなものである。愛なしの預言は価値がない。(第1コリント13:1、2)

異言を語ることには二種類ある。その一つは使徒の働き2:6-11で伝えているようにいろいろな国の人々の言語で神の御言葉を述べ伝えたという奇跡的なものであり、それらを話した人達はこの奇跡なしにはそれらの言葉をまったく知らなかったのである。聖霊は超自然的にこのような能力を与えることがお出来になるのである。

また一方、第1コリント12:14では聖霊によって神に異言を語るということが述べられている。

誰一人としてそれを理解することはできない。というのは、それは人間の言葉ではないからである。その言葉は御霊が奇跡的に異言を語るものあるいは他の誰かがその解釈を与える時のみ理解できるものである。

教会の全時代を通じて奉仕および奇跡的な賜物の双方が与え続けられてきている。第1コリント13:8によると、これらの賜物は完全なものが現われる時終りを告げるのである。また、あるいは、信者達が永遠の住家の栄光に移り行く時、もしくは、キリストが力と偉大なる栄光のうちに再臨される時にそうなるのである。

3. 預言：真実と虚実

「主はすべての預言者とすべての先見者を通して、イスラエルとユダとに次のように警告して仰せられた。『あなたがたは悪の道から立ち返れ。私があるがたの先祖達に命じ、また、私の僕である預言者たちを通して、あなたがたに伝えた律法全体にしたがって、私の命令と掟とを守れ。』」(第2列王記17:13)

「主は、彼らを主に立ち返らせようと預言者たちを彼らのなかに遣わし、預言者たちは彼らを戒めたが、彼らは耳を貸さなかった。」(第2歴代誌24:19)

「まことに、神である主は、そのはかりごとを、御自分のしもべ、預言者たちに示さないでは、何事もなさない。」(アモス3:7)

「なぜなら、預言は決して人間の意志によってもたらされたのではなく、聖霊に動かされた人達が、神からの言葉を語ったのだからです。」(第2ペテロ1:21)

「御霊を消してはいけません。預言をないがしろにしてはいけません。」(第1テサロニケ5:19、20)

しかしながら、預言は次の二つの基準によって、試され、判断されなければならない。つまり、

- (1) それらが信仰に依じてのものかどうか(ローマ12:6) すなわち、神の御言葉の教えにそっているかどうか、 また
- (2) それらが実現するかどうかである。

「愛する者達。霊だからといって、みな信じてはいけません。それらの霊が神からの者かどうかを、試しなさい。なぜなら、偽預言者がたくさん世に出てきたからである。」(第1ヨハネ4:1)

「神である主はこう仰せられる。自分でなにも見ないのに、自分の霊に従う愚かな預言者どもに災いが来る。… 彼らはむなししい幻を見、まやかしの占いをして、「主のみつげ。」といている。主が彼らを遣わされないのに。しかも、彼らはそのことが成就するのを待ち望んでいる。… 実に、彼らは、平安がないのに、『平安。』といって、私の民を感わし、壁を建てると、すぐ、それを漆喰で上塗りしてしまう。」(エゼキエル13:3、6、10、22)

「万軍の主は、預言者たちについて、こうおおせられる。『見よ。私は彼らに、苦よもぎを食べさせ、毒の水を飲ませる。汚れがエルサレムの預言者たちから出て、この全土に広がったからだ。』万軍の主はこう仰せられる。「あなたがたに預言する預言者たちの言葉を聞くな。彼らはあなたがたをむなししいものにしようとしている。主の口からではなく、自分の心の幻を語っている。彼らは、私を侮るものに向かって、『主はあなたがたに平安があると告げられた。』ときりに言っており、また、かたくなな心のままに歩むすべての者に向かって、『あなたがたには災いが来ない。』といている。」(エレミヤ23:16、17)

イエスは「偽預言者たちに気をつけなさい。彼らは羊のなりをしてやってくるが、うちは貪欲な狼です。あなたがたは、実によって彼らを見分けることができます。葡萄は、いばらからは取れないし、いちじくは、あざみから

取れるわけがないでしょう。」とっておられる。(マタイ7:15、16)

この教会の時代の最終的なもっとも悪どい偽預言者は反キリスト者である。(第1ヨハネ2:18-23; 第2テサロニケ2:3-12; 黙示録13:11-17; 16; 13-14; 19:20-21)

4. いやし

イエスは「それから、神の国をのべ伝え、病気を治すための、力と権威とお授けになった。それから、神の国をのべ伝え、病気を直すために、彼らを遣わされた。」「こうして12人が出ていき、悔い改めを説き広め、悪霊を多く追い出し、大勢の病人に油を塗っていやした。」(マルコ6:12、13)

「信じるものには次の様なしるしが伴います。すなわち、私の名によって悪霊を追い出し、新しい言葉を語り、蛇をも掴み、たとい毒を飲んでも決して害を受けず、また、病人は癒されます。」(マルコ16:17、18)

「又ある人には同じ御霊による信仰が与えられ、ある人には同一の御霊によって、いやしの賜物が与えられ、…」(第1コリント12:9)

「あなたがたのうちに病気の人がいますか。その人は教会の長老達を招き、主の御名によって、オリーブ油を塗って祈ってもらいなさい。信仰による祈りは、病む人を回復させます。主はその人を立たせて下さいます。また、もしその人が罪を犯していたなら、その罪は赦されます。ですから、あなたがたは、互いに罪を言い表わし、互いのために祈りなさい。癒されるためです。義人の祈りは働くと、大きな力があります。」(ヤコブ5:14-16)

長老達はただその人の癒しのために祈るだけでなく「牧会」をもその人に施すべきである。その目的はその人に自分の罪を悔い改めさせる機会を与えた後、その人にイエスの御名と血によって罪のゆるしを宣言することである。

12. 神の御国とキリストの教会

神のみ国は二つの部分を持っている。

(1) この地上の恵みの御国、言い換えるとそれは生まれ変わった信者の教会である。

(2) 見えない世界の栄光の御国、つまり、それは天のすまいの勝利の栄光の教会である。

イエスは「私の国はこの世の者ではありません。もしこの世の者であったなら、私の僕たちが、私をユダヤ人に渡さないように、敬ったことでしょう。しかし、事実、私の国はこの世の者ではありません。」(ヨハネ18:36)といわれた。

「さて、神の国はいつ来るのか、とパリサイ人たちにたずねられたとき、イエスは答えて言われた。『神の国は、人の目で認められるようにして来るものではありません。【そら、ここにある。】とか言えるようなものではありません。いいですか。神の国は、あなたがたのただ中にあるのです。』」(ルカ17:20、21)

また、使徒パウロは「なぜなら、神の国は飲み食いのことではなく、義と平和と聖霊による喜びだからです。」(ローマ14:17)と書いている。

恵みの御国としての神の御国は信者の心のうちにある。それは不信者の間に存在しない。

神の御国はキリストに従う者たちの羊の群れである。イエスは「私はよい牧者です。私は私の者を知っています。また、私の者は、私を知っています。… 私の羊は私の声を聞き分けます。また私は彼らを知って

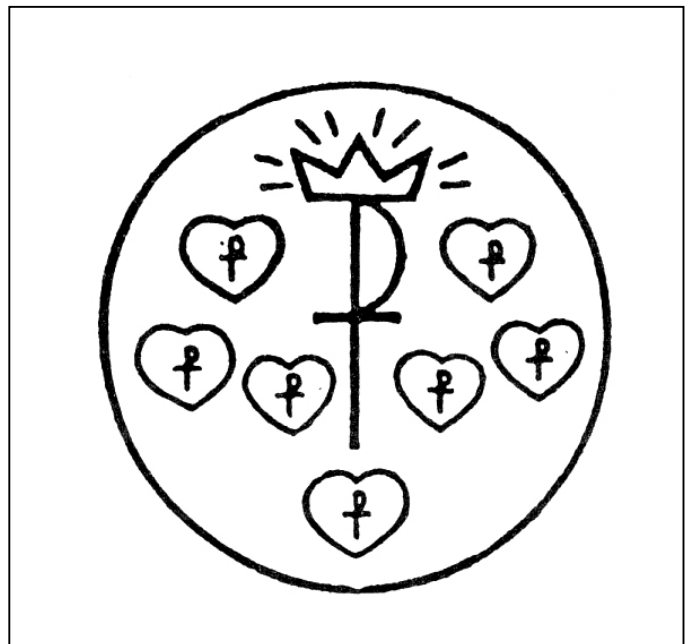
います。そして彼らは私についてきます。…しかし、他の人には決してついていきません。かえって、その人から逃げ出します。その人達の声を知らないからです。」(ヨハネ10:14、27、5)

イエスの真の弟子たちは非聖書的な教理を教えるものたちを受け入れることも又、そのようなものたちに従うことはない。イエスはまた次のように言うておられる。

「しかし、ほかの人には決してついていきません。かえって、その人から逃げ出します。その人達の声を知らないからです。」イエスはこのたとえを彼らにお話になったが、彼らは、イエスの話されたことが何のことかよく分からなかった。そこで、イエスはまた言われた。

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。私は羊の門です。私の前に来たものはみな、盗人で強盗です。羊は彼らの言うことを聞かなかったのです。私は門です。誰でも、私を通してはいるなら、救われます。また安らかに出入りし、牧草を見つけます。盗人が来るのは、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするだけのためです。私が来たのは、羊が命を得、またそれを豊かに持つためです。私はよい牧者です。よい牧者は羊のために命を捨てます。牧者でなく、また、羊の所有者でない雇い人は、狼が来るのを見ると、羊を置きざりにして、逃げていきます。それで、狼は羊を奪い、また散らすのです。それは、彼が雇人であって、羊のことを心にかけないからです。私はよい牧者です。私は私の者を知っています。また、私の者は、私を知っています。それは父が私を知っておられ、私が父を知っているのと同様です。また、私は羊のために私の命を捨てます。」(ヨハネ10:5-16)

キリストを表わすのに用いられる記しはXとPを重ねたものである。ギリシャ語（新訳聖書の原語）でキリストをXRISTOSというふうに書かれることから✠というふうに表示される。右の図は真のキリスト教会または恵みの御国を象徴している。この図は信仰を通して心の中にキリストを持っている人達またキリストとともに歩む人達の集まりを示している。図の中の王冠は神の御国の王としてのキリストを示している。



パウロはエペソ人への手紙1:22、23

で「また神は、いっさいのものをキリストの足のしたにしたがわせ、一切のものの上に立つ頭であるキリストを、教会にお与えになりました。教会はキリストの体であり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところ。」と書いている。また回書5章25-27節で次のようにいっている、

「夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のために御自身を捧げられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。キリストがそうされたのは、御言葉により、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、…」

キリストは御自分を全世界の人のためにいけにえとされたがキリストは御自分を信じるものたちを特別な方法で愛して下さり、御自分の血と御霊によって洗いきよめて下さる。それらのうちには洗礼の意味と目的が含まれている。水と福音の言葉による洗いは第1コリント12:13でパウロが言っているように現実のものとなった。

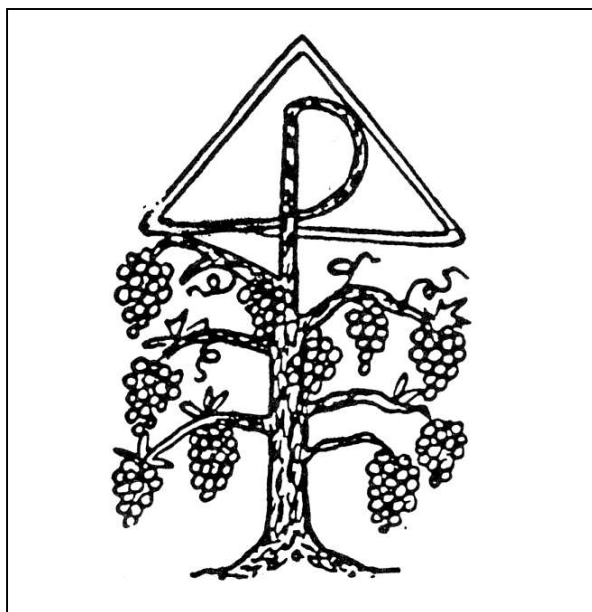
「なぜなら、私達はみな、ユダヤ人もギリシャ人も、奴隷も自由人も、一つのからだとなるように、一つの御霊によって、バプテスマを受け、そしてすべてのものが一つの御霊を飲む者とされたからです。」

霊による洗礼又は、霊によって生まれることは（ヨハネ3：5）、回心あるいは入信する時に起こるものである。ただ名前だけのキリスト教会員は真のキリストの体の肢体とはならない。キリストの血による罪の赦しが与えられ、御霊がその人のうちに臨むことによってはじめて、キリストに繋がる者とされる。

パウロはローマ8：9で「けれども、もし神の御霊があなたがたのうちに住んでおられるなら、あなたがたは肉の中にはなく、御霊の中にいるのです。キリストの御霊を持たない人は、キリストの者ではありません。」

イエスは基本的な真理を次のように語っておられる。

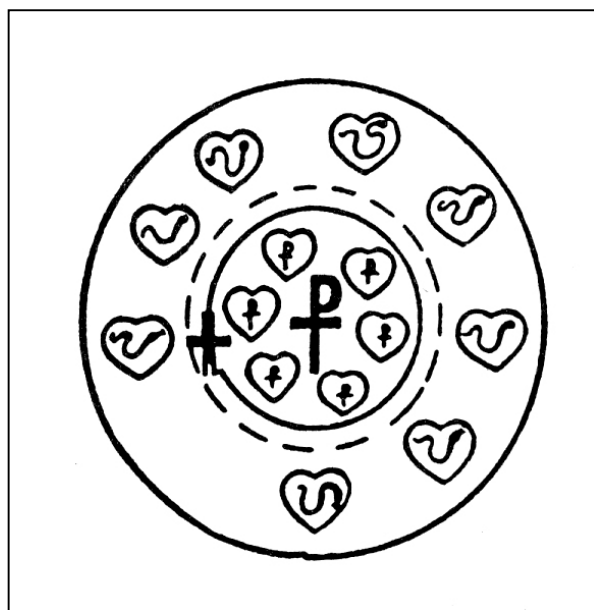
「わたしはまことのぶどうの本であり、… あなたがたは枝です。人がわたしのうちに留まり、私もその人の中に留まっているなら、そういう人は多くの実を結びます。私を離れては、あなたがたは何もすることができないからです。誰でも、もし私に留まっていなければ、枝のように投げ捨てられて、枯れます。人々はそれを寄せ集めて火に投げ込むので、それは燃えてしまいます。あなたがたが私に留まり、私の言葉があなたがたに留まるなら、なんでもあなたがたの欲しいものを求めなさい。そうすれば、あなたがたのためにそれがかなえられます。（ヨハネ15：1-7）



キリストの体と真の葡萄の木としての教会の意味するところは同じである。葡萄の木が幹から枝に流れる養分によって、実を実らせるように、頭は体の肢体の働きや機能によって活発なものとなる。

「体は一つ、御霊は一つです。あなたがたが召されたとき、召しのもたらした望みが一つであったのと同じです。主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つです。すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのものの中におられる、すべてのものの父なる神は一つです。」（エペソ4：4-6）

使徒信条において、私達は「一つの教会、聖徒の交わり」を信じていることを告白する。外的な教会の会員の一部分が聖徒の交わり、又は神を信じる神の子どもに属している。この事実はいま右の図のような同心円で表わされる。内心円は心のうちにキリストを持っているものたちで、その外円は表面的な教会の会員で、心の中に「古い蛇」（黙示12：9）を持っているものたちで新しく生まれ変わっていない人々のこ



とである。しかし、そのような人達もキリストの十字架である門をとおして真のクリスチャンの交わりにはいることができる。

「私は門です。誰でも、私を通してはいるなら救われます。また安らかに出入りし、牧草を見つけます。」

信仰にはいり、そのうちに生きているものたちは神の家族や御国を形成するようになる。それはエペソ書2：19－22で述べられているとおりである。「こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、いまは聖徒たちと同じ国民であり、神の家族なのです。あなたがたは使徒と預言者という土台の上に立てられており、キリスト・イエス御自身がその礎石です。この方にあつて、組み合わされた建物の全体が成長し、主にある聖なる宮となるのであり、このキリストにあつて、あなたがたもともに建てられ、御霊によって神のみすまいとなるのです。」

信者の交わりである教会はキリストのうちにあるが同時にそれはこの世にある。

イエスは「私はもう世にいません。彼らは世にいますが、私はあなたのみもとにまいります。聖なる父。あなたが私に下さっているあなたの御名の中に、彼らを保ってください。それは私達と同様に、彼らが一つとなるためです。…彼らをこの世から取り去ってくださるようというのではなく、悪いものから守ってくださるようお願いします。私がこの世のものでないように、彼らもこの世のものではありません。真理によって彼らをきよめ別ってください。あなたの御言葉は真理です。あなたが私を世に遣わされたように、私も彼らを世に遣わしました。私は、彼らのため、私自身をきよめ別ちます。彼ら自身も真理によってきよめ別たれるためです。私は、ただこの人々のためだけでなく、彼らの言葉によって私を信じる人々のためにもお願いします。」(ヨハネ17:11、15－21)とっておられる。

栄光の御国である勝利に満ちた教会に入るためには人は、まず真の教会の恵みの御国に入る必要がある。天の御国に通じる真直な道や入口はない。神の子供は恵みの御国で勝利の印として命の冠としゆるの枝を手にする事になっている。

この世において真の教会の会員は、悪魔である「古い蛇」によって支配され、そそのかされる世によって取り囲まれている。クリスチャンたちはあざけり、憎悪又しばしばこの世のあるところで迫害の十字架さえ負わなければならないことがある。しかしながら、クリスチャン達はキリストの保護、守り、又キリストの贖いの十字架の下にある。

イエスは「もしあなたがたがこの世のものであったなら、世は自分のものを愛したでしょう。しかし、あなたがたは世のものではなく、かえって私が世からあなたがたを選び出したのです。それで世はあなたがたを憎むのです。僕はその主人に勝るものではない、と私があなたがたに言った言葉を覚えておきなさい。もし人々が私を迫害したなら、あなたがたをも迫害します。もし彼らが私の言葉を守ったなら、あなたがたの言葉をも守ります。…私がこれらのことを話したのは、あなたがたが私にあつて平安を持つためです。あなたがたは、世にあつては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。私はすでに世に勝ったのです。」(ヨハ



ネ15:19-20、16:33)キリストを信じるものたちはこの世に単なる寄留者であるだけでなく、キリストによって与えられた使命と宣教の役目が与えられている。

「あなたが私を世に遣わされたように、私も彼らを世に遣わしました。」(ヨハネ17:18) クリスチャンたちの使命は御霊の両刃の剣である神の御言葉(ヘブル4:12、エペソ6:17)、律法と福音を使い、人々をキリストに悔い改めと信仰を通して、導くことである。ほかの比喻を使って言い表わすとすれば、クリスチャンたちは神の収穫の畑で耕し、魂の作物を刈り入れる(比較マタイ9:37-38、ヨハネ4:35-38の中に見るスコップや鎌のこと)ように働かなくてはならない。

聖書は、又教会を神の宮(エペソ2:21)と呼んでいる。この宮は石や木で作られたものではなく、キリストのもとに来て、キリストのうちにある恵みや新しい命を得た人々によって形成されている。

ペテロは次のように書いている。「主のもとに来なさい。主は、人には捨てられたが、神の目には、選ばれた、尊い、生ける石です。あなたがたも生ける石として、霊の家に築き上げられなさい。そして、聖なる祭司として、イエス・キリストを通して、神に喜ばれる霊のいけにえを捧げなさい。」(第1ペテロ2:4-5)

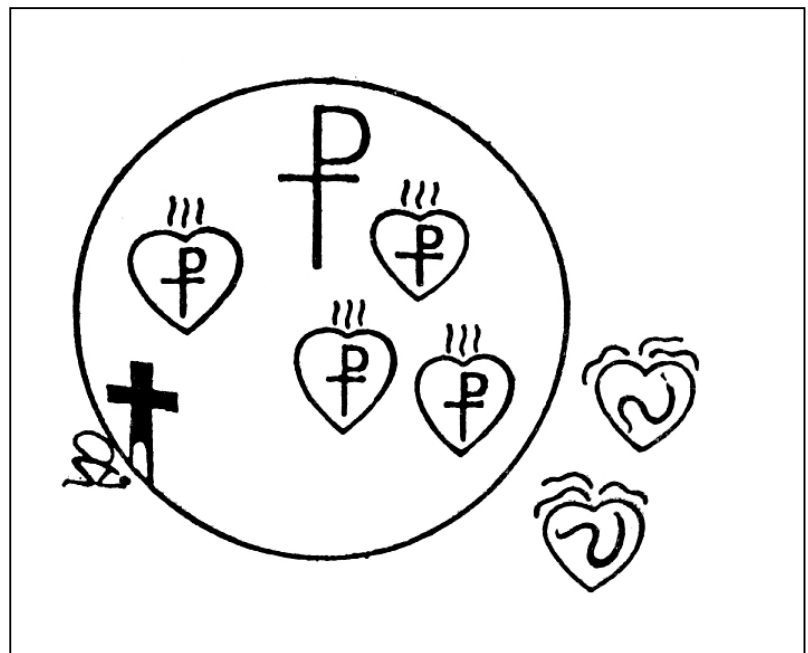
教会の霊的な宮なる家において、キリストはすみ石であられる。キリストの使徒や預言者たちはその土台に属している。その土台は世々の世代を通して増し加えられた、生きた石である信者達によって積み重ねている。

ほとんどの人々は恵みの御国あるいは真の教会の外側に生きているために、神の民にとってもっとも心の重荷となる祈りの一つは、滅びに至る幅広い道を歩む人達のための救いである。(マタイ7:13)パウロはこのような類の愛の悲しみを負うっていた。パウロがキリストのないこの世で何の望みもない人々のために祈ったのはこのためであった。

「私には大きな悲しみがあり、私の心には絶えず痛みがあります。もしできることなら、私の同胞、肉による同国人の

ために、この私がキリストから引き離された、呪われたものとなることさえ願いたいのです。…兄弟達。私が心の望みとし、また彼らのために神に願い求めているのは、彼らの救われることです。(ローマ9:2-3、10:1)

救われていない人々にたいするこのような類の重荷と祈りが益々私達のうちに働くことを望みたいものである。このような祈りに答えて神は人々をキリストに引き寄せ、彼らにキリストの恵みを求める謙虚さを与え、また十字架の門を通して御国に入ることができるようにして下さる。ホセヤ書14:2で「あなたがたは言葉を用意して、主に立ち返り、そして言え、『すべての不義を赦して、よいものを受け入れて下さい。私達は唇の果実を捧げます。』…」と勧めている。



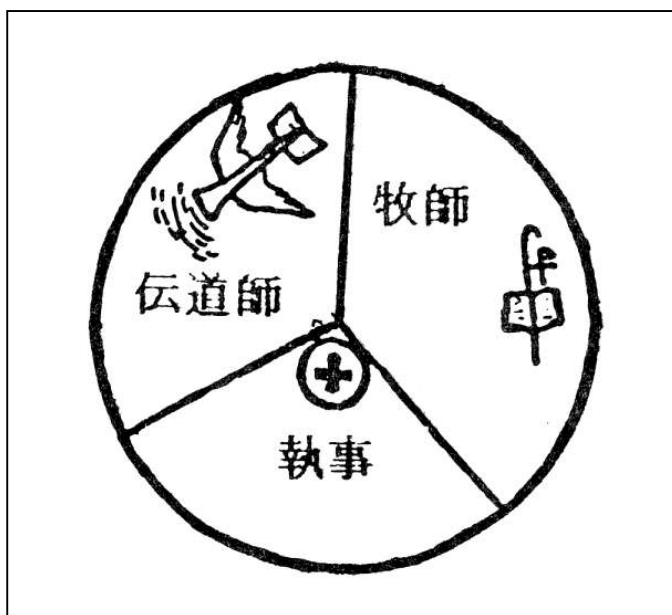
13. 教会の奉仕と職務

信者の一般祭司制は和解の奉仕である。その役目は人々が回心して、神を信じる神の子供となるように、和解の御言葉をのべ伝えることである。

「すなわち、神は、キリストにあって、この世を御自分と和解させ、違反行為の責めを人々に負わせないで、和解の言葉を私達に委ねられたのです。… 神の恵みを無駄に受けないようにして下さい。」(第1コリント5:19、6:1)

和解の一般的な奉仕、あるいは一般的な公的な奉仕の中から神は伝道師、牧師、教師および執事などの特別な公的な奉仕に選び任命される。

右上の図は伝道師たちが人々の魂を悔い改めと信仰に導くことによって、キリストに魂を勝ちとる賜物や職務をいかにして持つことができるようになるかを示している。牧師、教師および長老や監督はそれぞれの地方教会、つまりキリストの群れを「世話」するように定められている。



パウロとバルナバは「すべての教会において長老を任命した。」(使徒14:25)この使徒たちは第二回目の宣教旅行中、諸教会を二度目に訪れた時このことを行なった。パウロはピリピ教会に次のように書き送って、挨拶をかわした。

「キリスト・イエスのしもべであるパウロとテモテから、ピリピにいるキリスト・イエスにあるすべての聖徒たち、また監督と執事たちへ。」(ピリピ1:1)

執事の役目は助けを必要とするクリスチャンや他の実際的な事柄に援助や世話をすることである。ローマ書16:1でケンクレヤ教会の執事のフィベについて述べている。エペソ書4:11によるとキリストは教会にある者を伝道師又あるものを牧師や教師としてお与えになったとある。また、第1テモテ3:1-13でパウロは執事や監督の資格について教えている。

次の頁の簡単な図に示されたように、一般信者の祭司や特別奉仕に預かるものたちの基本的な役目は次にあげるものである。

1) 律法をのべ伝え、未信者や罪の幅広い道がどのようにして地獄に通じるかを示し、人々にその道からキリストに向かうように勧めること



2) 「古い蛇」の力のもとにある人々に悪や罪の道から悔い改め、罪の赦しを求め、キリストおよびキリストの十字架である扉を通して恵みの御国に入るよう呼びかけること。

3) 個人的な告白において誰かが自分の心を開いて、自分の生活上の罪や他の問題の荷を神の前におろす時、神の僕（普通一般の信徒もこの中に入る）はその人と祈り、手をその人の上に置きキリストの御名において又、その贖いの血潮によって必要に応じて、その人には又神の言葉による他の相談や支持が与えられるべきである。パウロはコロサイ 1 : 28 で次のように書いている。

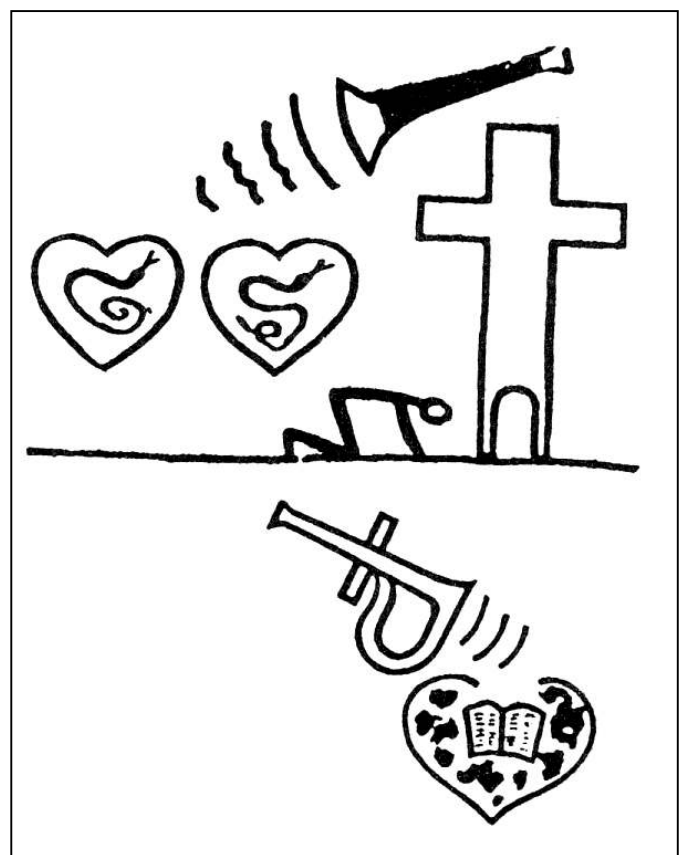
「私達は、このキリストをのべ伝え、知恵を尽くして、あらゆる人を戒め、あらゆる人を教えています。それは、すべての人を、キリストにある成人として立たせるためです。」

「また、互いに勧めあって、愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。ある人々のように、一緒に集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。」(ヘブル10:24-25)

4) 奉仕者やすべてのクリスチャンたちは
く1) 他の信者たち く2) 御言葉を語る僕たち
く3) 未信者のために祈るべきである。聖書は次のように言っている。

「すべての祈りと願いを用いて、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのためには絶えず目を覚ましていて、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くし、また祈りなさい。また、私が口を開くとき、語るべき言葉が与えられ、福音の奥義を大胆に知らせることができるように私のためにも祈って下さい。」(エペソ6:18-19)

5) 礼典の執行は御言葉に仕える僕の大切な役目である。礼典の正しい使用と意味に関する聖書的な教えを施すことは、御言葉に仕える僕たちの一つの職務である。また、病人のために祈り、主の御名によって、油注ぎをすることもそうである。(ヤコブ 5 : 14-16)



6) 結婚の挙式、葬式での奉仕も、又牧師の職務である。これらの特別な出来事は結婚、家庭生活、またクリスチャンとしての罪の悔い改め、赦し、幸せな永遠の将来のための生活の重要性についての教え、指導を施すことのできる機会を含んでいる。

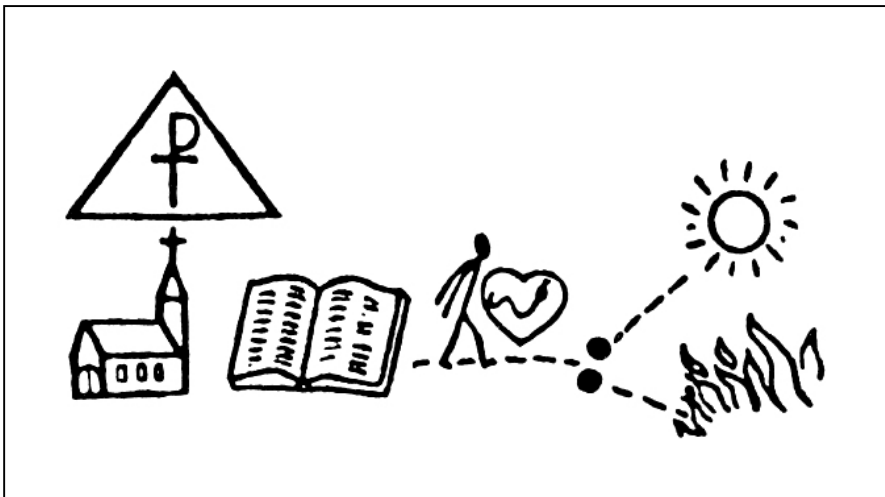
14. 回心 —— 新生 —— 入信

回心あるいは新生（新らしく生まれること）は救いに不可欠である。

イエスは「私はあなたがたに言います。あなたがたも悔い改めないなら、みな同じように滅びます。」(ルカ 13:3)とっておられる。

「悔い改める」という言葉は改心させる、また回心ということをもともと意味している。そしてこの言葉が信仰、信じるという意味を持つ言葉とともに使われるとき（マルコ1：15）あるいは、赦しとともに使われるとき、（ルカ24：47）それは罪の認識とその悔い改めの告白を意味する。イエスは次のようにこのことについて言っておられる。

「イエスは答えて言われた。『まことに、まことに、あなたに告げます。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。』ニコデモは言った。『人は老年になっていて、どのようにして生まれることができるのですか。もう一度、母の胎に入ってから生まれることができましようか。』イエスは答えて言われた。『まことに、まことに、あなたに告げます。人は、水と御霊によって生れなければ、神の国に入ることができません。肉によって生まれたものは肉です。御霊によって生まれたものは霊です。』…」（ヨハネ3：3-6）



神の慈愛に満ちた御心は、すべての人が心を変え、高ぶりの心で神と神の教会、御言葉に背を向けた不信仰を悔い改め、神に立ち戻ることである。「古い蛇」である悪魔はそのような人々の心のうちに働いており、死に導いており、死後、彼らは地獄の火の中に永遠の生涯を過ごすことに定められている。聖書は次のように言っている。

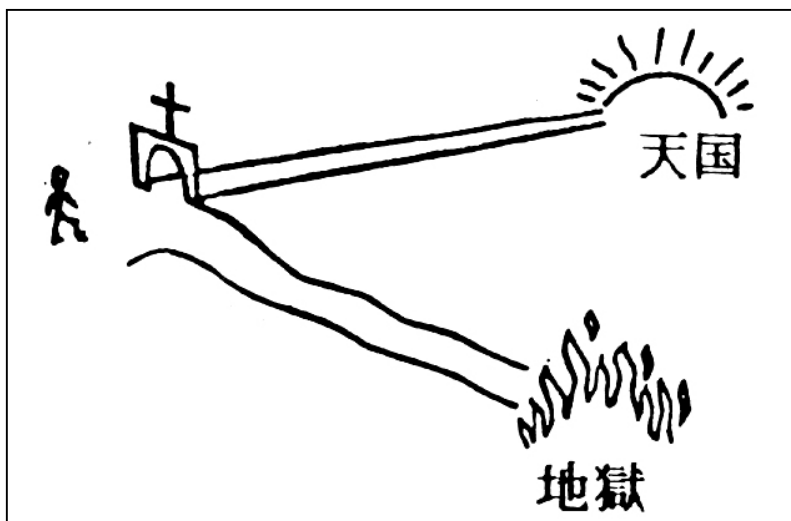
「主は、ある人達が遅いと思っているように、その約束のことを遅らせておられるのではありません。かえって、あなたがたにたいして忍耐深くあられるのであって、一人でも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。」（第2ペテロ3：9）

「彼らにこう言え。『私は誓って言う。… 神である主の御告げ。… 私は決して悪者の死を喜ばない。かえって、悪者がその態度を悔い改めて、生きることを喜ぶ。悔い改めよ。悪の道から立ち返れ。イスラエルの家よ。なぜ、あなたがたは死のうとするのか。』…」（エゼキエル33：11）

神の訪れの時の交差点に差しかけた人間

神が人間をその神に齒向かう道から立ち戻るように呼び掛ける時、その人はどちらを選ぶかという分かれ目に差し掛かっている。

「私は、今日、あなたがたにたいして天と地とを、証人に立てる。私は、命と死、祝福と呪いを、あなたのために置く。



あなたは命を選びなさい。あなたもあなたの子孫も生き、あなたの神、主を愛し、御声に聞きしたが、主にすがりなさい。確かに主はあなたの命であり、あなたは主が、あなたの先祖、アブラハム、イサク、ヤコブに与え

ると誓われた地で、長く生きて住む。』(申命記30:19-20)

人間はその時「神の訪れの時」を迎えることになる。(ルカ1 9 : 44 ; 第1ペテロ2 : 12) 又、イザヤ書55 : 6-7はこのように時に差しかかった人々に次のように言っている。

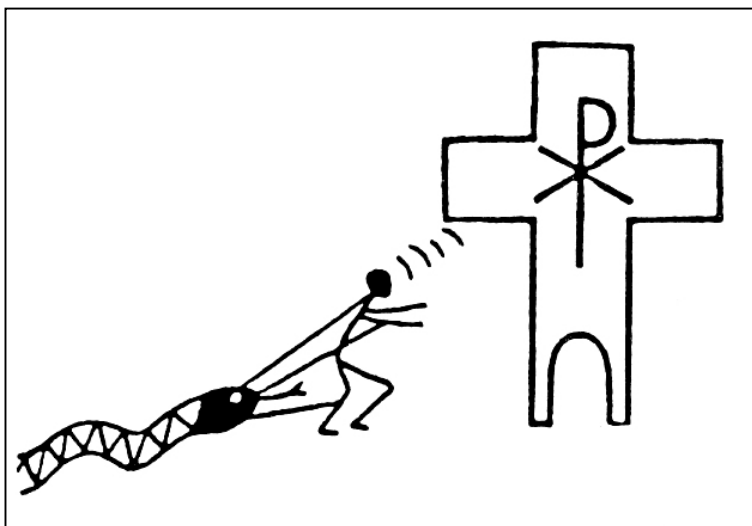
「主を求めよ。お会いできる間に、近くにおられるうちに、呼び求めよ。悪者はおのれの道を捨て、不法者はおのれの計りごとを捨てさせ。主に帰れ。そうすれば、主は哀れんで下さる。私達の神に帰れ。豊かに許して下さいから。」また主は次のようにも言っておられる。すなわち、

「私の名を呼び求めている私の民が自らへりくだり、祈りを捧げ、私の顔を慕い求め、その悪い遺から立ち返るなら、私が親しく天から聞いて、彼らの罪を赦し、彼らの地を癒そう。」(第2歴代誌7:14)

「地の果てのすべての者よ。私を仰ぎ見て救われよ。私が神である。他にはいない。」(イザヤ45:22)

「今日もし御声を聞くならば、御怒りを引き起こした時のように、心を頑なにしてはならない。」(ヘブル3:15)

イエスは「あなたがたの宝のあるところに、あなたがたの心もあるからです。」(ルカ12:34)といわれた。



このようなとき、人間はキリストを選ぶかこの世を選ぶかの秤にかけなければならない。

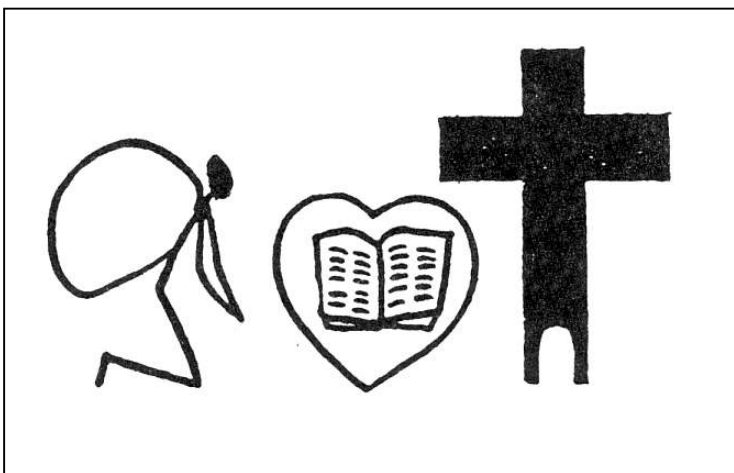
神が訪れて下さる時、神は人をキリストに引き寄せて下さるが、悪魔はそれを阻もうとする。「古い蛇」は特に次の三つの「綱」をあるいは弁明を使おうとする。

- 1) いまはふさわしい時ではない又今度にしよう。
- 2) 自分がクリスチャンであると告白したとすれば他の人は自分をあざ笑うというような迫害を受けるだろう。
- 3) 楽しみとか儲かる商売のようなものを拒み過ぎる。

もしこのような言い訳を悪魔が又、肉の心がほのめかしていると感じたなら、祈りをもってイエスに向かい、このような悪魔の「綱」を断ち切って下さるようイエスにお願いすることである。まさに、このような時は永遠の運命が危機の状態にあるからである。

悔い改めと回心

第2歴代誌7章14節「私の名を呼び求めている私の民が自らへりくだり、祈りをささげ、私の顔を慕い求め、その悪い道から立ち返るなら、私が親しく天から聞いて、彼らの地を癒そう。」とあるように、救われたいと望むものは



- 1) 自らへりくだる者、

2) 祈りを捧げ、御顔を慕い求めるもの、

3) 悪の道から立ち返るものでなければならない。また、聖書は外の時代にも同じことを次のように語っている。

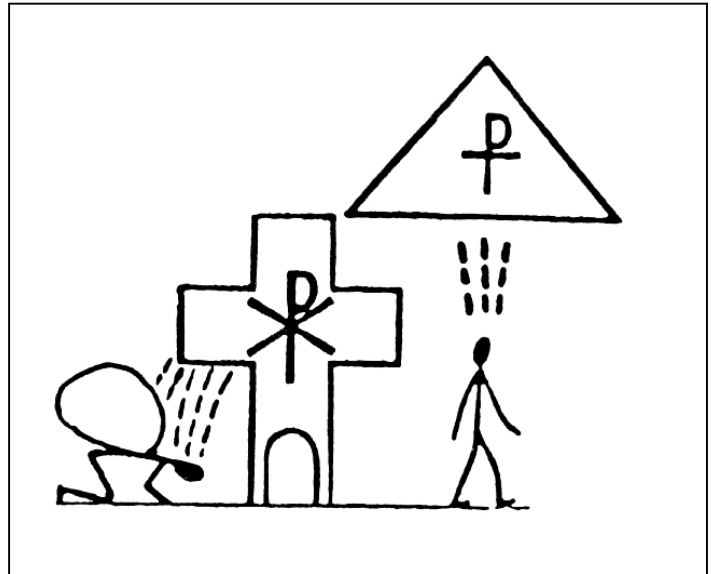
「自分の背きの罪を隠すものは成功しない。それを告白して、それを捨てる者は憐みを受ける。」(箴言28:13)

「そういう訳ですから、あなたがたの罪を拭い去って頂くために、悔い改めて、神に立ち返りなさい。」(使徒3:19)

「もし、私達が自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪をゆるし、すべての悪から私達をきよめて下さいます。」(第1ヨハネ1:9)

右の図は悔い改めた神の恵みを求める人が自分の罪の重荷を背負っており、ひざまずいて神の慈愛を祈り求めているところを示している。そして、自分の罪の告白で、彼は心のうちの良心に「記録」された(本)を開いて、キリストの十字架の供え物とその血潮の故に与えられる罪の赦しと救いを求めている。

神の恵みを求める人のために牧師、伝道者あるいは他のクリスチャンたちはその人の頭の上に手を置いて、次のように宣言すべきである。「元気を出しなさい。イエス様の御



名と贖いの血潮によって、あなたのすべての罪は今赦されました。イエス・キリストの血潮はすべての罪からあなたをきよめて下さいました。あなたはこのことを信じますか。」「はい、信じます。イエス様ありがとうございます。あなたは私に罪の赦しを与えて下さいました。どうかあなたの聖霊を与えて下さり、信仰の従順とあなたの御言葉の光のうちに歩む弟子となれますようお願いいたします。」

上の図に於いて見られる「滴り」はイエスとその十字架から出たものであり、福音の言葉または罪の赦しによって悔い改めた罪人の上に注がれたイエスの血潮を象徴している。この血潮の滴りを受け取ることによって、その人は神の霊によって生まれ変わった人となる。それはちょうど第1ペテロ1:2-3、22に書いてある通りである。

「父なる神の予知に従い、御霊のきよめによって、イエス・キリストに従うように、またその血の注ぎかけを受けられるように選ばれた人々へ。どうか、恵みと平安が、あなたがたの上に益々豊かにされますように。…あなたがたは真理に従うことによって、魂をきよめ、偽りの無い兄弟愛を抱くようになったのですから、互いに心から熱く愛し合いなさい。」

病気で罪を悔い改めた人がイエスのもとに連れてこられた時、イエスは「子よ。しっかりしなさい。あなたの罪はゆるされた。」と言われた。

イエスはまた弟子たちに「…罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレムから始まってあらゆる国の人々にのべ伝えられる。」と言われた。(ルカ24:47)

また、別のところで、「あなたがたが誰かの罪を赦すなら、その人の罪は赦され、あなたがたの罪をそのまま残すなら、それはそのまま残ります。」と言われた。(ヨハネ20:23)

福音を述べ伝えることを拒むことによって又、罪を悔い改め、捨てることを望まないために自分の罪に縛り付けられていると人に言うことによって、罪は残る。

前ページの図において、赦された、生まれ変わった人が門を通して恵みの御国に入ったことが表現されている。その人はいま恵みのもとにあり三位一体の神の愛と恵みのもとにあり、神の子どもとして父なる神に祈ることができる。

「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。この人々は、血によってではなく、肉の欲求や人の意欲によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。」(ヨハネ1:12-13)

「神は、私達が行なった義の業によってではなく、御自分の哀れみの故に、聖霊による、新生と更新との洗いをもって私達を救って下さいました。神は、この聖霊を、私達の救い主なるイエス・キリストによって、私達に豊かに注いで下さったのです。それは、私達がキリストの恵みによって義と認められ、永遠の命の望みによって、相続人となるためです。」(テトス3:5-7)

「新生による洗い」とは福音と洗礼によるイエスの血潮によるきよめと赦しである。聖霊は信仰に対する心と精神、又神への愛と喜んで従う従順さを新しくして下さい。



新生あるいは新しい誕生は、洗礼と回心とから成り立っている。新生は赦しあるいは義および聖霊による更新を含むものである。これについてパウロは次のように書いている。

「あなたがたは、人を再び恐怖に陥れるような、奴隷の霊を受けたのではなく、子として下さる御霊を受けたのです。私達は御霊によって、『アバ、父よ』と呼びます。私達が神の子供であることは、御霊ご自身が、私達の霊と共に、証して下さいます。」(ローマ8:15-16)

聖書はこれを御霊による「封印」と呼んでいる。

「神はまた、確認の印を私達に押し、保証として、御霊を私達の心に与えて下さいました。」(第2コリント1:22)

15. 恵みの手段

御霊が人々のうちに回心あるいは新しい誕生を生み出される時、御霊はこの業において、キリストの体の肢体である教会の会員を、御霊の代理人として、また福音の御言葉および御霊御自身の手段として用いられる。聖書は私達の生活のノルマ



であり、又教理基準である。それはまたクリスチャンの説教や教えの源であり、標準である。聖霊は聖書を通して悔い改めと信仰を生み出し、また、聖書を祈って学ぼうとするものに導き、啓発、慰め、

励ましなどをお与えになる。しかしながら、普通、聖霊は御言葉や個人的な牧会を通して罪人を義に導き、救いの信仰をお与えになる。

「そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについての御言葉によるのです。」(ローマ10:17)

「私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシャ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。なぜなら、福音のうちには神の義が啓示されているからです。『義人は信仰によって生きる。』と書いてあるとおりです。」(ローマ1:16-17)

このためイエスは弟子達に次のように指示された。「…「次のように書いてあります。キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえる、その名によって、罪のゆるしを得させる悔い改めが、エルサレムから始まってあらゆる国の人々にのべ伝えられる。」(ルカ24:46-47)

また、聖なる礼典においても、福音の御言葉は信仰の火を点火させるための実際的な手段である。キリストは御言葉による水の洗い(エペソ5:26)によって人々を洗い、きよめられる。聖なる聖餐における実際の恵みの手段はイエスが唱えられた次の御言葉である。

「これはあなたがたに与える、わたしの体です。」

「この杯は、あなたがたのために流されるわたしの血による新しい契約です。」ちょうどマッチがろうそくの火をつけるように福音の言葉は人間の心に信仰の火をともし神によって与えられた手段である。

A. 聖書の御言葉を述べ伝える事と教える事

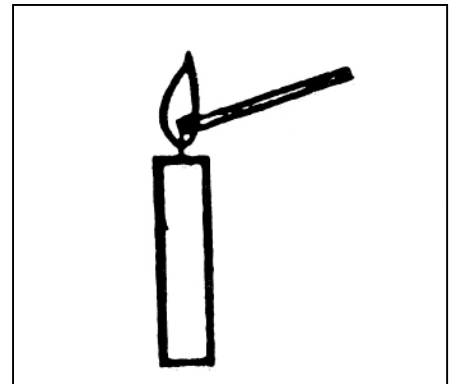
真理の聖書の言葉はその通りに純粋に変えることなく、何も取り去ることも、又人間的な考えを加えることなく、述べ伝えられ教えられなければならない。

主はモーセを通して次のように言われた。「私があなたに命じる言葉に、付け加えてはならない。また、減らしてはならない。私があなたがたに命じる、あなたがたの神、主の命令を、守らなければならない。」

「さて、兄弟達。以上、私は、私自身とアポロにあてはめて、あなたがたのために言ってきました。それは、あなたがたが、私達の例によって、『書かれていることを越えない。』ことを学ぶため、そして、一方に組みし、他方に反対して高慢にならないためです。」(第1コリント4:6)

「誰でも行き過ぎをして、キリストの教えのうちに留まらないものは、神を持っていません。その教えのうちに留まっているものは、御父をも御子をも持っています。」(第2ヨハネ9)

「…もし誰かが、あなたがたの受けた福音に反することを、あなたがたに述べ伝えているなら、そのものは呪われるべきです。」(ガラテヤ1:9)



キリストの基本的な教えは「キリストの御名において罪の赦しを得させる悔い改め」である。(ルカ24:47) 悔い改めの最初の部分は罪の知識と認識である。

「… 律法によってはかえって罪の意識が生じるのです。」(ローマ3:20)

「… 律法は罪なのでしょうか、絶対にそんなことはありません。ただ、律法によらないでは、私は罪を知るこ

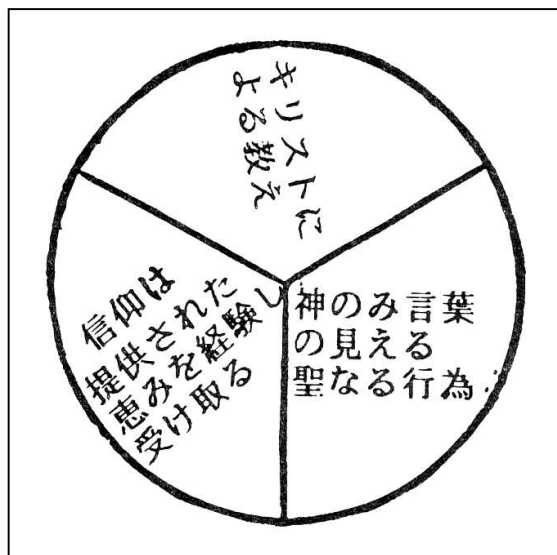
とがなかったでしょう。』(ローマ7:7)

キリストにある赦しと恵みの福音は自分たちの罪を悔い改め、それらを告白し、神の慈愛を祈り求める人々に述べ伝えられなければならない。

「自分の背きを隠すものは成功しない。それを告白して、それを捨てるものはあわれみを受ける。」(箴言28:13)

恵みの約束は悔い改めないものたちには述べ伝えられる必要はない。「医者が必要とするのは丈夫なものではなく、病人です。私は正しい人を招くためではなく、罪人を招いて、悔い改めさせるために来たのです。」(ルカ5:31-32)

これは「真理の御言葉をまっすぐ解き明かす」ことにおいて基本的なことであり、またそれはすべてのクリスチャンの職務であるが、特に御言葉に仕える奉仕者の使命である。またその他の大切なことは次の通りである。すなわち、人々はまず最初に回心して、キリストを信じる弟子とならなければならない。そしてはじめて、きよめ、クリスチャンの実り、およびキリストの命令(マタイ28:20)に対する従順についての聖書的な教えることができる。霊的に死んだものは霊的に生きているものの生活および業に導かれることはない。



前のページの図は公的な又個人的な聖書の真理の言葉の宣言および応用において観察されるべき根本的な規則を示している。もし、これらが守られず、根拠のない方法で与えられたとしたら、罪人は回心されきよい生活に導かれることはない。

B. 礼典

礼典という言葉はキリストが定められ、キリストが恵みの約束を結び付けられた神聖な行為として用いられている。このような礼典の行為はキリストが定められた私達の見える要素の使用を含んでいる。つまり、洗礼においてそれは水であり、また聖餐においてはパンと葡萄酒である。

参考：ルーテル教会のアウグスブルク信仰告白およびその告白弁証において「礼典」という言葉は目に見える要素を必ずしも含まなくとも、キリストが恵みの約束を加えられた、その御自身がお定めになった神聖なる行為を意味するために、幾分より広い意味で使われている。したがって、このより広い意味において、「礼典」は外的な印として用いられる按手における個人的な罪のゆるし(赦免)に適合されている。赦免の定めはマタイ16:19; 18:18; ヨハネ20:23のそれぞれの聖書箇所に見られる。

礼典に結び付けられている罪の赦しとその恵みの福音の約束がその主なものである。

「福音は、… 信じる者にとって、救いを得させる神の力です。」(ローマ1:16)とあるように、礼典は信じるもののみにも有効(それらの約束が実現する)である。

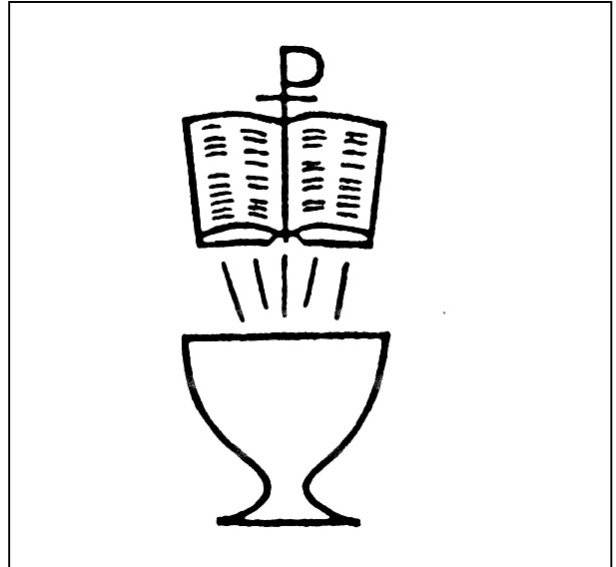
勿論、礼典はそれ自体客観的に有効である。それはちょうど、福音の御言葉がそうであるように、

信じない者が提供された恵みを受けそこね、その恵みの外に取り残されるのと全く同じである。

C. 洗礼

バプテスマのヨハネが罪の赦しの為の悔い改めの洗礼(バプテスマ)を述べ伝え、ヨルダン川で人々に洗礼を授けた。(ルカ3:3; マルコ1:4-5) ヨハネはキリストのために人々を備える、神によって遣わされた預言者であったが、彼の洗礼はまだクリスチャンの洗礼ではなかった。ヨハネの洗礼を受けた人々にはクリスチャンの洗礼がもう一度授けられた。(使徒19:1-6)

イエスは「すべての正しいことを実行する」(マタイ3:14)ようにヨハネによって洗礼が授けられることを望まれた。この行為において、イエスは御自分が罪の赦しを必要とするものたちと区別された。そして、神は罪人たちがキリストへの信仰によって無償で義とされる(ローマ3:23-25)ように、罪人の為にすべての義を全うする使命をキリストにお与えになった。この洗礼の直後、聖霊がイエスの上を下った。イエスはこの聖霊の「油注ぎ」(聖別)がメシヤの働きのために御自分の人間としての人格(イエスは真の人であり神であった)に必要であった。(メシヤあるいはキリストとは「油注がれた者」という意味である)イエスの神としての人格は聖霊によって(乙女マリヤに)宿られたことから明らかである。



クリスチャンの洗礼の定め

イエスは人々を御自分の弟子とされる時、最初から洗礼を用いられた。イエスの弟子となるものは誰でも洗礼が授けられた。イエスは御自分の弟子達にそれを行なうように命令された。(ヨハネ3:22、26; 4:1-2)これは実際的なクリスチャンの洗礼の定めを意味している。イエスは復活の後、御自分の弟子達に次のようにいわれた。

「私には天においても、地においても、一切の権威が与えられている。それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によって、バプテスマを授け、私があなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ、私は、世の終りまで、いつも、あなたがたとともにいます。」(マタイ28:18-20)

「それから、イエスは彼らにこう言われた。『全世界に出て行き、すべての造られたものに、福音をのべ伝えなさい。信じてバプテスマを受けるものは、救われます。しかし、信じないものは罪に定められます。信じる人々には次のような記しが伴います。すなわち、私の名によって悪霊を追い出し、新しい言葉を語り、…』」(マルコ16:15-17)

これらの御言葉の中でイエスはこの世でのキリストの教会の弟子としての業に関する最終的な指示をお与えになった。

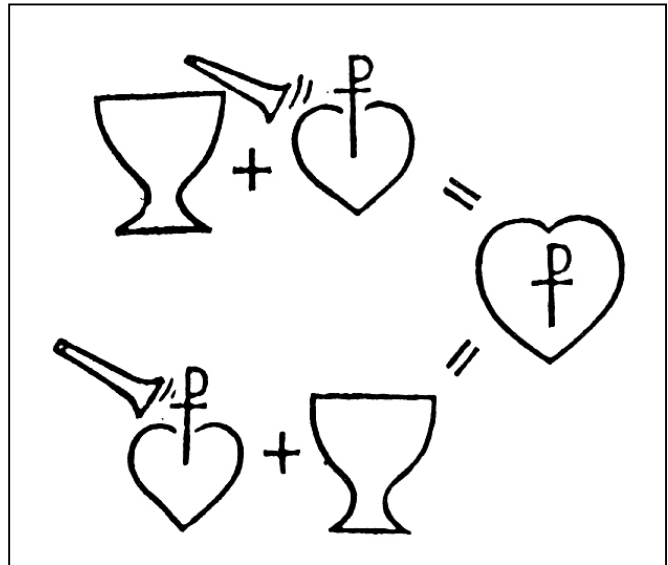
使徒の働き2:38で「イエス・キリストの名において」洗礼を授けると語っている。また同書の19:5でそれを主イエスの名において、それを行なっているが、それらはより短い方法で洗礼について語

っているものである。イエスの指示によると、それは実際、「父と御子および聖霊の名において」行なわれるものである。

洗礼の意味と祝福

洗礼は人が信じる時のみに救いの祝福を与えてくれる。不信者はキリストを受け入れないために「このことについては何の関係もないし、それに預かることもできない。」(使徒8:21)

この点において、洗礼と入信の時制的な順序は決定的な重要性を持たない。マルコ福音書16:16においてイエスは最初に入信について述べており、それに続いて洗礼について述べている。しかし、ヨハネ福音書3:5においてイエスは最初に洗礼(水によって生まれる)について述べ、その後で御霊による誕生又は、入信について話している。従って、ただ洗礼を受けた信仰を持ったものが救われた神の子どもとなる。これは別に最初に洗礼を受けたか否かによっているのではない。これらの場合にふさわしい実践的な御言葉はガラテヤ人への手紙3:26-27である。



「あなたがたはみな、キリスト・イエスに対する信仰によって、神の子どもです。バプテスマを受けてキリストにつく者とされたあなたがたはみな、キリストをその身に着たのです。」(ガラテヤ3:26-27)

洗礼を受けたが信仰を持っていないものは(ちょうど使徒の働き8:9-24のシモンのような者)はキリストをその身に着たものとは言えない。ただ信仰によってはじめてキリストをその身に着ることが出来るからである。

洗礼の賜物は罪の赦し、あるいは罪からのきよめであり、次に示す聖書箇所に見られる。

「…悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう。」(使徒2:38)

「さあ、なぜためらっているのですか。立ちなさい。その御名を呼んでバプテスマを受け、自分の罪を洗い流しなさい。…」(使徒22:16)

「夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のために御自身を捧げられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。キリストがそうされたのは、御言葉により、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、」(エペソ5:25-26)

第1ペテロ3:20-21によると、ノアとその家族の洪水からの救いは洗礼の象徴、あるいはそのひな型である。

バプテスマは「肉体の汚れを取り除くものではなく、正しい良心の神への誓いである、イエス・キリストの復活によるもの」である。

人は自分の罪を認識し、悔い改めて、キリストのなして下さった御業による恵みと赦しを祈り求め

る時、その人の心のうちに神からのきよい良心を願い求めることができる。まさに、洗礼の意味はこのような意味で実際的なものとなる。洗礼を受けた者の悔い改めない、信仰のないものはキリストの血潮と復活による罪の赦しを得ることができず、洗礼の目的とその意味は全うされぬままに残る。

幼児洗礼

ルーテル教会が幼児に洗礼を受ける理由として次の五つがあげられる。

1. 「肉によって生まれた子どもは「肉」である。このようにして生まれた子どもの心は罪で腐っているため、神に対して敵対している。(ヨハネ3：6；ローマ8：7) 結果的に子供達は「…生まれながら御怒りを受けるべき子ら」である。(エペソ2:3)彼らの罪深い性質は初めからあらわに現われないが徐々に明らかになってくる。とにかくそれは彼らのうちになりを潜めている。聖書はこのことについてまた次のように言っている。すなわち、「ああ、私は咎あるものとして生まれ、罪あるものとして母は私をみごもりました。」(詩篇51:5)

「悪者どもは、母の胎を出た時から、踏み迷い、偽りを言う者どもは生まれた時からさ迷っている。」(詩篇58:3)

このために幼児はキリストにある贖いと救いが必要である。そのために彼らは洗礼にあるこの恵みに委ねられるべきである。

2. キリストはすべての人の救い主であり、贖い主である。キリストの恵みはただ大人にだけ与えられたものではなく、ルカ18：15－17に見られるように幼児にも与えられたものである。

「イエスに触っていただくとして、人々がその幼子達を、みもとに連れてきた。ところが、弟子達がそれを見て叱った。しかしイエスは、幼子達を呼び寄せて、こう言われた。『子供達を私のところに來させなさい。止めてはいけません。神の国はこのような者達のもので。まことに、あなたがたに告げます。子どものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに、入ることはできません。』」

ローマ人への手紙4：9－10およびガラテヤ人への手紙3：6－9；15－18によると、神のアブラハムとの契約はクリスチャンの契約と同じような原則に基づいている。神はアブラハムにその契約において人々が幼児として一般に契約に入るように定められた。その契約の印とは割礼であって、生後八日目に行なわれた。しかし、この印の意味と目的が実現するためには、割礼を受けた人々が物心付いた年に達した時、彼らは神の御言葉(創世記18：19；詩篇78：5－7)に啓示された主の御心を知り、従うように教えられた。彼らはまた、神を信頼するために神の御霊による「心の割礼」が必要であった。(申命10：12－16；30：6；ローマ2：28－29)

これらの三つのものが人の生活において現実のものとなる時はじめて、その人は契約に預かる者となることができる。

3. コロサイ人への手紙2：11－12において、パウロは洗礼を「キリストの割礼」として語っているが、これは割礼がアブラハムの契約の印であったように洗礼はクリスチャンの契約の印である。新しい契約において、古い契約に相当する原則には真実性がある。すなわち、幼児は新約の印である洗礼という手段によって、この契約に預かることができる。幼児洗礼を受けたものが物心ついた年に達したとき彼らは神の御言葉において指導教育され、キリストが命じられたすべてのことを守るよう教えられる。(マタイ28：19－20) さらに付け加えて言うならば、彼らは御霊による生まれ変わり

である洗礼が必要である。(ヨハネ3：5；第1コリント12：13；テトス3：5) それによって、彼らは内面的に神の子どもとなることができる。新しい契約の神の御国は幼い子供達のためでもあるということによって、イエスはアブラハムの契約におけるのと同様に、これらの三つのことにおいても同様の原則をお示しになられた。

4. イエスおよび使徒の時代のユダヤ人の会堂の会衆は割礼に関する神がお与えになった規則（創世記17：10－13；23－27）とそれに加わる異邦人達の洗礼にあてはめた。すなわち、子どもを含む家族全員が改宗者としての洗礼を受けた。使徒たちの時代の教会はこれと同様に家族全員を含むバプテスマを回心者の家族に授けた。新約聖書には5つのこのような例が載せられている。(使徒10：47－48；16：15；18：8；第1コリント1：16) 使徒たちはイエスが子供達と天の御国について語られたことをよく覚えていて、これらを実行したと思われる。

5. 古代のクリスチャン著述者たちは幼児洗礼が使徒たちの実際に行なわれていたものであると書いている。西暦140年に生まれたイレネウスは、ヨハネの死後約40年に次のように書いている。「キリストはすべての人を救うためにこの世に来られた。… 保育を要する赤子も、若者も、老人も … キリストを通して神に生まれ変わったもの …」

殉教者ユスチノスは使徒ヨハネの死後まもなく生まれ、西暦165年に殉死したが、彼は次のように書き残している。「多くの男女は神の子どもとしてイエスの弟子となった。彼らは幼年時代に洗礼を受けたにちがいない。」

西暦185年に生まれたオリゲネスは彼の幼年期に洗礼を受けたが、彼は幼児洗礼について次のように書いている。「教会の習慣にしたがって、洗礼は幼児にも与えられる。」「教会は使徒たちからこの伝承を受け継いでいる。…人はすべて生まれた時から罪に犯されているために、水と雲によって洗われなければならない。誰一人として罪の汚れから逸れることはできない。生まれながらの汚れは洗礼を通して洗い流される。故に幼い子どもも洗礼が授けられるべきである。と言うのは誰でも水と霊によって生まれ変わらなければ、神の御国にはいることはできないからである。」

監督のキュプリアヌスはオリゲネスと同時代に生きたが、彼は八日後に幼児洗礼は授けられるべきではないと主張するものたちに反対宣言した。

テルトゥリアヌスが幼児洗礼に反対したという事実は当時幼児洗礼が実施されていたことを裏付けている。彼は「どうして、幼い、罪のない幼児がそんなに慌てて罪の赦しを求めなければならないのか。… 未結婚の信者もまた洗礼を見合わせる必要がある。というのは、彼らは誘惑されがちだからである。」このようなことはテルトゥリアヌスは幼児洗礼に対して間違った考えを持っていたことを示すものである。

今日の我々の時代にもまた、幼児洗礼は非聖書的なまた、非歴史的な理由で反対されている。しかし、また別の間違った意見は洗礼を受けた教会員は霊による新生あるいはクリスチャンとしての歩みや御霊の実によって明らかなものとされる信仰に入ることなく神の子であるとするものである。

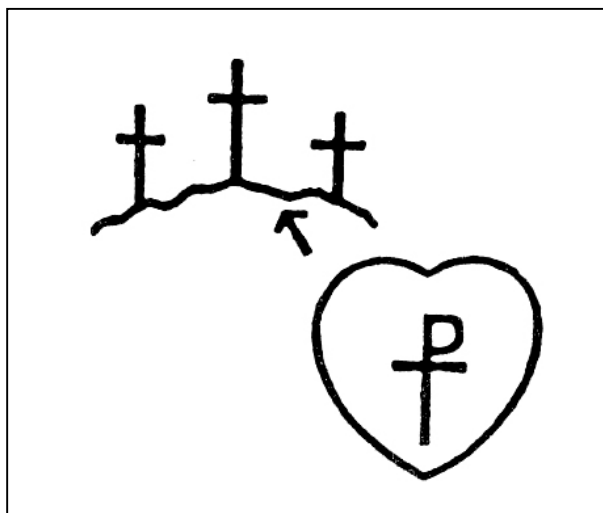
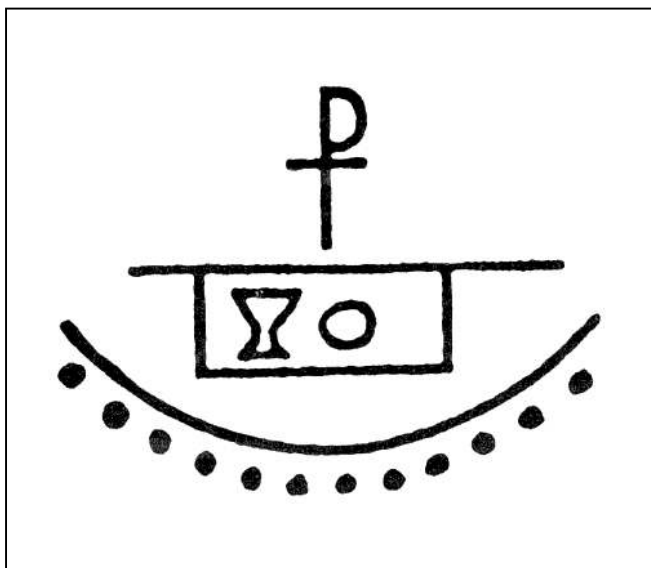
D. 聖餐

聖書は聖餐の定めについて次のように述べている。すなわち、「私は主から受けたことを、あなたがたに伝えたのです。すなわち、主イエスは、渡される夜、パンを取り、感謝を捧げた後、それを裂き、こう言われました。『これはあなたがたのための、私の体です。私を覚えて、これを行ないなさい。』夕食の後、杯も同じようにして言われました、『この杯は、私の血による新しい契約です。これを飲むたびに、私を覚えて、これを行ないなさい。』」(第1コリント11:23-25; マタイ26:26-28; マルコ14:22-24; ルカ22:17-20)

イエスは次のように約束された。すなわち、「2人でも3人でも、わたしの名において集まるところには、わたしもその中にいるからです。(マタイ18:20)このことはまた、主の晩餐にも当てはまる。つまり、主は臨在して下さり、聖餐に預かるものに霊的な糧としての御体と血を与えて下さる。イエスはこのことに関して次のように言っておられる。

「私の肉を食べ、私の血を飲むものは、永遠の命を持っています。私は終りの日にその人を蘇らせます。私の肉を食べ、私の血を飲むものは、私のうちに留まり、私の体のうちに留まります。生ける父が私を遣わし、私が父によって生きているように、私を食べるものも、私によって生きるのです。」(ヨハネ6:54-56)

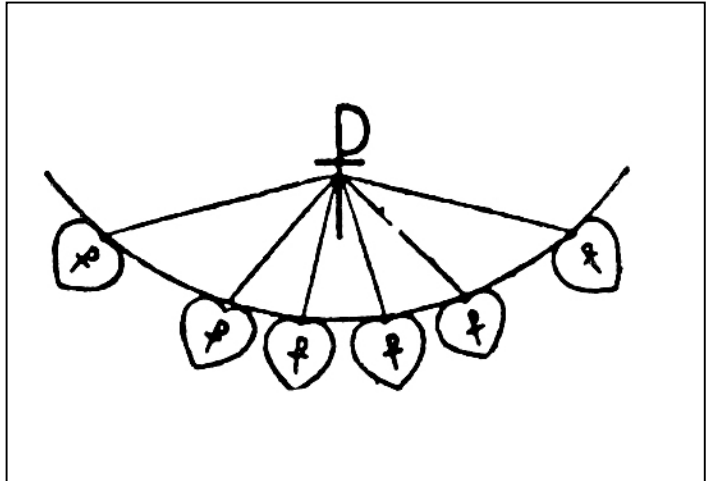
もちろん、これらのイエスの御言葉はもともとイエスの体を食べることと血を飲むことを言っているが、これらは聖餐にも当てはまるものである。そのうちには、また、霊的な飲み食いはその中に用いられている福音の御言葉への信仰を通しておこるものである。



ルターはこのことについて彼の小教理問答書で次のように言っている。「それは『これは、罪の赦しを得させるようにと、あなたがたのために与えられ、流されるのだ』との御言葉によって示されています。すなわち、この礼典において、この御言葉を通して、私達に、罪の赦しと、生命と、祝福とが与えられます。それは罪の赦しのあるところに、また生命と祝福とがあります。」「もちろんそれをするのは飲食ではなく、ここに記された『これは、罪のゆるしを得させるようにと、あなたがたのために与えられ、流されるのだ』との御言葉であります。この御言葉は、肉体的な飲食とともに、礼典使用の主要な部分であります。そしてこの御言葉を信ずる者は、この御言葉が語り宣言する事、すなわち、罪の赦しを得るのであります。」

イエスの御言葉によると、私達は聖餐をイエスを覚えるためにつまり、イエスの十字架での犠牲を忍ぶために行なうように定められている。

その中に私達がキリストの贖いの業と、それを通して私達に与えられる罪の赦しを改めて知らされるためのものである。



パウロは第1コリント人への手紙10：16-17で次のように書いている。

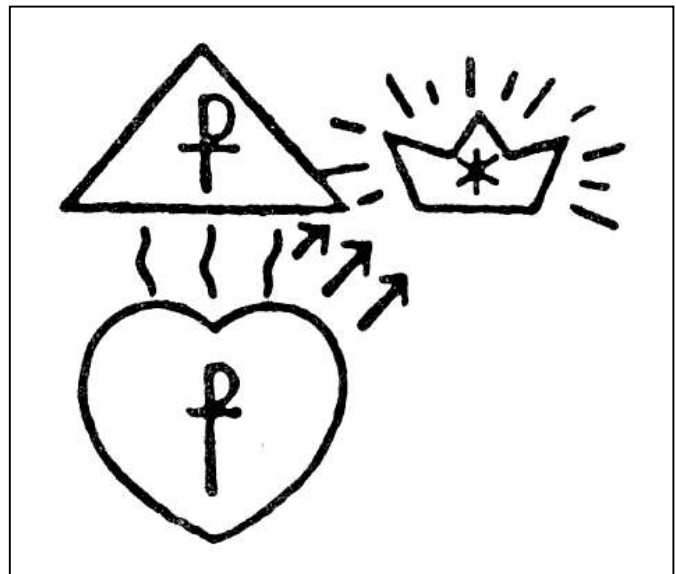
「私達が食する祝福の杯は、キリストの血に預かることではありませんか。私達の裂くパンはキリストの体に預かることではありませんか。パンは一つですから、私達は、多数であっても、一つの体です。それは、みなのものがともに一つのパンを食べるからです。」これは（上図で示されているように）信者である私達が主の聖餐に預かるものが

1) キリストとその体と血の犠牲の祝福に預かるものと又、

- 2) キリストを通して私達が互いに結び付けられるようになるためである。

聖餐は私達クリスチャンの交わりの食事である。従って、主の恵みの食卓に近づく前にクリスチャンたちの間に何のいさかきも、又、憎しみもあってはならない。もし、あるとしたら、互いに悔い改め合って赦し合って、和解を得なければならない。

「ですから、一人一人が自分を吟味して、その上でパンを食べ、杯を飲みなさい。御体をわきまえないで、飲み食いするならば、その飲み食いが自分を裁くこととなります。」(第1コリント11:28-29)



パウロはまた第1コリント11：26で次のように書いている。「ですから、あなたがたは、このパンを食べ、この杯を飲むたびに、主が来られるまで、主の死を告げ知らせるのです。」

主の聖餐はまた私達に再臨と、又その後の「子羊の婚宴」(黙示19：7-9)を覚えさせるものであり、私達にそれらに備えができてるように勧告するものである。

E. 告白と謝罪

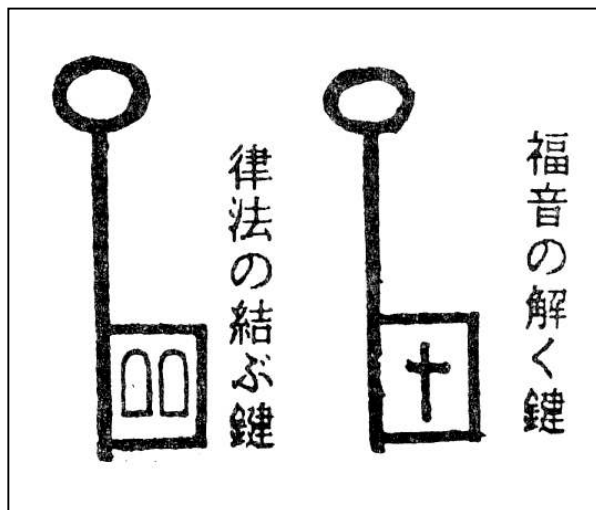
ペテロがイエスが「キリストであり、生ける神の御子」(マタイ16:16)と告白した後で、イエスはペテロに言われた。

「バルヨナ・シモン。あなたは幸いです。このことをあなたに明らかに示したのは人間ではなく、天にいます私の父です。では、あなたに言います。あなたはペテロです。私はこの岩の上に私の教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません。私は、あなたに天の御国の鍵をあげます。なんでもあなたが地上で繋ぐなら、それは天においても繋がれており、あなたが地上で解くなら、それは天においても解かれています。」

この後すぐ、イエスは彼の外の弟子達にも繋ぐ鍵と解く鍵をお渡しになった。イエスの復活の日の夕方、イエスは彼らにこの解くこととつなぐことの意味を説明された。

「あなたがたがだれかの罪を赦すなら、その人の罪は赦され、あなたがたがだれかの罪をそのまま残すなら、それはそのまま残ります。」(ヨハネ20:23)

基本的な一般的な意味において、結んだり、解いたりする権威と任務は律法と福音を述べ伝える役目である。律法は罪人に自分たちの罪は赦されることなく彼らが悔い改めずにいる限り、罪に縛られていると告げる結びの鍵である。一方、福音は自分たちの罪を悔い改め、神の慈愛と赦しを願い求めるものたちに罪の赦しと恵みを宣言し分け与えるものである。

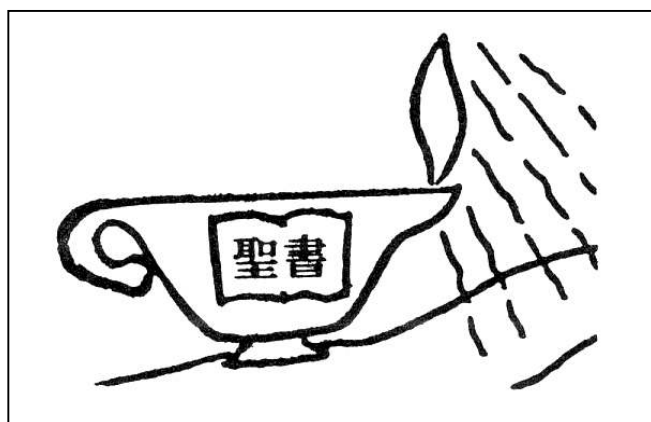


解く鍵は赦しを求めて牧師又は、他のクリスチャンたちに自分の罪を悔い改めて、告白するものたちに個人的に用いられる鍵である。ルターは彼の小教理問答書で次のように書いている。すなわち、「しかし、あなたが全く何も知る事がないならば（全くそれは不可能であるに違いないのだが）、特別に何も言うことなく、あなたが神の前でするように、懺悔を聞く牧師に対して、一般の懺悔をして、それによって、罪の赦しを受けなさい。」

「懺悔は二つの部分からなっています。一つは罪の告白であり、他は、赦免の宣言、あるいは赦しを、神御自身からのように、懺悔を聞く牧師から受け、しかも疑うことなく、むしろ天におられる神の御前に、そのことによって罪が赦されていることを、固く信じることです。」(参照14章「悔い改めと回心」)

16. クリスチャンの生活

洗礼において、私達はクリスチャンとして、あるいはキリストに従うもの、弟子として生きていくように召された。実際に、洗礼を受けた人のクリスチャン生活は洗礼の意味と目的が御霊による新生あるいは回心を通して実現する時はじめて始まることになる。



A. 導きと光としての神の御言葉

私達の洗礼に関連して、イエスの御言葉は次のように語っている。

「また、私があなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。私は、世の終りまで、いつも、あなたがたとともにいます。」(マタイ28:20)

いわゆる山上の垂訓の終りにイエスは次のように言われた。「だから、私のこれらの言葉を聞いてそれを行なうものはみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができます。」(マタイ7:24)

本当のイエスに従うものたちは詩篇記者とともに次のように言うことができよう。「あなたの御言葉は、私の足のともしび、私の道の光です。」(詩篇119:105)

御言葉と御霊を通して、キリストは信者達の生活の光である。イエスは次のように言っておられる。

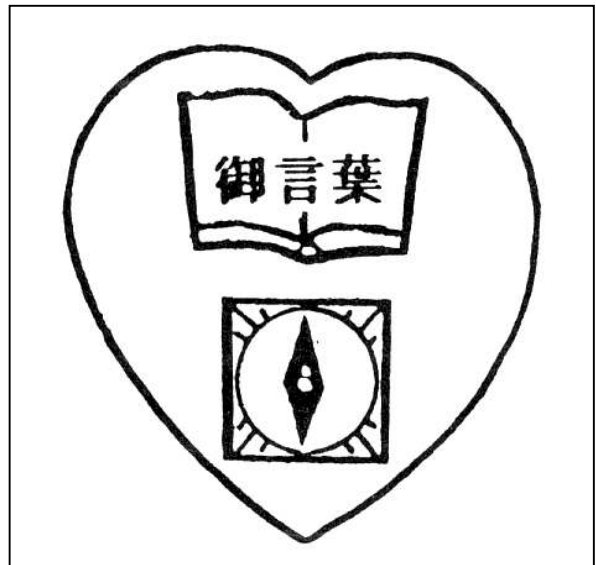
「私は世の光です。私に従うものは、決して闇の中を歩むことなく、命の光を持つのです。」(ヨハネ8:12)

信者達が聖書を学び、聖書的な教えに又その述べ伝えることに耳を傾ける時、この神の靈感を受けた御言葉は「教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益」である。(第2テモテ3:16)

すべてのクリスチャンは詩篇記者とともに喜んで次のように祈ることができる。「あなたに罪を犯さないため、私は、あなたの言葉を心に蓄えました。… 私の魂は、ちりに打ちふしています。あなたの御言葉の通りに私を生かして下さい。私は私の道を申し上げました。すると、あなたは、私に答えて下さいました。どうか、あなたの掟を私に教えて下さい。あなたの戒めの道を私に悟らせて下さい。私が、あなたのくすしい業に思いを潜めることができるようにして下さい。私の魂は悲しみのために涙を流しています。御言葉の通りに私を固く支えて下さい。私から偽りの道を取り除いて下さい。あなたの御教えの通りに私を哀れんで下さい。私は真実の道を選び取り、あなたの裁きを私の前に置きました。私は、あなたの諭しを固く守ります。主よ。どうか私を辱めないで下さい。私はあなたの仰せの道を走ります。あなたが、私の心を広くして下さい。主よ。あなたの掟の道を私に教えて下さい。そうすれば、私はそれを終りまで守りましょう。私に悟りを与えて下さい。私はあなたの御教えを守り、心を尽くしてそれを守ります。私に、あなたの仰せの道を踏み行かせて下さい。私はその道を喜んでいきますから。」(詩篇119:25-35)

パウロは同じことをローマ人の手紙7:22で次のように言っている。「すなわち、私は、うちなる人としては神の律法を喜んでい…」磁石というものはそれがN極によって抑制される時、また信頼できる地図とともに使われる時正しい方向を示す。

神が人間に与えて下さった良心はそれが神の御言葉のみによって抑制される時はじめて正しい方向を示すことが出来る。それが人間の罪深い欲望や人気のある意見などによって影響される時、迷ってしまう。私達の良心が正しく機能を果たすためには、イエスの血によって罪の意識からきよめられ、また聖書の教えを通して聖霊によって導かれなければならない。

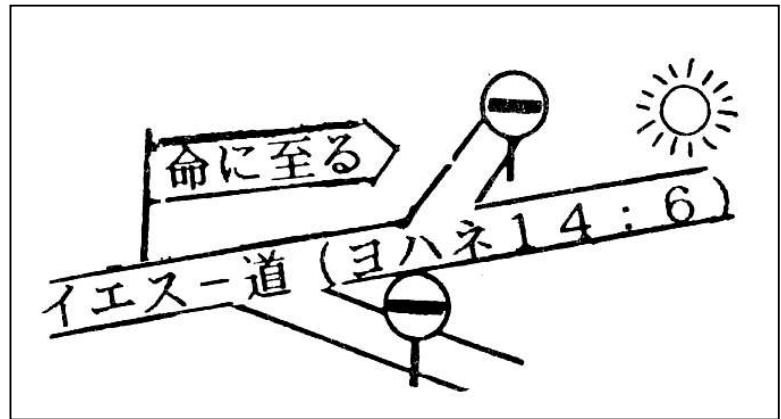


「まして、キリストが傷のない御自身を、とこしえの御霊によって神におさげになったその血は、どんなにか私達の良心をきよめて死んだ行ないから離れさせ、生ける神に仕えるものとするのでしょうか。」(ヘブル9:14)

「神の御霊に導かれる人は、誰でも神の子どもです。」(ローマ8:14)

神の言葉である聖書は神の靈感を受けて書かれた。聖霊は常にクリスチャンを導いて下さり、御言葉に従うように導いて下さる。イエスは次のように祈られた。

「真理によって彼らをきよめ分かってください。あなたの御言葉は真理です。」
(ヨハネ17:17)

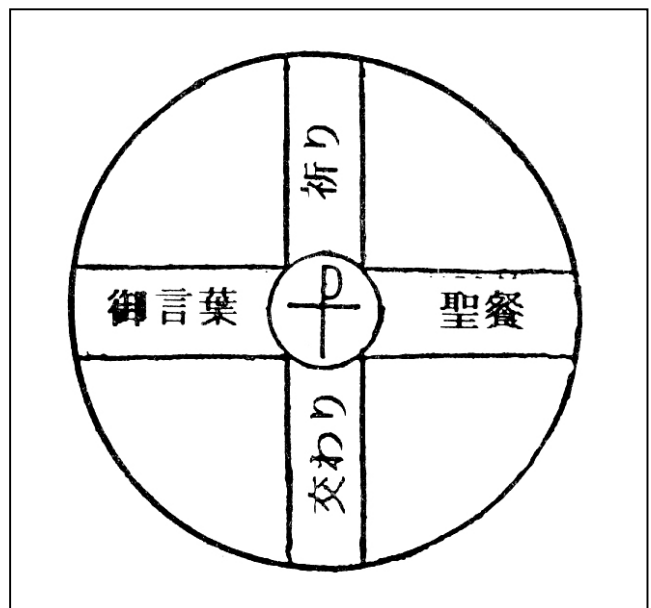


信者は心を尽くして、内的なまた、外的な生活において神の御言葉の真理に聖霊の働きを通して従うとき、きよめられる。

イエスは言われた。「私が道であり、真理であり、命なのです。私を通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。」(ヨハネ14:6)

神の御言葉の命令や警告は丁度、道路標式のようなものである。それによって、旅行者は正しい道を見つけ出し、誤った道にそれることなく正しい道に留まることが出来る。

クリスチャンの「生活の輪」が調子良く回るためには4つの事柄があげられる。それらは使徒4:42でされている通りである。すなわち、初代教会のクリスチャンたちは「使徒たちの教えをかたく守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていった。」



B. 改めてなされる悔い改め

神の子どもであるクリスチャンが、クリスチャンとしての義務を果たし損ねたり、又、言葉において、又、行ないにおいて罪を犯した場合はいつでも、悔い改め、イエスの血潮を通しての罪のきよめを求めるべきである。

「しかし、もし神が光の中におられるように、私達も光の中を歩んでいるなら、私達は互いに交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私達をきよめます。もし、罪はないというなら、私達は自分を欺いており、真理は私達のうちにはありません。もし、私達が自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私達をきよめて下さいます。」(第1ヨハネ1:7-9)

繰り返し、繰り返し、「私達は、心に血の注ぎを受けて邪悪な良心をきよめられ、体をきよい水で洗われる」必要がある。(ヘブル19:22)

また、聖書は私達に「信仰と正しい良心を保ち、勇敢に戦い抜く」よう勧めている。(第1テモテ1:18)
パウロのように、私達は「いつも、神の前にも人の前にも責められることのない良心を保つように、と最善を尽くす」べきである。(使徒24:16)

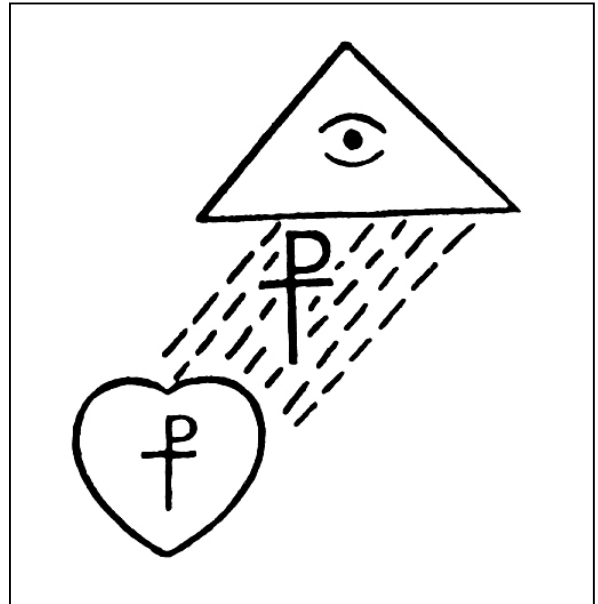
私達は万一、罪を犯してしまった時、必ずその罪を神に告白して、イエスの贖いの血潮による罪の赦しを願うべきである。

もし、私達が自分たちの仲間に罪を犯したとしたら、私達はその仲間に赦しを乞うべきである。また私達はその人に物質的な損害を与えたとしたら、私達はそれを償わなければならない。これについてイエスは次のように言う。

「あなたを告訴するものとは、あなたが彼といっしょに途中にある間に早く仲良くなりなさい。」(マタイ5:25)

「気をつけていなさい。もし兄弟が罪を犯したなら、彼を戒めなさい。そして悔い改めれば、赦しなさい。」(同じように、マタイ18:15-18)

「もし人の罪を赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたをゆるして下さい。しかし、人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの罪をお赦しになりません。」



C. 祈りの生活

祈りの基本的な条件は悔い改めとイエスの血潮による赦し、および従順な神の子として生きようとする闘いである。聖書は次のように言っている。

「見よ、主の御手が短くて救えないのではない。その耳が遠くて、聞こえないのではない。あなたがたの咎が、あなたがたと、あなたがたの神との仕切りとなり、あなたがたの罪が御顔を隠させ、聞いて下さらないようにしたのだ。実に、あなたがたの手は血で汚れ、指は咎で汚れ、あなたがたの唇は偽りを語り、舌は不正をつぶやく。」(イザヤ59:1-3)

「あなたが手を差し伸べて祈っても、私はあなたがたから身をそらす。どんなに祈りを増し加えても、聞くことはない。あなたがたの手は血まみれた。洗え。身をきよめよ。私の前で、あなたがたの悪を取り除け。悪事を働くのをやめよ。」(イザヤ1:15-16)

「主の目は義人の上に注がれ、主の耳は彼らの祈りに傾けられる。しかし主の顔は、悪を行なうものに立ち向かう。」(第1ペテロ3:12)

イエスの御名による祈り

イエスは私達に「天にまします我等の父よ」と祈ることを教えて下さった。イエスはまた「誰も御自分を通してでなければ父のみもとに行くことはできない」(ヨハネ14:6)と言われた。

また、私達は「イエスの血によって、大胆にまことの聖所に入ることができる。」(ヘブル10:19)

このことはまた、祈りにも当てはめることができる。私達が祈りの課題をもって、神に向かうとき、私達は仲介者としてのイエスおよび、私達の祈りが神に受け入れられるために罪を「覆う」イエスの血潮を必要とする。私達はまた父なる神とのイエスのとりなしが必要である。

「あなたがたが私に留まり、私の言葉があなたがたに留まるなら、なんでもあなたがたの欲しいものを求め

なさい。そうすれば、あなたがたのためにそれがかなえられます。…あなたがたが私を選んだのではありません。私があなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。それは、あなたがたが行って実を結び、そのあなたがたの実が残るためであり、また、あなたがたが私の名によって父に求めるものはなんでも、父があなたがたにお与えになるためです。…あなたがたは今迄、何も私の名によって求めたことはありません。求めなさい。そうすれば受けるのです。それはあなたがたの喜びが満ち満ちたものとなるためです。」(ヨハネ15:7、16;16:24)

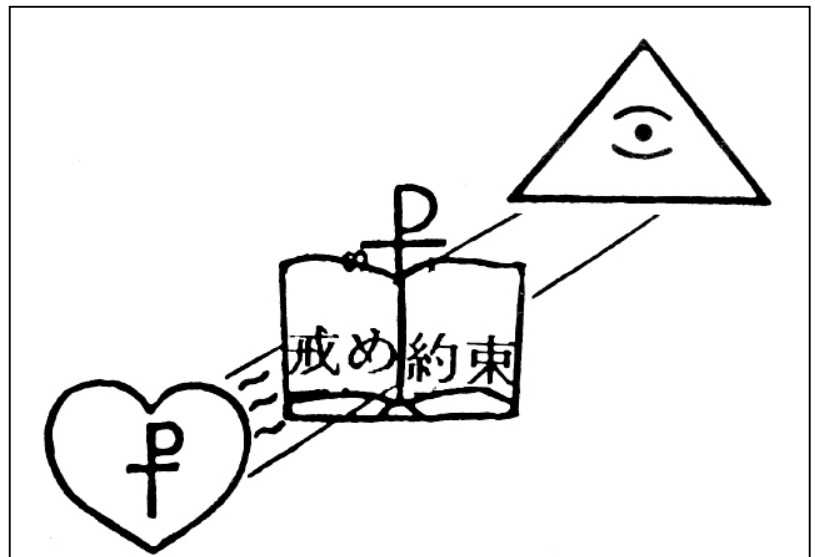
イエス御自身が「また私は、あなたがたが私の名によって求めることは何でも、それをしましょう。父がこれによって栄光をお受けになるためです。あなたがたが、私の名によって何かを私に求めるなら、私はそれをしましょう。」とっておられるように、私達はイエスにその御名によって祈ることができる。

私達がイエスの御言葉や教えに訴える時に、又イエスの御名によって祈ることができる。又、イエスがマタイ6:9-13で教えられた「主の祈り」に従ってでもそうすることができる。イエスは次のように約束された。すなわち、「求めなさい。そうすれば与えられます。探しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます。誰であれ、求めるものは受け、探すものは見付け出し、たたくものには、開かれます。」(マタイ7:7-8)

信仰による祈り

ただ信者のみが信仰によって祈ることができるが、信者のすべての祈りが信仰による祈りであるとはいえない。

イエスは「祈って求めるものは何でも、すでに受けたと信じなさい。そうすれば、その通りになります。」(マタイ11:24)



神にまたキリストの約束におよび神の戒めに訴える時、私達は信仰による祈りを祈ることができる。神は私達の自分の力や能力で神の戒めを行おうと努力することを望んではおられない。神は私達の弱さや助けが必要なことを私達が告白し、神が「み心のままに」私達のうちに働いて下さることを望んでおられる。それはイエスが「私を離れてはあなたがたは何もすることができないからです。」とっておられる通りである。(ヨハネ15:5)

また、パウロは「何ごとかを自分のしたことと考える資格が私達自身にあるというわけではありません。私達の資格は神からのものです。神は私達に、新しい契約に仕えるものとなる資格を下さいました。文字に仕えるものではなく、御霊に仕えるものです。文字は人を殺し、御霊は生かすからです。」とっている通りである。(第2コリント3:5-6)私達が祈りのうちに神の助け、導きまた、力を求めるなら、私達はパウロとともに次のようにいうことができる。

「私は、私を強くして下さい方によって、どんなことでもできるのです。」(ピリピ4:13)

第1ヨハネ5:14で次のような確信が得られる。「何ごとでも神の御心にかなう願いをするなら、神はその願いを聞いて下さるといこと、これこそ神に対する私達の確信です。」

苦難の時の祈り

神は詩篇50：15において、「苦難の日には私を呼び求めよ。私はあなたを助けだそう。」と言っている。

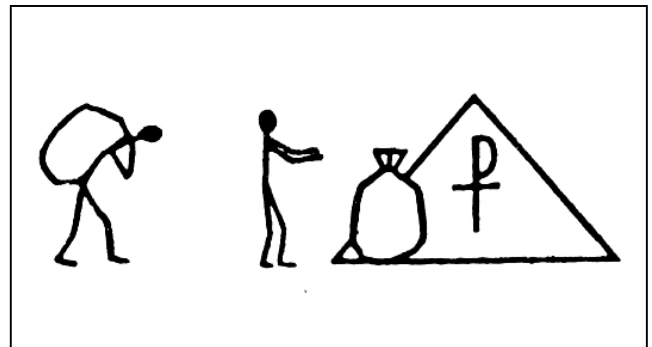
5015は時々「天の御国の緊急電話番号」と呼ばれる。私達は神の恵みや助けを必要とする時はいつでもこの電話をかけることができる。それはヘブル4：16で勧められているとおりである。

「ですから、私達は、哀れみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みのみ座に近づこうではありませんか。」

聖書はまた次のようにも言っている。「それゆえ、主はあなたがたに恵もうと待っておられ、あなたがたを哀れもうと立ち上がられる。主は正義の神であるからだ。幸いなことよ。主を待ち望むすべてのものは。」

「あなたがたは、神の力強いみ手の下にへり下りなさい。神が、ちょうどよい時に、あなたがたを高くして下さるためです。」

クリスチャンの経験は「私達は、四方八方から苦しめられますが、窮することはありません。途方にくれていますが、行きづまることはありません。迫害されていますが、見捨てられることはありません。倒されませんが、滅びません。」(第2コリント4：8、9)というパウロの経験に等しいであろう。

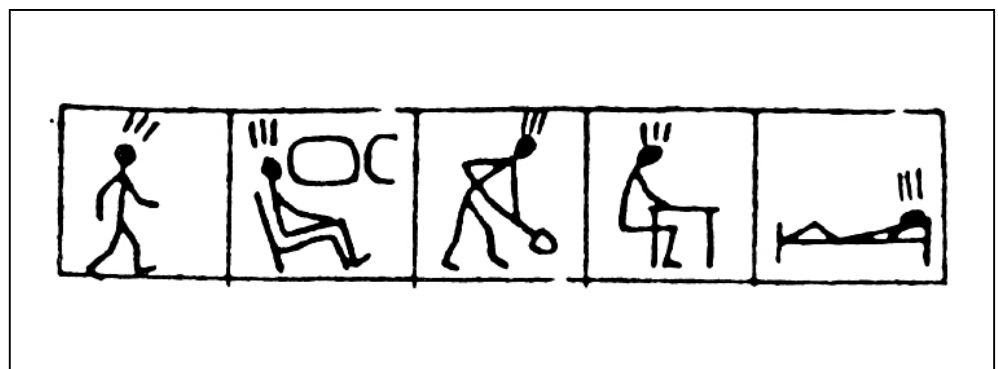


個人的な祈りと友に祈る祈り

「あなたは、祈る時には自分の奥まった部屋に入りなさい。そして、戸を閉めて、隠れた所におられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れた所で見ておられるあなたの父が、あなたに報いて下さいます。又、祈る時、異邦人の様に同じ言葉を繰り返してはいけません。彼らは言葉数が多ければ聞かれると思っているのです。」(マタイ6：6-7)

しかし、個人的な祈りの場所としてはどんなところでも用いられる。イエスはよくお一人で祈りのために山にお上りになられた。(マタイ14：23；マルコ6：46) 私達はどんなところでも心の中

で静かに祈ることができる。歩いている時も、車やバスに座っている時も、また肉体的なあるいは、精神的な仕事をしながらも、又、床についている時も祈ることができる。



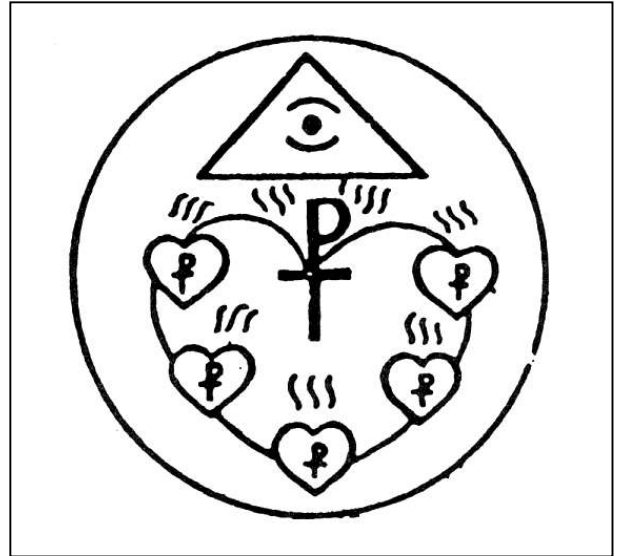
「絶えず祈りなさい。」(テサロニケ5:17)

「いつでも祈るべきであり、失望してはならないことを教えるために、イエスは彼らにたとえを話された。…」
(ルカ18:1)

「恐れおののけ。そして罪を犯すな。床の上で自分の心に語り、静まれ。」(詩篇4:4)

クリスチャンは又ともに祈り合うべきである。イエスはそのような祈りのために特別な約束をお与えになられた。

「まことに、あなたがたにもう一度、告げます。もし、あなたがたのうち二人が、どんなことでも、地上で心を一つにして祈るなら、天におられる私の父は、それをかなえて下さいます。二人でも三人でも、私の名において集まるところには、私もその中にいるからです。」(マタイ18:18-20)



使徒の働き4:24-31ではこのような共通の祈りのことが書いてある。神を誉めたたえ、神の御言葉に訴えた後、信者達は、神の前に共通の祈りの課題を持ち出し、御言葉を述べ伝えるための力と大胆さを願い求めた。

「これを聞いた人々はみな、心を一つにして、神に向かい、声をあげていった。『主よ。あなたが天と地と海とその中のすべてのものを造られた方です。あなたは、聖霊によって、あなたの僕であり、私達の先祖であるダビデの口を通して、こう言われました。〈なぜ異邦人達は騒ぎたち、諸々の民はむなしいことを計るのか。地の王たちは立ち上がり、指導者達は、主とキリストに反抗して、一つに組んだ。〉事実、ヘロデとポンテオ・ピラトは異邦人やイスラエルの民と一緒に、あなたが油を注がれた、あなたの聖なる僕イエスに逆らってこの都に集まり、あなたの御手と御心によって予めお定めになったことを行ないました。主よ。いま彼らの脅かしを御覧になり、あなたの僕たちに御言葉を大胆に語らせて下さい。御手を伸ばして癒しを行なわせ、あなたの聖なるしもべイエスのみ名によって、しるしと不思議な業を行なわせて下さい。』彼らがこう祈ると、その集まっていた場所が振るい動き、一同は聖霊に満たされ、神の言葉を大胆に語りだした。」

前の図は

(1) 一緒に祈るものと友におられるキリストとどのようにして神に祈りが伝わるのかを示している。

また図は

(2) 祈るものがいかにして1つの心に結びつけられるかを示している。

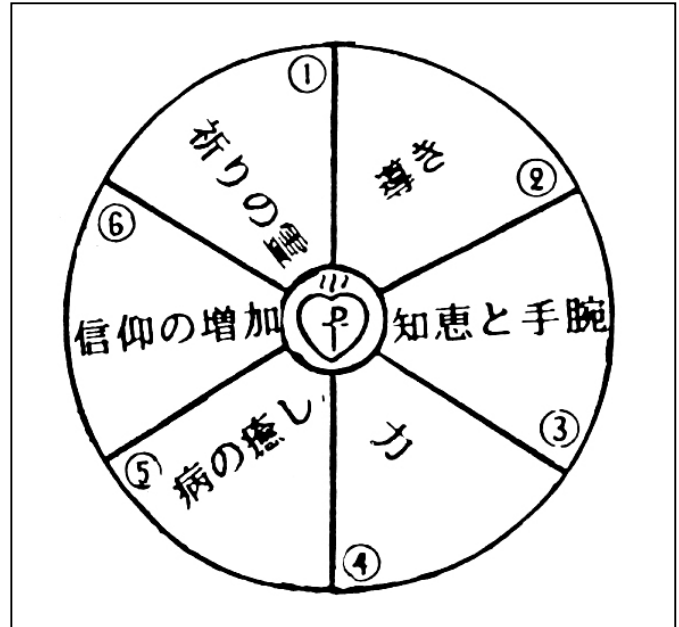
「来たれ。私達は伏し拝み、ひれ伏そう。私達を造られた方、主の御前に、ひざまずこう。主は、私達の神。私達は、その牧場の民、その御手の羊である。今日、もし御言葉を聞かざらば心を頑なに立てはならない。」(詩篇95:6-7)

祈りの課題

私達は神にすべての憂いを待っていくことができる。

「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもって捧げる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知って頂きなさい。」(ピリピ4:6)

神が聖書で言われたことを基準として中でも次のことを祈り求めることができる。(図に示されている)



1. 祈りの霊

弟子達はイエスに祈り方を教えてくれるように願ったが、(ルカ11:1) 私達もそうすることができる。神は人々の上に「恵みと哀願の霊」を注ぐことを約束された。(ゼカイヤ12:10) 御霊は私達が正しい方法で祈ることを助けて下さる。(ローマ8:26)

2. 私達の生活や働きにおける神の導き

ダビデは「主よ。あなたの道を私に知らせ、あなたの小道を私に教えて下さい。あなたの真理のうちに私を導き、私を教えてください。あなたこそ、私の救いの神、私は、あなたを一日中待ち望んでいます。」(詩篇25:4-5)

アサフは確信をもって「あなたは、私をさとして導き、のちには栄光のうちに受け入れて下さいませよう。」(詩篇73:24)と言っている。

また、主は「私は、あなたがたに悟りを与え、行くべき道を教えよう。私はあなたがたに目を止めて、助言を与えよう。」(詩篇32:8)

3. 知恵と知識

聖書は次のように約束している。

「あなたがたの中に知恵の欠けた人がいるなら、その人は、誰にでも惜し気なく、咎めることなくお与えになる神に願いなさい。そうすればきっと与えられます。」(ヤコブ1:5)

「私が言っていることをよく考えなさい。主はすべてのことについて、理解する力をあなたに必ず与えて下さいます。」(第2テモテ2:7)

私達は知識や知恵を積極的に追い求める必要がある。ソロモンはちょうどそのように祈った。

「私は心を転じて、知恵と道理を学び、探りだし、捜し求めた。愚かな者の悪行と狂った者の愚かさを学びとろうとした。」(伝道の書7:25)

また、箴言は次のように教えている。「真理を買え。それを売ってはならない。」(23:23)

「高ぶりはただ争いを生じ、知恵は勧告を聞く者とともにある。」(13:10)

「…英知のあるものは沈黙を守る。」(11:12)

「耳を傾けて、知恵のあるものの言葉を聞け。あなたの心を私の知識に向けよ。」(22:17)

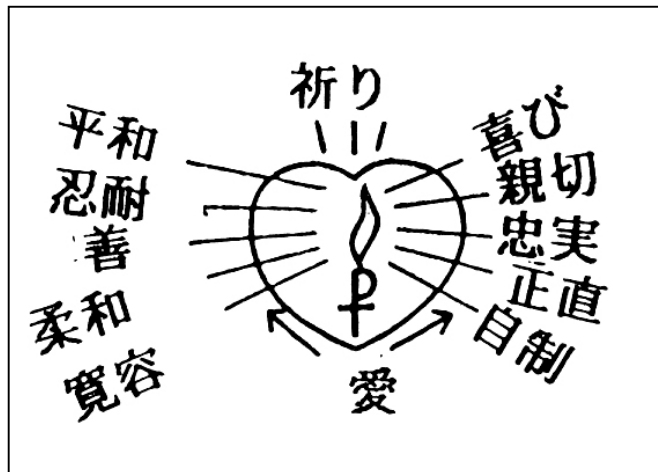
「悟りのある者の心は知識を得、知恵のある者の耳は知識を求める。」(18:15)

4. 私達の弱さへの強め

主はパウロに言われた。「私の恵みは、あなたに十分である。というのは、私の力は、弱さのうちに完全に現われるからである。」(第2コリント12:9)

主はイザヤ(40:29-31)を通して次のように約束された。「疲れたものには力を与え、精力のないものには活気をつける。」

また、私達はダビデとともに次のように祈ることができる。「私に御顔を向け、私を哀れんで下さい。あなたの僕に御力を与え、あなたのはしための子をお救い下さい。」(詩篇86:16)



5. 病の癒し

イエスは癒しを求めたものたちを癒された。ヤコブは次のように書いている。

「あなたがたのうちに病気の人がありますか。その人は教会の長老を招き、主の御名によって、オリーブ油を塗って祈ってもらいなさい。信仰による祈りは、病む人を回復させます。主はその人を立たせて下さいます。また、もしその人が罪を犯していたなら、その罪は赦されます。ですから、あなたがたは、互いに罪を言い表わし、互いのために祈りなさい。癒されるためです。義人の祈りは働くと、大きな力があります。」(ヤコブ5:14-16)

6. 信仰の増強

かつて、弟子達はイエスに祈った。「私達の信仰を増して下さい。」(ルカ17:5)私達はこれと同じように祈る必要がある。信仰を働かせて下さるのは神でありイエスである。(コロサイ2:12;使徒3:16)

聖書では香は祈りの象徴である。「私の祈りが、みまえへの香として、私が手をあげることが、タベの捧げものとして立ち上りますように。」(詩篇141:2)

信者の祈りは天の御国で高く評価されているためにそれらはあたかも金の器に保存されているようなものである。(黙示5:8)キリストのとりなしの「香」がそれらの祈りに付け加えられる時、それらは神のみもとに上り、聞かれる。(黙示8:3-4)

17. クリスチャンの実りと奉仕

イエスは「私はまことのぶどうの木であり、私の父は農夫です。…私はぶどうの木で、あなたがたは枝です。人が私に留まり、私もその人の中に留まっているなら、そういう人は多くの実を結びます。私を離れては、あなたがたはなにもすることができないからです。」(ヨハネ15:1,5)

愛と従順における実りは信者の心のうちに住んでおられる聖霊の働きである。「御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。このようなものを禁ずる律法はありません。」(ガラテヤ5:22-23)

キリストが人生の光となる時、これらの実りは光の実と呼ばれる。

「あなたがたは、以前は暗闇でしたが、いまは、主にあつて、光となりました。光の子どもらしく歩みなさい。光の結ぶ実は、あらゆる善意と正義と真実なのです。」(エペソ5:8-9)

御霊の実とクリスチャンの光は内在するキリストと信者のうちに聖霊の働きがもたらす信仰と愛の表現である。

実りをもたらす四つのきまり

1. 神の御言葉による行為「あなたがたは、私達が今日、ここできているようにしてはならない。各々が自分の正しいと見ることを何でもしている。… あなたがたは、私があなたがたに命じるすべてのことを、守り行なわなければならない。これに付け加えてはならない。」

「また、私があなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。私は、世の終りまで、いつも、あなたがたとともにいます。」(マタイ28:20)

2. 持っている賜物で奉仕する「それぞれが賜物を受けているのですから、神のさまざまな恵みのよい管理者として、その賜物を用いて、互いに仕え合いなさい。」(第1ペテロ4:10)

3. まず最初に神の御国を求めよ
恵みの御国に入り、その真の生きた一員となるのがまず第一のことである。
(マタイ6:33)

4. 神が予め備えられた業のうちに、
歩め 神は私達の奉仕が必要とされる状況において、私達を導き、奉仕の場を与えて下さる。神はまた、それを私達のために備えて下さる。(エペソ2:10)



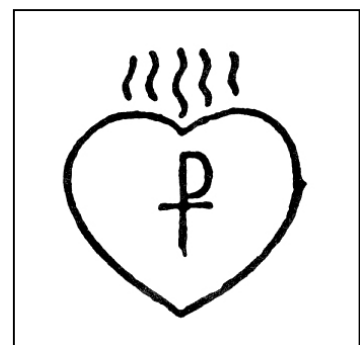
奉仕の様々な方法

本当の信者はどこでも必要ならば、喜んで助けたり奉仕をする。奉仕には4つの領域がある。

1. 祈りによる奉仕 これは基本的なもっとも大切な奉仕である。祈りは神の力を呼び起こし、またキリストを呼び起こし、人々を救い助ける。パウロはこれについて次のように書いている。

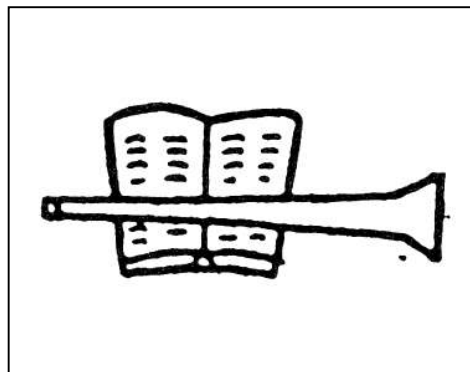
「… 私達のために祈って下さい。主の御言葉が、あなたがたのところと同じように早く広まり、又あがめられますように。」(第2テサロニケ3:1)

「すべてに祈りと願いを用いて、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのためには絶えず目を覚ましていて、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くし、また祈りなさい。」(エペソ6:17-18)



2. 証による奉仕 キリストを証する奉仕は第二番目に大切なクリスチャンの奉仕である。それを通して、神は人々を御国に召され、救われ、御自分の者として訓練される、また、それを通して信者の信仰は成長する。

イエスは「しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれる時、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、および地の果てにまで、私の証人となります。」(使徒1:8)と言われた。



「なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中から蘇えらせて下さったと信じるなら、あなたは救われるからです。」(ローマ10:9-10)

「…人を潤す者は自分も潤される。」(箴言11:25)

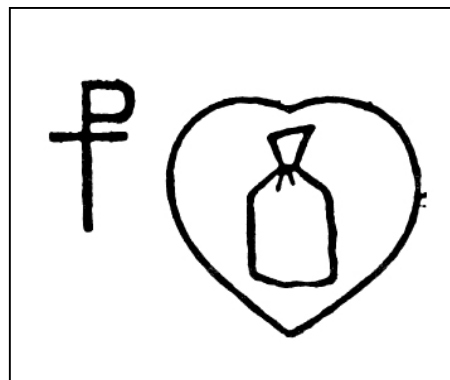
3. 一時的なものでの奉仕 お金やその他の物質的な手段は、福音を述べ伝える働きや物質的に乏しい人々に必要なものである。聖書は次のように言っている。

「世の富を持ちながら、兄弟が困っているのを見ても、哀れみの心を閉ざすような者に、どうして神の愛が留まっているでしょう。子供達よ。私達は、言葉や口先だけで愛することをせず、行ないと真実をもって愛そうではありませんか。」(第1ヨハネ3:17-18)

「あなたの財産とすべての収穫の初物で、主をあがめよ。そうすれば、あなたの倉は豊かに満たされ、あなたの酒ぶねは新しい葡萄酒で溢れる。」(箴言3:9-10)

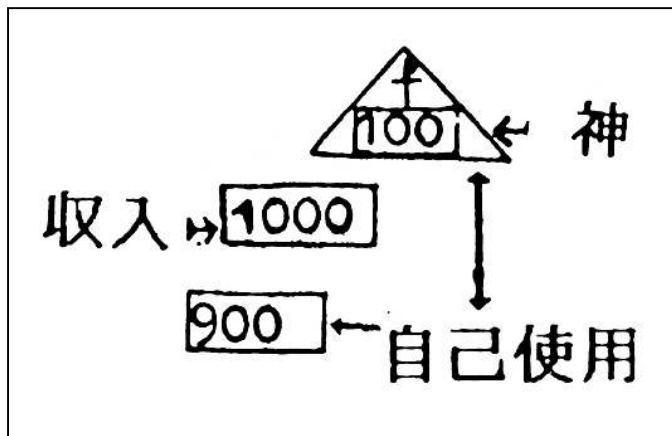
富（一時的な富）が心を支配しないように気をつけていなければならない。そうしないと、キリストが心の外に追い出されることになるからである。

「あなたの宝のあるところに、あなたの心もあるからです。… 誰も、ふたりの主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛したり、一方を重んじて他方を軽んじたりするからです。あなたがたは、神にも仕え、また富にも仕えるということはできません。」(マタイ6:21, 24)



パウロは次のように書いている。「この世に富んでいる人達に命じなさい。高ぶらないように、また、頼りにならない富に望みを置かないように、むしろ、私達にすべてのものを豊かに与えて樂ませせて下さる神に望みを置くように。また、まことの益をはかり、善い行ないに富み、惜しまずに施し、喜んで分け与えるように。また、まことの命を得るために、未来に備えてよい基礎を自分自身のために築き上げるように。」(第1テモテ6:17-19)

神はその民に少なくとも十分の一の収入を神の御国の働きのために捧げるよう定められた。神は残されたものを十二分に祝福されることを約束された。



「十分の一をことごとく、宝物倉に携えてきて、私の家の食物とせよ。」(マラキ3:10)

イエスは二度にわたって捧げ物を無視してはならないといわれた。(マタイ23:23; ルカ11:42) 捧げ物はイエスの弟子たちが守るべきであるという教えに含まれている。

4. 病人の助けと奉仕 私達の周りには病気の人、寂しい人、助けを必要とする人、また、苦しみにある人などがある。神は私達が祈りや私達に可能な色々な方法でそれらの人々を助けることを臨んでおられる。聖書は次のように言っている。

「父なる神のみ前できよく汚れの無い宗教は、孤児や、やもめたちが困っているときに世話をし、この世から自分をきよく守ることです。」(ヤコブ1:27)

最後の裁きのときにキリストの右手にいるものたちに向かって次のように言われるだろう。

「羊を自分の右に、山羊を左に置きます。そうして、王は、その右にいるものたちに言います。『さあ、私の父に祝福された人達。世の初めから、あなたがたのために備えられた御国を継ぎなさい。あなたがたは、私が空腹であった時、私に食べるものを与え、私が渴いていた時、私に飲ませ、私が旅人であった時、私に宿を貸し、私が裸の時、私に着るものを与え、私が病気をした時に私を見舞い、私が牢にいた時、私を訪ねてくれたからです。』…」人々がキリストの兄弟のうちの最も小さいものの一人に世話をしたか、あるいはそれをなおざりにしたかは、キリストに仕えたかそうではなかったということになる。(マタイ25:33-45)

パウロは次のように書いている。「ですから、私達は、機会のあるたびに、すべての人にたいして、特に信仰の家族の人達に善を行ないましょう。」(ガラテヤ6:10)

助けの必要とするクリスチャンたちを進んで助け、奉仕する心はキリストに対する特別な愛の証しである。

「私達は、自分が死から命に移ったことを知っています。それは、兄弟を愛しているからです。愛さないものは、死のうちに留まっているのです。」(第1ヨハネ3:14)

奉仕における忠実さと勤勉さ

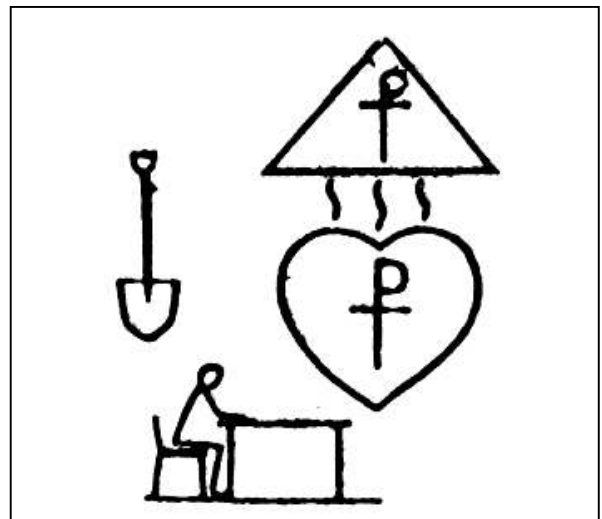
すべての仕事というものは何らかの意味で奉仕である。支配人であろうと、又、主任であろうと、肉体労働者であろうと、それぞれはその仕事において勤勉で忠実でなければならない。

「自分の仕事を怠けるものは、滅びをもたらすものの兄弟である。」(箴言18:9)

「主の御業をおろそかにするものは、呪われよ。その剣をとどめて血を流さないようにするものは、呪われよ。」(エレミヤ48:10)

「奴隷達よ。あなたがたは、キリストに従うように、おそれおののいて真心から地上の主人に従いなさい。人のご機嫌とりのような、うわべだけの仕方ではなく、キリストの僕として、心から神の御心を行ない、人にではなく、主に仕えるように、善意をもって仕えなさい。」(エペソ6:5-7)

「小さいことに忠実な人は、大きいことにも忠実であり、小さいことに不忠実な人は、大きいことにも不忠実です。」(ルカ16:10)



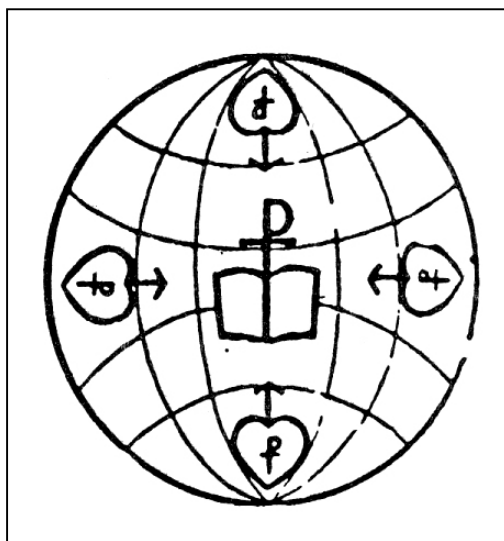
18. クリスチャンの一致

今日クリスチャンや教会の一致について多くの論争があり関心が払われている。このような教会の一致運動はいわゆるエキュメニカル運動と呼ばれるものである。

右に示す図は中心にあるキリストと聖書に向かっている信者を示している。

本当のクリスチャンの一致のみがキリストと聖書に忠実であることを可能にする。イエスは「大祭司の祈り」を次のように祈られた。

「私は彼らのためにお願いします。世のためにではなく、あなたが私にくださったものたちのためにです。なぜなら彼らはあなたのものだからです。私のものはみなあなたのもの、あなたのものは私のものです。そして、私は彼らによって栄光を受けました。私はもう世にいません。彼らは世にいますが、私はあなたのみもとに参ります。聖なる父。あなたが私に下さっているあなたの御名の中に、彼らを保って下さい。それは私達と同様に、彼らが一つとなるためです。私は彼らと一緒にいた時、あなたが私に下さっている御名の中に彼らを保ち、また守りました。彼らのうち誰も滅びたものはなく、ただ滅びの子が滅びました。それは、聖書が成就するためです。私はみもとに参ります。私は彼らの中で私の喜びが全うされるために、世にあってこれらのことを話しているのです。私は彼らにあなたの御言葉を与えました。しかし、世は彼らを憎みました。私がこの世のものでないように、彼らもこの世の者でないからです。彼らをこの世から取り去って下さるようというのではなく、悪いものから守って下さるようお願いします。私がこの世の者でないように、彼らもこの世の者ではありません。真理によって彼らをきよめ別して下さい。あなたの御言葉は真理です。あなたが私を世に遣わされたように、私も彼らを世に遣わしました。私は、彼らのため、私自身をきよめ別ちます。彼ら自身も真理によってきよめ別たれるためです。私は、ただこの人々のためだけでなく、彼らの言葉によって私を信じる人々のためにもお願いします。それは、父よ、あなたが私におられ、私があるように、彼らがみな一つとなるためです。また、彼らも私達におるようになるためです。そのことによって、あなたが私を遣わされたことを、世が信じるためなのです。」(ヨハネ 17:9-21)



イエスはここでイエスを信じる弟子達の一致のためにこのように祈られたが、その一致の原則は「あなたの御言葉(聖書)は真理です。」という告白に基づいている。イエスは決して、教会の合併とか組織の一致のために祈ったのではない。

すべての真のクリスチャンはキリストにあってすでに一つである。

「ユダヤ人もギリシャ人もなく、奴隷も自由人もなく、男子も女子もありません。なぜなら、あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって、一つだからです。」(ガラテヤ3:28)

聖書は虚実の一致にたいして警告しているし、またそれを禁じている。

「不信者と、釣り合わぬくびきと一緒につけてはいけません。正義と不法とに、どんなつながりがあるでしょう。光と暗闇とに、どんな交わりがあるでしょう。」(第2コリント6:14)

「兄弟達。私はあなたがたに願います。あなたがたの学んだ教えに背いて、分裂とつまづきを引き起こす人達を警戒して下さい。彼らから遠ざかりなさい。」(ローマ16:17)

「誰でも行き過ぎをして、(誤った方法で教理的に「進歩的な」)キリストの教えのうちにとどまらないものは、神を持っていません。その教えのうちにとどまっているものは、御父をも御子をも持っています。」(第2ヨハネ9)

イエスは「…もしあなたがたが、私の言葉にとどまるなら、あなたがたは本当に私の弟子です。そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」(ヨハネ8:31-32)

アウグスブルグ信仰告白は次のように述べている。「また、次のように教える。唯一の聖なるキリスト教会の真の一致のためには、福音がそこで純粋な理解にしたがって一致して説教され、聖礼典が神の御言葉にしたがって与えられるということでも十分である。人間によって定められた同じ形式の儀式が、どこでも守られるということは、キリスト教会の真の一致にとって必須ではない。それは、パウロがエペソ人への手紙4章(5、6節)に『体は一つ、霊は一つ。あなたがたが召しに預かる一つの望みに召されたのと同様に、主は一つ、信仰は一つ、洗礼は一つ』といているとおりである。」(第7条)

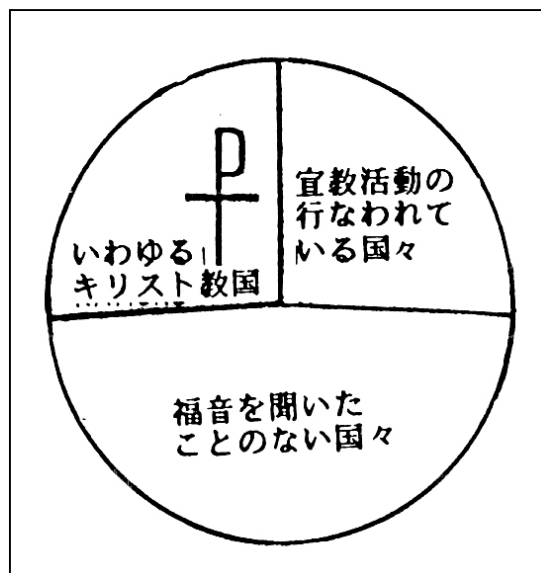
19. 海外宣教

死から蘇られた後、イエスは弟子達に言われた。

「それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によって、バプテスマを授け、また、私あなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。私は、世の終りまで、いつも、あなたがたとともにいます。」(マタイ28:19-20)

「全世界に出ていき、すべての造られたものに、福音をのべ伝えなさい。信じてバプテスマを受けるものは、救われます。しかし、信じないものは罪に定められます。」(マルコ16:15-16)

イエスは弟子達に「その(イエス)名によって、罪のゆるしを得させる悔い改めを、エルサレムから始まってあらゆる国の人々にのべ伝える」ように命令された。(ルカ24:47)



前ページの図は今日人類は三つのグループに分類することができることを示している。それらはいわゆるキリスト教国の国民、宣教活動が行なわれている国の国民、およびキリストの福音をまったく聞いたことのない国民である。福音をまったく聞いたことのない人々は第1、第2のグループの中にも存在する。事実、人類の約三分の二は福音をまったく聞いたことのない人々である。この世界には二千近くの小さな部族の人々は自分たちの言葉に翻訳され、印刷された聖書をいまだに手にしていない。イエスは次のように言われた。

「この御国の福音は全世界にのべ伝えられて、すべての国民に証しされ、それから、世の終りが来ます。」(マタイ24:14)

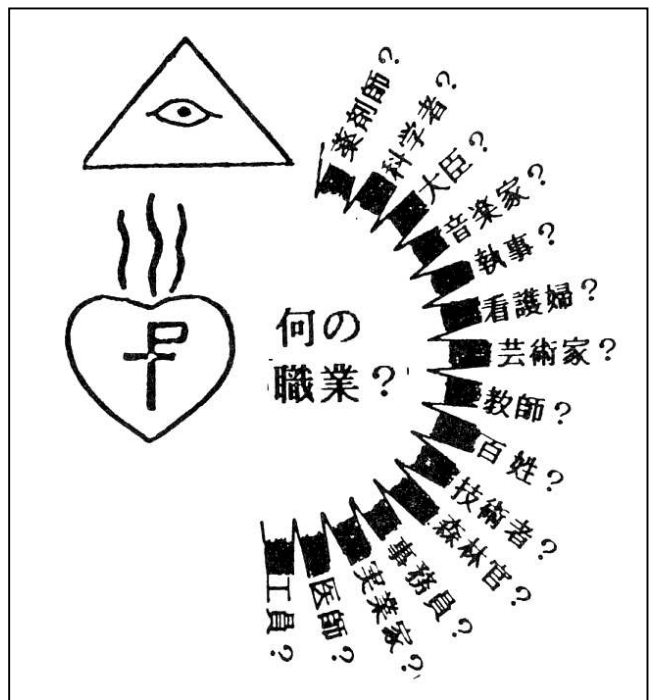
イエスが弟子たちにお与えになられた宣教の仕事は依然として終わっていない。キリストの教会のあ

るそれぞれの国において、イエスによって与えられた原則（ルカ24：47；使徒1：8）は守られなければならない。その宣教の業は信者の自分の「エルサレム」である、自分の町や、国から始められ、「地の果て」まで拡大されなければならない。国内宣教と海外宣教はともに手を取り合って行なわれなければならない。祖国の国民がまず伝道され、その国民を通してさらに他の国民が伝道されなければならない。伝道および宣教の対象となるのはキリストを知らない神の恵みの外側にいる人達のことである。従って、すべてのクリスチャンは自分の回りに、「宣教地」を持っていることになる。

宣教師として海外宣教地に送ることをお望みになられたものたちには神からの特別な召し与えられている。その人達が出て行く前に、彼らは必要な訓練を受ける。彼らはまた自分たちを経済的に、また祈りにおいて支えてくれる支援グループのクリスチャンたちが必要である。彼らは教会の団体や宣教会によって送られる。

原則的に、すべてのクリスチャンはキリストを知らない人々に福音を述べ伝えるために送られるものであるか、あるいは、祈りや他の手段でその海外宣教の業を支える、いわば「送り出す者」であるかのどちらかである。

普通、それぞれの者が一時的な命と人間社会において、「召し」を受けている。神の召しのうちのもっとも一般的なものは右の図に示すものである。この事柄においても、神はそれを祈り求めるものを導いて下さるが、一時的な命の他に、信者は祈り、言動をもってなされるキリストの証人としての神から、またキリストからのより高度な召しを受けている。



イエスは言われた。「あなたがたは、地の塩です。もし塩が塩気をなくしたら、何によって塩気をつけるでしょう。もう何の役にもたたず、外に捨てられて、人々に踏み付けられるだけです。あなたがたは、世界の光です。山の上にある町は隠れることができません。また、明かりをつけて、それを灯の下に置くものはありません。燭台の上に置きます。そうすれば、家にいる人々全部を照らします。このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたのよい行ないを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」
(マタイ5:13-16)

20. 結婚と家庭

創造の秩序としての結婚については第8章を参考にされたい。本来の神聖な秩序によると、結婚は一夫一妻であるべきである。つまり、男性と女性との間に成立するものであり、引き裂くことのできないものである。

「それで、もはや二人ではなく、一人なのです。こういうわけで、人は、神が結び合せたものを引き離してはなりません。」(マタイ19:6)

誰と結婚するのか

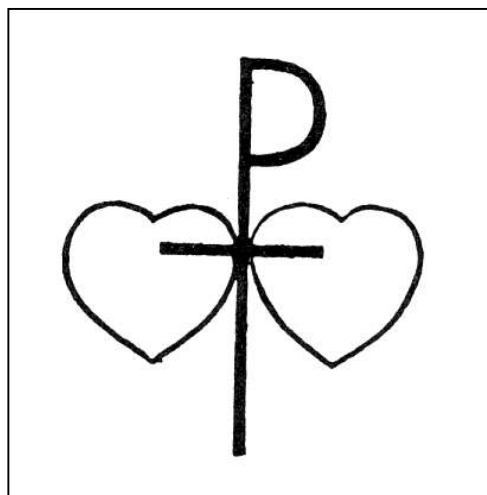
幸せな結婚の基本的な条件は宗教、人格、また教育の面で調和のうちに生活を共にすることである。

「不信者と、釣り合わぬくび木を一緒につけてはいけません。正義と不法とに、どんなつながりがあるでしょう。光と暗闇とに、どんな交わりがあるでしょう。」(第2コリント6:14)

もし、信者が不信者と結婚するとしたら、その信者は神の御言葉にたいして罪を犯すことになる。そのような人は神からの祝福を期待することはできない。神は戒めを破るものを罰せられるからである。

しかしながら、両方がクリスチャンであるというだけでは十分ではない。夫婦は同じ様な方法で、クリスチャンの真理や生活についての理解を持っている必要がある。教理的な、実践的な生活面での不一致は結婚生活に支障をもたらす。

聖書は「ただ主において、」(第1コリント7:39)の結婚の自由について述べている。このことはクリスチャンの男女が
1) 自分たちの結婚が神の御言葉に矛盾がないかどうか注意深く吟味することと、
2) このことにおける主の導きを求めることを意味している。



アブラハムの僕がイサクの花嫁を捜しに行ったとき、彼はただ主の導きを祈り求めただけでなく、彼はその娘がその態度や行動において、正しい人格の持ち主であるかどうか注意ぶかく観察した。(創世記24:13-21) このことは結婚を考えているものたちには大変重要なことである。また、両者の間に教養的なまた、文化的な面で、質的に、またレベル的にあまり大きな差があり過ぎるのは好ましくない。

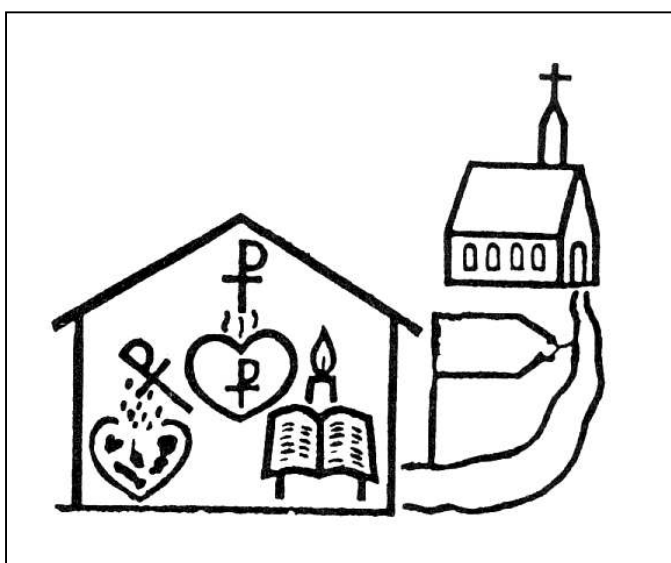
性的な関係は夫婦間のみ存在すべきものである。婚前交渉は姦淫である。このことに当てはまる聖書箇所はガラテヤ6:8である。

「自分の肉のために蒔くものは、肉から滅びを刈り取り、御霊のために蒔くものは、御霊から永遠の命を刈り取るのです。」

クリスチャンの家庭

右の図は最も大切なクリスチャン家庭の生活を示している。

1. キリストが家庭の最も高い位置に置かれ、キリストによって支配されていなければならない。配偶者は日々キリストとともに祈りの



交わりを持っていて、すべてのことにおいてキリストから恵み、助け、導き、および、力を求めながら、その御心を行なおうとするものでなければならない。すべてのことにおいて、夫婦は憂いや心配ごとを神に感謝しながら委ねるべきである。(ピリピ4:6)

2. 神の御言葉は家庭生活の光でありまた導きである。このためにすべてのことにおいて、御言葉を行なうことのできるように恵みを祈り求め、個人的にまた家族のデヴォーションとして祈りをもってみ言葉を読み学ばなければならない。

3. 家族のうちのあるものの心が罪によって汚された時はいつでも、イエスの血潮による赦しときよめを悔い改めの心で求めなければならない。もし家族の一員が何らかの形で他の者に罪を犯したとしたら、赦しを求めイエスの御名と血潮によって、その赦しを与えられるように願い求めるべきである。このような方法で罪の赦しを求め、イエスのみ名によって罪の赦しを与えられるということをご子供達に教え込むことは大変大切である。

家庭生活の罪のほとんどは「黄金律」である「それで、何事でも、自分にしてもらいたいことは外の人たちにもそのようにしなさい。これが律法であり預言者です。」(マタイ7:12)に反している。

家族のうちのあるものはよく他の者が嫌がることをするものである。

4. 家族の間に相互の愛と尊敬がなければならない。

「…私達は、言葉や口先だけで愛することをせず、行ないと真実をもって愛そうではありませんか。」(第1ヨハネ3:18)

「怒っても、罪を犯してはなりません。日が暮れるまで憤ったままでいてはいけません。悪魔に機会を与えないようにしなさい。盗みをしているものは、もう盛んではいけません。かえって、困っている人に施しをするため、自分の手をもって正しい仕事をし、骨折って働きなさい。悪い言葉を、いっさい口から出してはいけません。ただ、必要なとき、人の徳を養うのに役立つ言葉を話し、聞く人に恵みを与えなさい。神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、贖いの日のために、聖霊によって証印を押されているのです。無慈悲、憤り、怒り、叫び、そしりなどを、いっさい悪意とともに、みな捨て去りなさい。お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。… そういうわけですから、賢くない人のようではなく、賢い人のように歩んでいるかどうか、よくよく注意し、機会を十分にいかして用いなさい。悪い時代だからです。ですから、愚かにならないで、主の御心はなんであるかを、よく悟りなさい、また、酒に酔ってはいけません。そこには放蕩があるからです。御霊によって満たされなさい。詩篇と讚美と霊の歌とをもって、互いに語り、主に向かって、心から歌い、また讚美しなさい、いつでも、すべてのことについて、わたしたちの主イエス・キリストの名によって父なる神に感謝しなさい。キリストを恐れ尊んで、互いに従いなさい。

妻たちよ。あなたがたは、主に従うように、自分の夫に従いなさい。なぜなら、キリストは教会の頭であって、御自分がその体の救い主であられるように、夫は妻の頭であるからです。教会がキリストに従うように、妻も、すべてのことにおいて、夫に従うべきです。

夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のために御自身を捧げられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。キリストがそうされたのは、御言葉により、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、御自身で、しみや、しわや、そのようなものの何一つない、きよく傷のないものとなった栄光の教会を、御自分の前に立たせるためです。そのように、夫も自分の妻を自分の体のように愛さなければなりません。自分の妻を愛する者は自分を愛しているのです。だれも自分の身を憎んだ者はいません。かえって、これを養育

てます。それはキリストが教会をそうされたのと同じです。わたしたちはキリストの体の部分だからです。『それゆえ、人はその父と母を離れ、妻と結ばれ、二人は一心同体となる。』この奥義は偉大です。私はキリストと教会とをさして言っているのです。それはそうとして、あなたがたも、各々自分の妻を自分と同様に愛しなさい。妻もまた自分の夫を敬いなさい。』(エペソ4:26-32;5:15-33)

「結婚がすべての人にたつとばれるようにしなさい。寝床を汚してはいけません。なぜなら、神は不品行な者と姦淫を行なう者とを裁かれるからです。」(ヘブル13:4)

「しかし、上からの知恵は、第一に純真であり、次に平和、寛容、温順であり、また、哀れみと良い実とに満ち、えこひいきがなく、見せかけのないものです。」(ヤコブ3:17)

5. 家族は定期的に教会の礼拝に出席すべきである。統計的な調査によると、もし夫婦が定期的に礼拝に出席しているなら、離婚率は礼拝に出席しない夫婦の40分の1となっている。さらに、もし夫婦がともに祈りの生活を送っているなら、離婚率は400分の1という数字にまで減少する。

子供の訓練

親が子供達が定期的に日曜学校に、そして、その後には大人の礼拝に出席するようになるように気を配ることは大切である。これは神の御言葉の教えを守るための欠くことのできないものの1つである。

父親あるいは時によっては母親は「…家族に命じて主の道を守らせ、正義と公正とを行なわせる」(創世記)べきである。

「見なさい。私は、私の神、主が私に命じられた通りに、掟と定めとをあなたがたに教えた。あなたがたが、入って行って、所有しようとしているその地の真ん中で、そのように行なうためである。これを守り行ないなさい。そうすれば、それは国々の民に、あなたがたの知恵と悟りを示すことになり、これらすべての掟を聞く彼らは、『この偉大な国民は、確かに知恵のある、悟りのある民だ。』と言うであろう。誠に、私達の神、主は私達が呼ばわる時、いつも、近くにおられる。このような神を持っている偉大な国民が、どこにあるだろうか。又、今日、私があなたがたの前に与えようとしている、このみ教えのすべてのように、正しい掟と定めとを持っている偉大な国民、いったい、どこにあるだろう。ただ、あなたは、ひたすら慎み、用心深くありなさい。あなたが自分の目で見たことを忘れず、一生の間、それらがあなたの心から離れることのないようにしなさい。あなたはそれらを、あなたの子供や孫たちに知らせなさい。』(申命記4:5-9)

「私が今日、あなたに命じるこれらの言葉を、あなたの心に刻みなさい。これをあなたの子供達によく教え込みなさい。あなたが家に座っている時も、道を歩く時も、寝る時も、起きる時も、これを唱えなさい。これを印としてあなたの手に結び付け、記章として額の上に置きなさい。』(申命記6:6-7)

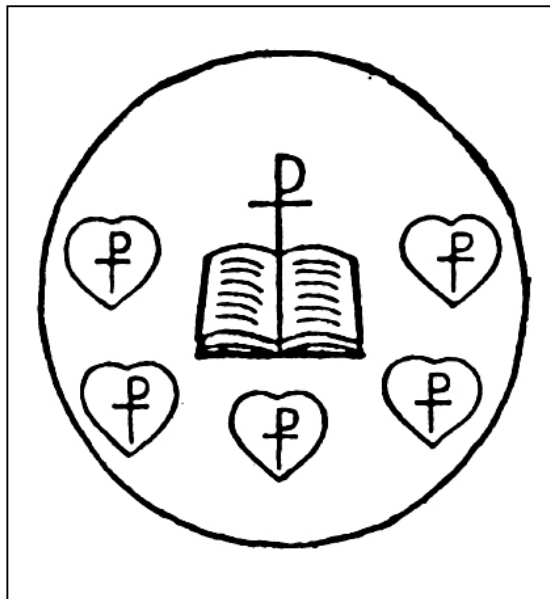
ルーテル教会においてこのことはルターの小教理問答書にある説明を使ってなされている。

「主はヤコブのうちにさとしを置き、御教えをイスラエルのうちに定め、私達の先祖達に命じて、これをその子らに教えるようにされた。後の世代の者、生まれてくる子らが、これを知り、彼らが興り、これをその子らにまた語り告げるため、彼らが神に信頼し、神の御業を忘れず、その仰せを守るためである。また先祖達のように、頑なで、逆らう世代の者、心定まらず、魂が神に忠実でない世代の者とならないためである。」(詩篇78:5-8)

「若者をその行く道にふさわしく教育せよ。そうすれば、年老いても、それから離れない。」(箴言22:6)

「子どもたちよ。主にあって両親に従いなさい。これは正しいことだからです。『あなたの父と母を敬え。』これは第一の戒めであり、約束を伴ったものです。すなわち、『そうしたら、あなたは幸せになり、地上で長生きする。』という約束です。父たちよ。あなたがたも、子どもを怒らせてはいけません。かえって、主の教育と訓戒によって育てなさい。」(エペソ6:1-4)

キリストと聖書が全家族（父、母、子供達、右図参照）の中心であり、また光であり、導きである時、神の祝福は家族の上にある。そのような状態にある家族は天の御国に向かって、人生の旅路を続けることができる。また、このような家庭は教会生活や、その活動において大きな役割を果たすことができ、他の人々への祝福となる。



2 1. 政治的国家社会におけるクリスチャン

政治的国家社会は平和と秩序を維持するための、又人間の地上での生活にとって必要なよき事柄を促進させるための神のお立てになったものである。

それについて聖書は次のように言っている。

「人はみな、上に立つ権威に従うべきです。神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられたものです。」(ローマ13:1)

イエスは「… カイザルの者はカイザルに返しなさい。そして神のものは神に返しなさい。」(マタイ22:21)

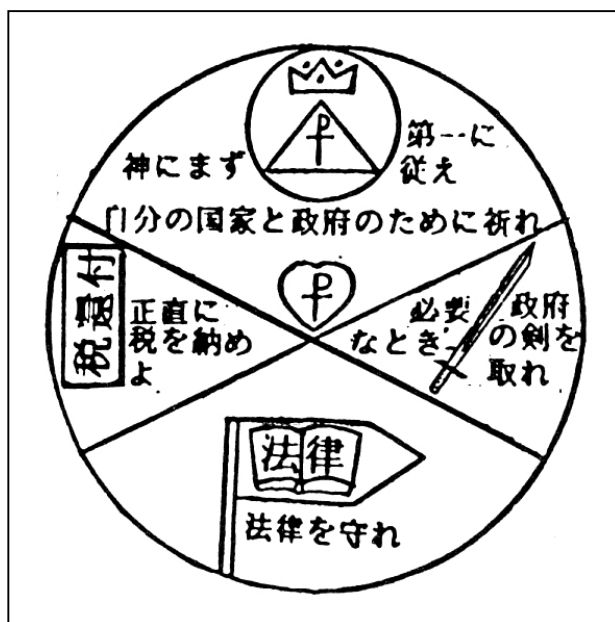
聖書によるとクリスチャンは政治国家に対して次のような義務がある。

1. 政府や政治当局者のために祈る。

パウロは「そこで、まず初めに、このことを勧めます。すべての人のために、また王とすべての高い地位にある人達のために願い、祈り、とりなし、感謝がささげられるようにしなさい。それは、私達が敬虔に、また、威厳をもって、平安中で静かな一生を過ごすためです。」(第1テモテ2:1-2)

2. 国家の法律と定めに従う。

「人の立てたすべての制度に、主のゆえにしたがいなさい。それが主権者である王であってもまた、悪を行なう者を罰し、善を行なう者を誉めるように王から使われた総督であっても、そうしなさい。」(第1ペテロ2:13-14)



「人はみな、上に立つ権威に従うべきです。神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられたものです。従って、権威に逆らっている人は、神の定めに従っていないのです。背いた人は自分の

身に裁きを招きます。支配者を恐ろしいと思うのは、よい行ないをする時ではなく、悪を行なう時です。権威を恐れたくないと思うなら、善を行ないなさい。そうすれば、支配者から誉められます。それは、彼があなたに益を与えるための、神の僕だからです。しかし、もしあなたが悪を行なうなら、恐れなければなりません。彼は無意味に剣を帯びてはいないからです。彼は神の僕であって、悪を行なう人には怒りをもって報います。」(ローマ13:1-5)

3. 国家によって要求された税を正直に納め、その他の義務を果たす。

「同じ理由で、あなたがたは、貢ぎを納めるのです。彼らは、いつもその努めに励んでいる神のしもべなのです。あなたがたは、誰にでも義務を果たしなさい。貢ぎを納めなければならない人には貢ぎを納め、税を納めなければならない人には税を納め、恐れなければならない人を恐れ、敬わなければならない人を敬いなさい。」(ローマ13:6-7)

4. クリスマンとして国家の役人、政治家、裁判官、軍人などに従事することは許されている。

以上引用されている聖書の発言は、政府当局者途が善良な市民のために神によって立てられた僕であることを意味している。(ローマ13:4) ローマ兵の百卒長達がイエスを信じた時、彼らは自分たちの職業を続けることを許された。(マタイ8:5; 使徒10) バプテスマのヨハネは軍人達に自分たちの職業を捨てないで、それを正しく行なうように諭した。また、これと同じ様なことを取税人に勧めた。(ルカ3:12-14) ピリピの看守がキリストに回心した時も明らかに彼はその仕事を続けたと考えることができる。(使徒16:27-34)

アウグスブルグ信仰告白は次のように説明している。「国の秩序とこの世の支配については、次のように教える。すなわち、この世におけるすべての権威と定められている支配と律法とは、神によって造られ、設定されたよい秩序である。またキリスト者は、政府、諸侯や裁判官の地位に、罪を犯すことなく着くことが出来、帝国法、又はその他の法にしたがって、判断や判決をし、悪人を剣によって罰し、正しい戦争を行ない、戦い、売買し、求められる宣誓をし、(ちょうどイエスが大祭司の前でなされたように)、財産を持ち、結婚するなどのことをしてもよい。」(第16条)

しかしながら、クリスマンの最も高い権威は神である。もし政治的指導者や権威者がクリスマンたちに神の御言葉に矛盾することを要求する時はいつでも、キリストの弟子たちが言ったようにクリスマンは「人に従うより、神に従うべきです。」(使徒5:29)と断言すべきである。

2.2. 神の選びと人の責任

右に示す図において、表わされた3つの聖書的な真理はクリスマンの考え方に問題を引き起こしがちであるが、聖書は次のように教えている。

1. 罪人の救いの最終的な要因となるのは神の永遠の選びである。

「神は予め定めた人々を更に召し、召した人々を更に義と認め、義と認めた人々には更に栄光をお与えになりました。」(ローマ8:30)

「従って、事は人間の願いや努力によるのではなく、哀れんでくださる神によるのです。」(ローマ9:16)

「それと同じ様に、今も、恵みの選びによって残された者がいます。」(ローマ11:5)

「ではどうなるでしょう。イスラエルは追い求めていたものを獲得できませんでした。選ばれたものは獲得しましたが、他の者は、頑なにされたのです。」(ローマ11:7)

「異邦人達は、それを聞いて喜び、主の御言葉を賛美した、そして、永遠の命に定められていた人達は、みな、信仰に入った。」(使徒13:48)

2. 信仰を通しての救いは御言葉による神の御業である。

イエスは「また、その御言葉をあなたがたのうちにとどめてもいません。父が遣わしたものをあなたがたが信じないからです。…私を遣わした父が引き寄せられない限り、誰も私のところに来ることはできません。私は終りの日にその人をよ

みがえらせます。…それだから、私はあなたがたに、『父の御心によるのでない限り、誰も私のところに来ることはできない。』と言ったのです。」(ヨハネ6:37、44、65)

「しかし、哀れみ豊かな神は、私達をキリストとともに生かし、——あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです。——キリスト・イエスにおいて、ともに蘇らせ、ともに天のところに座らせて下さいました。それは、後に来る世々において、この優れて豊かな御恵みを、キリスト・イエスにおいて私達に賜る慈愛によって明らかにお示しになるためでした。あなたがたは恵みのゆえに信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。」(エペソ2:4-8)

クリスチャンは「信仰により、神のみ力によって守られており、終りの時に現わされるように用意されている救いをいただくのです。」(第1ペテロ1:5)

「私の羊はわたしの声を聞き分けます。また私はかれらを知っています。そしてかれらは私について来ます。私はかれらに永遠の命を与えます。かれらは決して滅びることがなく、また、誰も私の手からかれらを奪い去るようなことはありません。私にかれらをお与えになった父は、すべてに優って偉大です。誰も私の父の御手からかれらを奪い去ることはできません。」(ヨハネ10:27-29)

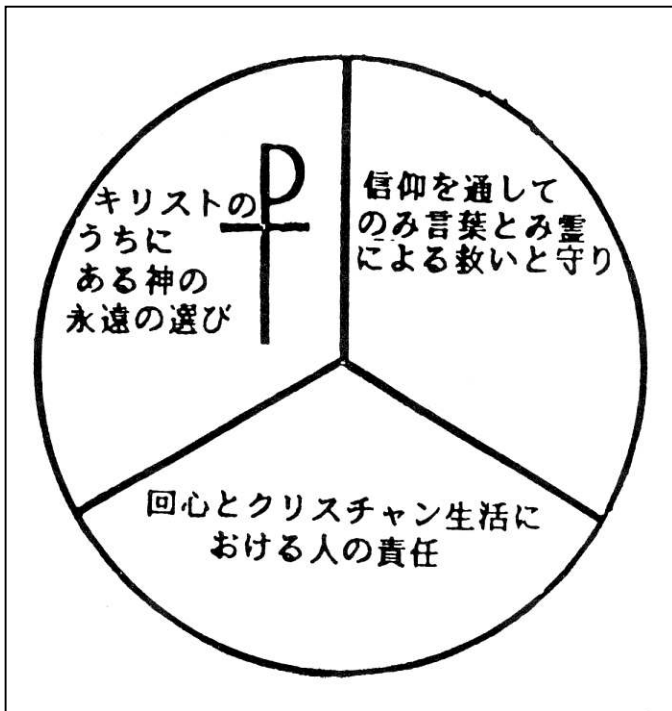
3. 人は自分の救いと信仰に留まる責任がある。

「私は、今日、あなたがたに対して天と地とを、証人に立てる。私は、命とし、祝福と呪を、あなたの前に置く。あなたが命を選びなさい。あなたもあなたの子孫も生き、あなたの神、主を愛し、御声に聞きしたが、主にすがるためだ。確かに主はあなたの命である、あなたは主が、あなたの先祖、アブラハム、イサク、ヤコブに与えると誓われた地で、長く生きて住む。」(申命記30:19-20)

「主を求めよ。お会いできる間に。近くにおられるうちに、呼び求めよ。悪者はおのれの道を捨て、不法者はおのれの計り事を捨てなさい。主に帰れ。豊かに赦して下さいから。」(イザヤ55:6-7)

「私の名を呼び求めている私の民が自ら遜り、祈りを捧げ、私の顔を慕い求め、その悪い道から立ち返るなら、私が親しく天から聞いて、かれらの罪を赦し、かれらの地を癒そう。今や、私はこの所で捧げられる祈りに目をとめ、耳を傾けよう。」(第2歴代誌7:14)

「ああ、エルサレム、エルサレム。預言者を殺し、自分の遣わされた人たちを石で打つもの、私は、めんどり



が雛を翼の下にかばうように、あなたの子らをいくたび集めようとしたことか。それなのに、あなたがたはそれを好まなかった。」(ルカ13:34)

「今日、もし御声を聞かならば、荒野での試みの日に御怒りを引き起こした時のように、心を頑なにしてはならない。」(ヘブル3:7)

「ですから、私たちは聞いたことを、益々しっかり心にとめて、押し流されないようにしなければなりません。」(ヘブル2:1)

「そういうわけですから、愛する人たち、いつも従順であったように、私がいる時だけでなく、私のいない今はなおさら、恐れおののいて自分の救いを達成してください。神は、御心のままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、ことを行なわせてくださるのです。」(ピリピ2:12-13)

私たちの理性や論理によって、神の選びおよび恵みと私たちが救いと信仰にとどまらなければならないという責任との間の「摩擦」を解決することはできない。神は私たちがあえてこのような摩擦の中に生きていかなければならないようにされた。しかしそうすることが結局、私達にとってよいことであり、また健康的なことである。私たちは全面的にキリストのうちにある恵みと御言葉を通しての霊に依存している。しかしそれと同時に、私たちは回心と信仰にとどまることに対する責任がある。

信仰と恵みからの墮落の例

サウロ王は神の霊を受けて新しい人となったが、彼が神に不従順になり、真剣に悔い改めなかったがために、神は彼を見捨てられた。その後彼は悪魔の力のもとに生き、あげくの果てには、自殺してしまった。(第1サムエル9-12、15-16、18-31)

ガラテヤのクリスチャンのほとんどが「別な福音」に向かって行ってしまい、恵みとキリストから離れてしまった。(ガラテヤ1:3-4; 第1コリント16:1)

パウロの時代のあるクリスチャンはよき良心を捨てたがために信仰の破船に会ってしまった。(第1テモテ1:19-20) 使徒パウロはあるクリスチャンが「道をふみはずし、サタンのあとについていった。」と告げている。(第1テモテ5:15)

第2ペテロ2:19-20でキリストを知り、世の汚れから逃れたにもかかわらず、再びそれらの世的な汚れに入り込み支配されてしまった人たちのことが書かれている。

ヘブル6:4-8および10:26-31ではイエスの血潮によって、目が開かれ、きよめられた人たちが罪に満ちた生活に戻り、そのことによって、キリストを踏みにじり、キリストの血潮をごくありふれたことのように考え、恵みの聖霊を侮辱している人たちのことが書かれている。彼らは再び悔い改めるのには不可能な状態に陥ってしまっている。

このような危険な状態に私たちが陥る可能性に対して、パウロは次の様に警告している。「ですから、立っていると思うものは、倒れないように気をつけなさい。」(第1コリント10:12)

イエスは「誘惑に陥らないように、目を覚まして祈っていなさい。心は燃えていても、肉体は弱いのです。」と言われた。(マタイ26:41)この他エゼキエル33:5-19および、第1コリント9:27を参照されたい。

23. 肉体的な死とそれに続くもの

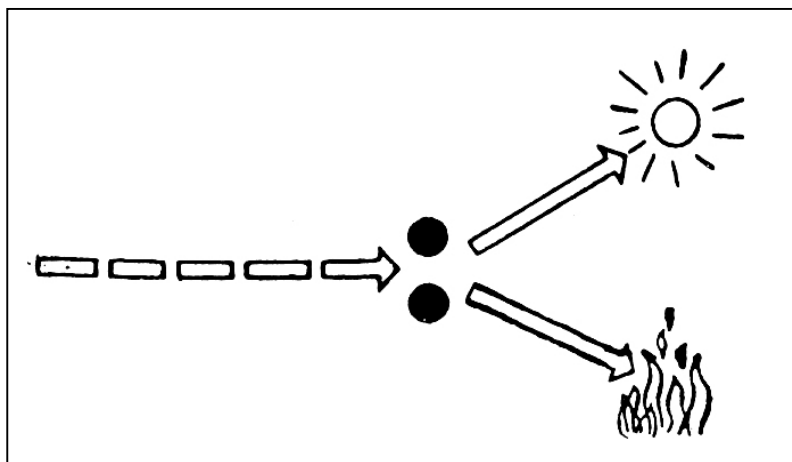
最初の人々が罪を犯した後に神はアダムに言われた。

「あなたは、顔に汗を流して糧を得、ついに、あなたは土に帰る。あなたはそこからとられたのだから。あなたは塵だから、塵に帰らなければならない。」(創世記3:19)

詩篇90:3、10でモーセは「あなたは人を塵に帰らせて言われます。『人の子らよ、帰れ。』…私たちの年齢は70年。すこやかであっても80年。しかも、その誇りとするところは労苦と災いです。それは早く過ぎ去り、私たちも飛び去るのです。」

伝道の書3:21には「誰が知っているだろうか。人の子らの霊は上に上り、獣の霊は地の下に降りて行くのを。」と書いてある。

人間の体は地上の物質から成っている「塵」で造られている。そして死んだとき、それは「塵」に戻る。神が創造において、御自分の息を人に吹きこまれた時、人は生命を得た。(創世記2:7) 人の魂あるいは霊は肉体的な体が生きるのを終えた時に死んでしまうわけではない。神は「人の心に永遠への思いを与えられた。」(伝道の書3:11) 肉体的な死において、「霊はこれをくださった神に帰る。」のである。(伝道の書12:7)



人の物質的な体が死ぬ時、人の霊はその体を去り、見えない世界で意識のある生活をし続けることになる。イエスはルカ16:19-31のなかで、不信者の魂がハデスに行ったことを語っている。そのハデスのなかで不信者たちが逃れることのない炎の中であがき苦しむのである。金持ちの不信者たちはこのようなハデスに行くことを余儀なくされている。彼らは地上にいる間悔い改めず、信じなかったからである。一方、信者であるラザロは御使いによって「アブラハムのふところ」に連れて行かれ安らぎを受けるのである。悔い改めてイエスを信じた犯罪人はイエスの言われた「パラダイス」に行くことができた。(ルカ23:43) パウロは死後の自分の期待を次の様に語っている。

「わたしたちはいつも心強いのです。そして、むしろ肉体を離れて、主のみもとにいる方がよいと思っています。」(第2コリント5:8)

「わたしは、その二つのものの間に板ばさみとなっています。私の願いは、世を去ってキリストとともにいることです。実はその方が、遥かに優っています。」(ピリピ1:23)

このような信者と不信者の状態は死からの復活にいたるまで続くことになっている。

イエスは「このことに驚いてはなりません。墓の中にいる者が皆、この声を聞いて出て来る時が来ます。善を行なった者は、蘇って命を受け、悪を行なった者は、蘇って裁きを受けるのです。」と言われた。(ヨハネ5:28-29)

義人の蘇りとそうでない者との蘇りはそれぞれ異った時に起こる。

「しかし、おのおのにその順番があります。まず初穂であるキリスト、次にキリストの再臨の時キリストに属し

ている者です。」

「主は号令と御使いの頭の声と、神のラツパの響きのうちに、御自身天からくだってこられます。それからキリストにある死者が、まず初めに蘇り、次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らと一緒に雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主と共にいることになります。」(第1テサロニケ4:16-17)

「その他の死者は、千年の終るまでは、生き返らなかった。これが第一の復活です。」(黙示録20:5)そしてその千年後、「また私は、死んだ人々が、大きいものも、小さいものも御座の前に立っているのを見た。そして、数々の書物が聞かれた。また、別の一つの書物も開かれたが、それは、命の書であった。死んだ人々は、これらの書物に書き記されているところにしたがって、自分の行ないに応じて裁かれた。海はその中にいる死者を出した。そして人々は各々自分の行ないに応じて裁かれた。それから、死とハデスとは、火の他に投げ込まれた。これが第二の死である。命の書に名の記されていないものは皆、この火の池に投げ込まれた。」(黙示録20:12-15)

2.4. この世とキリスト信仰における最後の出来事

この時代の最後の時に関する聖書的な預言は特にイスラエルについて、又その政治的状況およびキリスト信仰における発展経過について語っている。

A. イスラエル

申命記4:26-31; 28:20-68; 30:1-10; エゼキエル36:-39; イザヤ11:11-14; エレミヤ16:15-16; ヨエル3; ゼカリヤ12-13およびローマ11:1-25によるとイスラエルの歴史上主な出来事は次にあげる三つのものである。

1. イスラエルの不従順、偶像礼拝やキリストに背を向けたために、世界各地に散らされる結果となった。イスラエルは迫害のために苦しんでいる。

2. 現代における最後の段階で相当数のユダヤ人が自分たちの独立国家を打ち立てるためにパレスチナに帰還する。

3. マゴグの国のゴグによって率いられた多くの国民はイスラエルに対抗してゴグの戦争を引き起こすがその軍隊は完全に打ちのめされる。この戦争後、神はイスラエルの上に御自身の霊を注がれる。その時イスラエルの民は悔い改めて、キリストに帰る。その後、このことは他の国民にとっても祝福となる。(ゼカリヤ8:13) ルカ13:35参照

B. 政治的世界

ダニエル2:33-35、41-44; 7:8、11、20-25; 黙示録13:1-8、12-18; 17:3; 10-17によると、この時代の最後の段階には(その期間は大体人の寿命の70-80年ぐらいと思われる)神に逆らう者の世の権力が興る。黙示録17:3はその権力を深紅の獣として描いている。その支配のもとにキリストとキリストの教会に対して戦いを挑む。その権力は次にあげる終末時における三つの戦争において主導的な役割を果たすことになっている。

- (1) イスラエルに対するゴグの戦争
- (2) 第三次世界大戦
- (3) 真のキリストの教会に対するハルマゲドンの戦い

しかし、その支配はこの戦争の真っ最中に起るキリストの再臨によって終りを告げる。(黙示録 16 : 16 ; 19 : 19 - 21)

C. 反キリスト者とその「バビロン」の背教者の教会

キリスト教会時代の死後の段階において、多くの者を、時にはキリストによって選ばれた者さえも惑わす、偽キリストや偽預言者たちが現れる。(マタイ 24 : 5 ; 11、24) これらの偽教師たちは「反キリスト者」と呼ばれる。多くの前兆的な反キリスト者や聖書的なキリスト信仰に背を向けた背教者の代表者たちの後に、最終的な反キリスト者が現われる。(第1ヨハネ 2 : 18 ; 4 : 3) 反キリスト者たちは不真実なキリストの外側にある教会から出てくるものたちであり、教会で教師として居座っている。(第1ヨハネ 2 : 19 ; 第2ヨハネ 7) 彼らは何らかの方法で、キリストを否定し、聖書的な真理に対する背教と、神の定めや律法を無視する不法を代表する者たちである。パウロはこの最終的な反キリスト者たちを「不法の人」と呼んでいる。(第2テサロニケ 2 : 3 - 12) 黙示録 13 : 11 - 17では反キリスト者を地から(教会から)出てくる獣と描写している。それは羊のように二本の角を持っていて、自分がキリストあるいは地上での最高の権威者であるように主張しているが、その話し方は竜のようである。その偽もののキリスト教は悪魔にその源を発している。それは深紅の政治的な世の力と共に働き、神を拒む政治組織に支援するよう人々をそそのかすプロパガンダである。

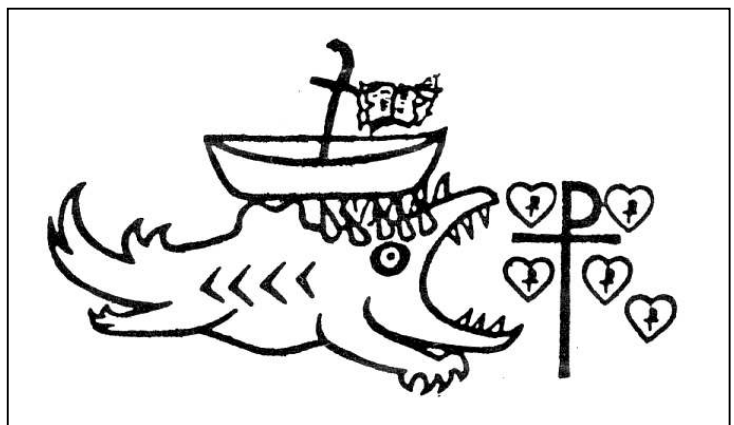
「大バビロン」である大淫婦は深紅の獣や他の政治的な権力との姦淫である偽りの協力を行なっている。(黙示 17 : 1 - 6) これは反キリスト者によって率いられた背教団体であることである。その本質は次の四つの「席」によって象徴されている。

1) 反キリスト者は神の宮である教会に居座っていて、主導権を持つ最も高い地位にあると主張している。彼は神の御言葉を越えた教えや定めによって神の上に自分を置いている。(第2テサロニケ 2 : 4)

2) 大淫婦の教会は「諸々の民族、群衆、国民、国語のある大水の上」に座っている。(黙示 17 : 1、15) 反キリスト者である背教団体は多くの国民と国語から成り立っている。

3) この「バビロンの淫婦」は七つの山の上に座っている。(黙示録 17 : 9) 反キリスト者の居場所は七つの山のあるローマ市である。

4) 反キリスト者とその教会は十本の角を持った深紅の獣の上に座っている。(黙示録 17 : 3) これらの赤い権力と協力しつつ、背教者である背教団体は真のクリスチャンを「聖徒たちの血とイエスの証人たちの血に酔って」迫害する。(黙示録 17 : 3、6)



右図は十字架のついた船が真実のキリスト教会を飲み込もうとしている十本の角を持つ獣の背中に乗っている背教団体が象徴的に描かれて

いる。その船の歪んだ十字架は背教団体にごく、ありふれた真実のキリスト信仰の歪曲を象徴している。そして引き裂かれた聖書は背教団体に支配的な破壊的な聖書批判を表わしている。

キリストとキリスト教会に忠実な真の教会およびクリスチャンは深紅の獣と姦淫の教会の両方がクリスチャンを迫害する最後の時の段階（おそらく三年半：ダニエル7：25；黙示11：2参照）で「ひどい痛み」を受けることになる。（マタイ24：9；ルカ21：17；黙示7：14）

D. ハルマゲドンの戦いとキリストの再臨

深紅の獣と反キリスト者たちは聖書的な信仰を破壊するための最終的な努力をしつつあり、この世の政治的、宗教的な反キリスト者の勢力を結集することに力を合せている。このハルマゲドンの戦い（黙示録16：16）は全世界を巻き込むものである。その戦争の名は普通「メギドの山」と訳されているが、あくまで象徴的なものである。それはまた、「軍隊を召集する山」とかまた、「敵軍の山」という意味である。教会はただ霊的な武器のみを持っている。すなわち、

- (1) み言葉（み霊の剣）
- (2) 祈り
- (3) 動じないで痛みを受けることの三つである。

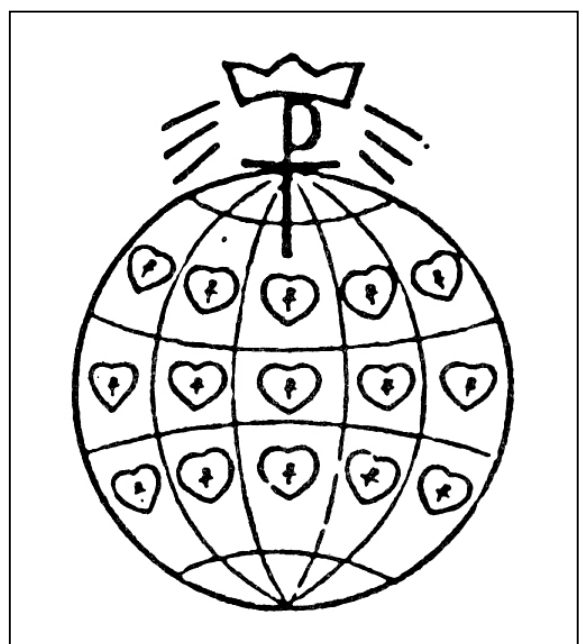
人間的な見方では全く希望のない「真夜中」（マタイ25：6）のような状況に思える。しかしキリストが偉大な力と栄光のうちに御使いらと共に再びやって来る時、御自分の民を取り上げられる。（マタイ：24：29-31；第1テサロニケ4：16-17）深紅の獣と偽預言者である反キリスト者達は捕らえられ、硫黄の火の燃え盛る湖に投げ込まれ、その軍隊はキリストの口から出る剣（み言葉黙示19：19-21）によって殺される。右の図はこれらの出来事を象徴的に表わしている。



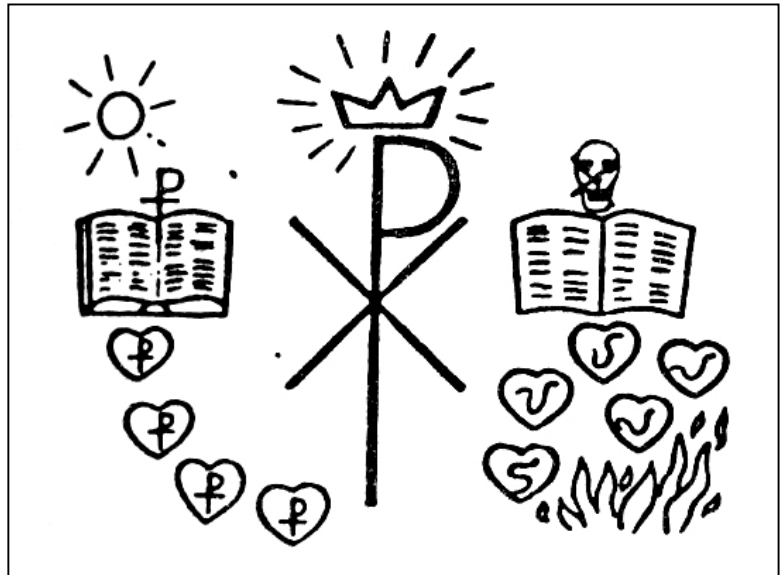
25. 千年王国、最後の裁き、および新しい地

天の御使いがサタンを縛りあげ、千年の間底知れぬ所に投げ込む。それはサタンがその間諸国民を惑わさないようにするためである。殉教した者、あるいは忠実なキリストの僕たちは千年の間キリストと共に生き、支配するようになる。そして後の残りの者はその千年が過ぎるまで生きることはない。死から蘇った聖徒たちは全地上で神とキリストの祭司となり、千年の間を神と共に治めることになる。これ以外の預言的な描写は（図で象徴的に示されているように）イザヤ2：2-4；ミカ4：1-5；イザヤ11：1-10；65：17-25；ゼカリヤ14：8-21にも見られる。

「しかし千年の終りに、サタンはその牢から解き放され、



地の四方にある諸国の民、すなわち、ゴグとマゴグを惑わすために出ていき、戦いのために彼らを召集する。彼らの数は海辺の砂のようである。彼らは、地上の広い平地に登って来て、聖徒たちの陣営と愛された都とを取り囲んだ。すると、天から火が降って来て、彼らを焼き尽した。そして、彼らを惑わした悪魔は火と硫黄の池に投げ込まれた。そこは獣も、にせ預言者もいる所で、彼らは永遠に昼も夜も苦しみを受ける。また私は大きな白い御座と、そこに着座しておられる方を見た。地も天もその御前から逃げ去って、跡形もなくなった。」(黙示録20:7-11)



現在の天地は第2ペテロ3:7; 10-12で預言されている。

「しかし、いまの天と地は、同じ御言葉によって、火に焼かれるためにとっておかれ、不敬虔な者どもの裁きと滅びとの火まで、保たれているのです。…しかし主の日は盗人のようにやって来ます。その日には天は大きな響きをたてて消えうせ、天の万象は焼けて崩れ去り、地と地のいろいろな業は焼き尽くされます。このように、これらのものはみな、崩れ落ちるものだとすれば、あなたがたは、どれほどきよい生き方をする敬虔な人でなければならないことでしょう。」

最後のさばきはマタイ25:31-46および黙示録20:11-15に書かれている。これらの二つの聖書箇所は互いに補い合うものである。

マタイ25:34-36と40-45の御言葉はそれぞれ異なった運命に対する理由が二つあるということを示している。

1) 恵みの時に救われた者は赦しと聖霊の祝福を受けた。一方、裁きのもとにある者は福音によって提供された祝福を拒んだのである。

「彼はまた呪うことを愛したので、それが自分に帰って来ました。祝福することを喜ばなかったので、それは彼から遠くはなれました。」(詩篇109:17)

2) この結果と証拠は彼らの自己中心的な愛の無さであり、特にキリストの者たちに対して愛の助けを示さなかったということである。イエスはまた、「あなたがたは、実によって彼らを見分けることができます。」(マタイ7:20)と言われた。

黙示録20:12-15の御言葉は決定的なことが二つあることを示している。

1) その人の名前が命の書にあるか否かである。この本には罪を悔い改めたために、イエスの御名と血潮によって罪の赦しを頂き、義とされ、「…その衣を小羊の血で洗って、白くしたのです。」黙示録7:14また、22:14を見よ) 同時に、御霊を受け取った人たち(「キリストの霊を持たない人はキリストのものではありません。」ローマ8:9)の名が載せられている。

2) このことは人が特に神の子どもたちに対して善を行なったかあるいは悪を行なったかということで明かになる。

永遠の運命は栄光の御国での永遠の命か火の池の永遠の刑罰かのどちらかに定められている。

永遠の命を受け継ぐものたちは新しい地と天からくだって来る新しいエルサレムの町に住むことになっている。彼らは何の悲しみも痛みもなく、命の川から自由に命の水を受け取ることができる。その新しい地と新しいエルサレムは神とキリストの光りのもとに生きることができる。

「犬ども、魔術を行なう者、不信仰の者、人殺し、偶像を拜む者、好んで偽りを行なう者はみな、外に出される。」(黙示録22:15)

「しかし、臆病者、不品行の者、憎むべき者、人を殺す者、不品行の者、魔術を行なう者、偶像を拜むもの、すべて偽りを言う者どもの受ける分は、火と硫黄との燃える他の中にある。これが第二の死である。」(21:8)

新しい天と新しいエルサレムについて、黙示録21:3-4、6は次のように言っている。

「その時私は、御座から出る大きな声がこう言うのを聞いた。『見よ。神の幕屋が人とともにある。神はかれらと共に住み、彼らはその民となる。また、神ご自身が彼らと共におられて、彼らの目の涙をすっかり拭い取ってください。もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみもない。なぜなら、以前のものが、もはや過ぎ去ったからである。』… わたしは渇く者には、命の水の泉から、価なしに飲ませる。」